2019 年度

高崎健康福祉大学大学院
保健医療学研究科

シラバス

（修士課程）

高崎健康福祉大学
Takasaki University of Health and Welfare

目次

保健医療統計特論.....1
チーム医療特論.....4
チーム医療アプローチ特別演習.....6
地域支援学特論.....10
健康科学特論.....12
病態生理学特論.....15
医療栄養学特論.....18
薬物動態学特論.....21
医療倫理学特論.....23
症状マネージメント特論.....25
英文読解・英作文の技法.....28
看護学研究法.....30
クリティカルケア看護学特論Ⅰ.....34
がん看護学特論Ⅰ.....36
老年看護学特論.....38
母子看護学特論Ⅰ.....41
精神看護学特論.....44
在宅看護学特論.....45
看護管理学特論Ⅰ.....47
看護技術学特論Ⅰ.....49
地域看護学特論.....51
国際看護学特論Ⅰ.....53
クリティカルケア看護学特論Ⅱ.....56
クリティカルケア看護学演習Ⅰ.....58
クリティカルケア看護学演習Ⅱ.....60
クリティカルケア看護学演習Ⅲ.....61
がん看護学特論Ⅱ.....62
がん看護学演習Ⅰ.....64
がん看護学演習Ⅱ.....66
がん看護学演習Ⅲ.....67
地域・精神看護学特論.....68
地域・精神看護学演習Ⅰ.....70
地域・精神看護学演習Ⅱ.....71
地域・精神看護学演習Ⅲ.....73
母子看護学特論Ⅱ.....74
母子看護学演習Ⅰ.....77
母子看護学演習Ⅱ.....80
母子看護学演習Ⅲ.....83
看護技術学特論Ⅱ.....86
看護技術学演習Ⅰ.....88
看護技術学演習Ⅱ.....90

看護技術学演習Ⅲ.....92
国際看護学特論Ⅱ.....93
国際看護学演習Ⅰ.....96
国際看護学演習Ⅱ.....98
国際看護学演習Ⅲ.....99
看護実践開発科学特別研究.....100
看護実践開発科学特別研究.....102
看護実践開発科学特別研究.....104
看護実践開発科学特別研究.....105
看護実践開発科学特別研究.....107
看護実践開発科学特別研究.....109
老年・在宅看護学特論.....111
老年・在宅看護学演習Ⅰ.....113
老年・在宅看護学演習Ⅱ.....115
老年・在宅看護学演習Ⅲ.....117
看護管理学特論Ⅱ.....118
看護管理学演習Ⅰ.....120
看護管理学演習Ⅱ.....121
看護管理学演習Ⅲ.....122
ケアシステム開発科学特別研究.....123
ケアシステム開発科学特別研究.....124
助産学特論Ⅰ（ウィメンズヘルス）.....125
助産学特論Ⅱ（助産管理）.....127
助産学特論Ⅲ（開業・院内助産）.....129
助産学特論Ⅳ（母子保健政策論）.....132
助産における補完代替医療.....134
女性のフィジカルアセスメント.....136
産婦人科医学診断.....138
新生児学.....140
周産期ハイリスク論Ⅰ.....141
周産期ハイリスク論Ⅱ.....143
地域母子保健実習.....146
国際助産論.....147
助産学教育論.....149
助産学概論.....151
助産健康教育論.....153
妊娠期の助産診断技術学.....155
分娩期の助産診断技術学Ⅰ.....158
分娩期の助産診断技術学Ⅱ.....160
産褥・新生児期の助産診断技術学.....162
地域母子保健論（旧カリ）.....165
地域母子保健論.....167
助産学実習Ⅰ（基礎）.....169
助産学実習Ⅱ（実践力開発）.....170
助産学実習Ⅲ（実践力発展）.....171

助産学実習Ⅳ（助産管理）.....172
助産学実践Ⅰ（EBPM 探究）.....173
助産学実践Ⅱ（EBPM 展開）.....175
助産学実践Ⅲ（地域実践）.....176
助産学課題研究.....177
助産学課題研究.....178
助産学特論Ⅰ（ウィメンズヘルス）.....179
助産学特論Ⅱ（助産管理）.....181
助産学特論Ⅲ（開業・院内助産）.....183
助産学特論Ⅳ（母子保健政策論）.....186
助産における補完代替医療.....188
女性のフィジカルアセスメント.....190
産婦人科医学診断.....192
新生児学.....194
周産期ハイリスク論Ⅰ.....195
周産期ハイリスク論Ⅱ.....197
地域母子保健実習.....200
国際助産論.....201
助産学教育論.....203
助産学実践Ⅰ（EBPM 探究）.....205
助産学実践Ⅱ（EBPM 展開）.....207
助産学実践Ⅳ（実践評価）.....208
助産学特別研究.....209
助産学特別研究.....210
研究倫理と理学療法学研究法.....212
障害予防学特論.....215
自立生活支援学特論.....218
地域リハマネージメント特論.....220
障害評価・解析学特論.....223
臨床推論特論.....225
理学療法実践学特論.....227
地域リハビリテーション特論.....229
地域理学療法学特論.....232
地域リハビリテーション演習.....236
地域理学療法学演習.....238
地域理学療法学特別研究.....240
地域理学療法学特別研究.....241
地域理学療法学特別研究.....242
臨床理学療法学特論Ⅰ.....243
臨床理学療法学特論Ⅱ.....245
臨床理学療法学演習Ⅰ.....247
臨床理学療法学演習Ⅱ.....249
臨床理学療法学特別研究.....251
臨床理学療法学特別研究.....252
臨床理学療法学特別研究.....253

臨床理学療法学特別研究 254
臨床理学療法学特別研究 255
臨床理学療法学特別研究 256

科目名	保健医療統計特論
英文名	Health and Medical Statistics
担当教員	髙木　廣文
時期・単位	1 年次　前期　必修　2 単位
講義目標	保健医療分野における論文作成のための量的研究法の基礎を学び、研究に必要な統計学的推定・検定の方法、また多変量解析の基礎から応用まで、実践的に適用可能なように教授する。
到達目標	1.論文作成時に、必要な基礎的な統計学的方法から多変量解析の応用まで、実践的に研究に適用できるように、統計学について理解する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	出席 50%およびレポート等の提出状況 50%により、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付し、返却する。 授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする
使用教材	1.髙木廣文，林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方，中山書店，2006

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	看護研究におけるエビデンス	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
2	1	量的研究と質的研究（1）	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
3	1	量的研究と質的研究（2）	
4	1	統計学の基礎	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
5	1	統計学的推測と検定	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
6	1	看護研究における標本数の定め方	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
7	1	カウンターファクチュアルモデルと因果推論	【予習】教材 1 の関係するとこ

			ろを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
8	1	多変量解析の基礎	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
9	1	重回帰分析について	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
10	1	主成分分析について	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
11	1	因子分析について	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
12	1	尺度構成法について	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
13	1	看護研究における調査研究法	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
14	1	質問紙の作成法と質問紙調査法	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
15	1	実際の看護研究における問題点と留意事項	【予習】教材 1 の関係するところを読んでおく。 【復習】講義資料を読み直し、不足する学習内容を補完する。
備考	・自分の行いたい研究について、研究計画書を作成し、データ収集方法及び解析方法を考えまとめること		

	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。	

科目名	チーム医療特論
英文名	Team Medical Care
担当教員	池田　優子、浅香　満、渡邊　秀臣、山上　徹也
時期・単位	1 年次　前期　必修　1　単位
講義目標	チーム医療の目的と施設・在宅・地域を貫く広がりの実際を理解し、今日的課題と今後のあり方について検討し、チーム医療を担う高度医療専門職の役割について考察する。
到達目標	1.チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。 2.チーム医療の連携の実際と概要について理解できる。 3.チーム医療を担う高度医療専門職者の役割について考えられる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への参加度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメントし、次の課題が明確になるよう話し合う。
使用教材	1.細田満和子:「チーム医療の理念と現実―看護に生かす医療社会学からのアプローチ」日本看護協会出版会 2.厚労省から出される「チーム医療の推進に関する提言」等を使用

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題（渡邊）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】チーム医療の推進に関する現状と課題について整理する。
2	1,3	チーム医療をめぐる動向と医療専門職に期待される役割（池田）	【予習】チーム医療の推進に関する厚労省の提言などを調べておく。 【復習】チーム医療の推進に関する課題について自己の経験を踏まえて整理する。
3	2	呼吸リハビリテーションチームの実践を通したチーム医療の理解（浅香）	【予習】チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。 【復習】不足する学習内容を補完する。
4	2	地域リハビリテーションにおけるチーム医療の実際（浅香）	
5	2	認知症ケアにおけるチーム医療の実際（山上）	【予習】地域におけるチーム医療の実際についての文献を検索し読んでおく。 【復習】不足する学習内容を補完する。
6	2,3	地域医療とチーム医療（山上）	
7	1,2,3	チーム医療の中で看護に求められる調整能力（池田）	【予習】チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割

			について内省し、課題を整理しておく。 【復習】看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。
8	1,2,3	チーム医療の推進に関する課題を整理し、今後の展望を考察する （池田） 各自プレゼンテーションし、それを基にディスカッションする	【予習】チーム医療の意義と課題について自己の経験の中から考察し、プレゼンテーションに向けて用意をする。 【復習】グループディスカッションの中で得られた知見を基に、自己の考えを整理する。
備考	1.授業外学習の進め方 自律的な学習が基本です。チーム医療については、国の施策の変化に注目しつつ、同時に実践的課題が明らかになってきているので、行政的施策や実践報告に目を通しておくこと。 予習・復習のための時間は、1 回の授業についておよそ 1.5－2 時間は取る必要があります。 2.質問や疑問点への対応 ① 随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。 担当教員の連絡先：E-mail：yikeda@takasaki-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー： 月曜日 3－5 限　木曜日 1－2 限　4 号館 3 階　301 研究室		

科目名	チーム医療アプローチ特別演習
英文名	Seminar on team medical approach
担当教員	田中　聡一、吉田　剛、棚橋　さつき
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	患者およびその家族の健康問題を解決、QOL の向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。
到達目標	1.具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。 2.チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンテーターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に判断する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対してディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。
使用教材	日本難病看護学会誌、日本在宅ケア学会誌　見藤隆子他著：看護師職者のための政策過程入門、ASAHI Medical

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境（田中）	【予習】チーム医療の現状、それに関わる職種、環境について発表出来るように調査、ノートを作製する。 【復習】】講義で学習した事項と自分で学習して得たものを比較・検討する。発表グループを決める。
2	1,2	急性期医療のチーム医療の演習（田中）	【予習】あらかじめ配付された資料を学習し、グループ内で役割分担を決め、学生司会のもとで、講義内で急性期医療のチーム医療の演習をする。 【復習】次回講義の急性期医療のチーム医療発表会のためのパワーポイントおよび配布資料を作成する。
3	1,2	急性期医療のチーム医療の発表会（田中）	【予習】準備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】発表会で受けた質問に対してグループ内で確認し、

			正式な返事を用意し、レポートを作製、提出する。
4	1,2	回復期医療のチーム医療の演習（田中）	【予習】あらかじめ配付された資料を学習し、グループ内で役割分担を決め、学生司会のもとで、講義内で回復期医療のチーム医療の演習をする。 【復習】次回講義の回復期医療のチーム医療発表会のためのパワーポイントおよび配布資料を作成する。
5	1,2	回復期医療のチーム医療の発表会（田中）	【予習】準備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】発表会で受けた質問に対してグループ内で確認し、正式な返事を用意し、レポートを作製、提出する。
6	1,2	地域医療のチーム医療　の演習（田中）	【予習】あらかじめ配付された資料を学習し、グループ内で役割分担を決め、学生司会のもとで、講義内で地域医療のチーム医療の演習をする。 【復習】次回講義の地域医療のチーム医療発表会のためのパワーポイントおよび配布資料を作成する。
7	1,2	準備したものをグループごとに予行演習する。（田中）	【予習】準備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】発表会で受けた質問に対してグループ内で確認し、正式な返事を用意し、レポートを作製、提出する。
8	1,2	リハビリテーションチームの現状分析と課題：リスク管理と姿勢管理をどうするか？（発表およびディスカッション）（吉田）	【予習】自分の臨床経験や所属施設の状況を整理しておく。 【復習】他施設の状況を踏まえてもう一度所属施設の状況を見直し、問題点を抽出する。
9	1,2	リハチーム内で対象に対する支援方法の決定及び変更はどうするか？（発表およびディスカッション）（吉田）	【予習】本テーマについて所属施設の状況を整理して発表に備える。 【復習】他施設の状況を踏まえてもう一度所属施設の状況を見直し、問題点を抽出する。
10	1,2	リハビリテーションカンファレンスおよびリハビリテーション総合実施計画書作成の役割（発表およびディスカッション）（吉田）	【予習】本テーマについて所属施設の状況を整理して発表に

			備える。 【復習】他施設の状況を踏まえてもう一度所属施設の状況を見直し、問題点を抽出する。
11	1,2	リハビリテーションチームにおける看護師の役割とリハ専門職種との関係（発表およびディスカッション）（吉田）	【予習】本テーマについて所属施設の状況を整理して発表に備える。 【復習】リハビリテーションチームにおける看護師の役割について整理し、臨床に生かす。
12	1,2	医療機関の看護チーム医療の演習（棚橋）	【予習】チーム医療における看護の役割について事前に書籍等で学習しておく。 【復習】講義で学習した事項と自分で学習して得たものを比較・検討する。発表グループを決める。
13	1,2	医療機関の看護チーム医療の発表会（棚橋）	【予習】学生司会のもとで、講義内で地域医療のチーム医療の演習をする。備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】次回講義の地域看護の演習のためのパワーポイントおよび配布資料を作成する。
14	1,2	地域看護の演習（棚橋）	【予習】グループ内で役割分担を決め、学生司会のもとで、講義内で地域医療のチーム医療の演習をする。備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】次回講義の地域看護発表会のためのパワーポイントおよび配布資料を作成する。
15	1,2	地域看護の発表会（棚橋）	【予習】準備したものをグループごとに予行演習する。 【復習】発表会で受けた質問に対してグループ内で確認し、正式な返事を用意し、レポートを作製、提出する。
備考	予習、復習は原則として全授業を通して 15 時間は行う。演習はグループで行うので、予習、復習は自己学習と、グループ学習の両学習を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは月曜 6 限目前後。		

	（田中）stanaka@takasaki-u.ac.jp （吉田）tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp （棚橋）tanahashi@takasaki-u.ac.jp

科目名	**地域支援学特論**
英文名	Advanced Community Support and Care
担当教員	棚橋 さつき、浅香 満、倉林 しのぶ、大澤 幸枝
時期・単位	1 年次　前期　選択　1　単位
講義目標	在院日数在の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて学ぶ。 独居老人の生活、老々介護の問題、介護負担、虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを学び、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域支援の在り方を学ぶ。
到達目標	1.リハビリテーションを中心とした地域支援の在り方を理解できる。 2.倫理的側面から家族関係、広くは地域支援をとらえることができる。 3.地域における認知症患者、家族の現状と課題について理解できる。 4.在宅における療養者、家族への地域支援について理解できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（40%）、レポート（60%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。
使用教材	1)山口晴保編著；認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント，協同医書出版社 2)日本在宅ケア学会誌 ＊その他適宜資料を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	在宅生活を継続するためのリハビリテーション的思考について（浅香）	【予習】リハビリテーション高齢者のリハビリテーション定義を学習する。 【復習】在宅生活を維持するための支援ができるように自己学習する。
2	1	地域リハビリテーションを構成する専門職の連携と課題（浅香）	【予習】地域で障碍者・家族を支えるための態勢について事前学習する。 【復習】地域のネットワークを作るために自分で出来ることを補完学習する。
3	2,3	家族関係における倫理的課題①（倉林）	【予習】「家族」について自分なりの考えをまとめておく。 【復習】講義資料を読み直す。
4	2,3	家族関係における倫理的問題②（倉林）	
5	3	認知症高齢者（若年性認知症患者を含む）及び家族のおかれている現状の理解（大澤）	【予習】新聞等から認知症者や家族等が置かれている社

			会問題について調べ、事例を持参する。 【復習】現状の問題を整理する。
6	3	認知症を持つ患者への地域支援（大澤）	【予習】前回授業の社会問題に対する制度や社会サービス内容について調べておく。 【復習】具体的なサービス利用や地域社会活動を整理する。
7	4	在宅における療養者への支援の在り方（棚橋）	【予習】地域における療養者の支援方法について書籍等にて調べておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
8	1,2,3,4	地域支援に関する課題と今後の展望（棚橋）	【予習】地域における課題について最新情報について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
備考	授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。 棚橋：棚橋オフィスアワー:5 号館 4 階　409 研究室　水・木 13:00～14:30　tanahashi@takasaki-u.ac.jp 浅香：asaka@takasaki-u.ac.jp 倉林：kura@takasaki-u.ac.jp　大澤：oosawa-y@takasaki-u.ac.jp		

科目名	健康科学特論
英文名	Advanced Health Science
担当教員	桑原 敦志、入澤 孝一、角野 善司
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持が必須である。栄養については、「医療栄養学特論」において教授するので、本授業では、健康の仕組み、身体活動・運動、心の安静、免疫の健康維持における重要性を科学的根拠に基づき理解する。
到達目標	1.健康とは何か、健康の概念について理解できる。 2.健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。 3.身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。 4.ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。 5.生体防御と免疫機構について理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	高度な実践力
	✓ 研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	課題レポート 3 部(各 30%) 授業の積極性(10%)で総合的に判断する。
課題に対するフィードバック	講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、および、提出レポートの内容、完成度をコメント。
使用教材	オムニバス形式のため各教員が担当授業を行う際に参考書等を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために(桑原)	【予習】健康科学に関する文を読んで、自分の持っている知識の整理をしておく。 【復習】配布されたプリントに元づく討論の内容を考察しレポートにまとめる。
2	2,3	身体活動・運動と健康および健康障害ー老化と骨粗しょう症(入澤)	【予習】運動と筋肉・骨格の関係について知識の整理をしてくる。 【復習】授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。
3	2,3	身体活動・運動と健康および健康障害ー肥満(入澤)	【予習】運動・食生活と肥満の関係について知識を整理してくる。 【復習】授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。
4	2,3	身体活動・運動と健康および健康障害ー生活習慣病(入澤)	【予習】運動と生活習慣病についての知識を整理してくる。 【復習】授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。
5	2,3	身体活動・運動の評価方法(入澤)	【予習】新体力テストについて知識をまとめてくる。 【復習】児童生徒の体力と運動

			の関連について課題を考察し、レポートにまとめる。
6	2,3,4	身体的健康と精神的健康の関連性（角野）	【予習】心身の健康の連関に関する基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントに従って、身体的健康と精神的健康の関連性について考察し、レポートにまとめる。
7	2,3,4	身体的健康度の評価方法（角野）	【予習】身体的健康度の評価方法に関する既有の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。 【復習】配布プリントに従って、各種の身体的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。
8	2,3,4	精神的健康度の評価方法（角野）	【予習】精神的健康度の評価方法に関する既有の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。 【復習】配布プリントに従って、各種の精神的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。
9	2,3,4	ストレスと生体反応・健康障害（角野）	【予習】ストレス学説に関する基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントに従って、ストレスが生体反応・健康障害を生じさせるメカニズムを理解し、レポートにまとめる。
10	2,3,4	ストレス対処行動と評価方法（角野）	【予習】ストレスコーピングに関する基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントに従って、コーピングによるストレス緩和効果について、レポートにまとめる。
11	5	生体防御と免疫機構（桑原）	【予習】免疫機構を理解するための基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントに従って、免疫機構の知見を理解し健康を保つのに役立っているかをレポートにまとめる。
12	5	感染症と免疫（桑原）	【予習】感染症発症メカニズムや免疫の破たんを学習する。 【復習】配布プリントに従って

			感染防御、自己免疫疾患を理解しレポートにまとめる。
13	2,3	生活習慣病が招く健康破たんの結果とは（桑原）	【予習】糖尿病に関する基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントおよびスライドから糖尿病の診断、治療、予防を理解しレポートにまとめる。
14	2,3	生活習慣病予防がもたらす社会的利益（桑原）	【予習】メタボリックシンドローム:の基礎知識を学習する。 【復習】配布プリントおよびスライドからメタボリックシンドロームと動脈硬化を理解しレポートにまとめる。
15	2,3,4	食事・運動・ストレスコントロールで健康増進（桑原）	【予習】健康増進のための方法を学習する。 【復習】食事や運動により生活習慣病を予防し、ストレスを解消する手段をレポートにまとめる。
備考	予習、復習は原則として全授業を通して 60 時間は行う。 予習はノートを作製し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する知見を明らかにし、レポート作成を行う。 下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。 （桑原）kuwabara@takasaki-u.ac.jp （入澤）irisawa@takasaki-u.ac.jp （角野）zsumino@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 13 時から 14 時 30 分		

科目名	病態生理学特論
英文名	Advanced pathophysiology
担当教員	田中　聡一、鈴木　忠、桑原　敦志
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、エビデンスに基づいた情報収集と判断が必要である。そのために必要な臨床検査の種類とその意義について学習し、臓器別の病態生理学を詳細に学び、患者の全体的な病態生理を把握する。
到達目標	1.患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。 2.適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。 3.理学所見や臨床検査学を通じて得られた情報から病態生理の知識に裏づけた医療的ケアが実践できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	高度な実践力
	✓　研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（50%）、レポート（50%）で総合的に判断する。
課題に対するフィードバック	講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、および、提出レポートの内容、完成度をコメント。
使用教材	北川美千代（2012）臨床家のための基礎からわかる病態生理学（医道の日本社）

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	臨床検査から病態を考察（桑原）	【予習】臨床検査に関して基礎知識を学習しておく。 【復習】実際の患者データをみて、病態を検討し、関連する疾患を考察しレポートにまとめる。
2	1,2,3	感染症の病態生理と院内感染（桑原）	【予習】感染症、院内感染防止について基礎知識を学習しておく。 【復習】感染症の実態と感染経路別院内感染防止策を考察しレポートにまとめる。
3	1,2,3	甲状腺疾患の病態生理（桑原）	【予習】甲状腺疾患に関する基礎知識を学習しておく。 【復習】甲状腺疾患合併妊娠に関する注意点を考察しレポートにまとめる。
4	1,2,3	自己免疫疾患の病態生理（桑原）	【予習】アレルギーと自己免疫疾患に関する基礎知識を学習しておく。 【復習】免疫機序の破たんによる疾患を考察しレポートにまとめる。
5	1,2,3	呼吸器疾患の病態生理（桑原）	【予習】慢性閉塞性肺疾患に関する基礎知識を学習してお

			く。 【復習】慢性閉塞性肺疾患の成因および対応を考察しレポートにまとめる。
6	1,2,3	循環器検査と病態生理（桑原）	【予習】心電図の基礎知識を学習しておく。 【復習】心電図の成り立ちと心電図からわかることを考察しレポートにまとめる。
7	1,2,3	循環器系の生理と疾患；心臓（鈴木）	【予習】心臓の解剖および生理学を学習しておく。 【復習】学習した心疾患について症状、検査、治療についてレポートにまとめる。
8	1,2,3	循環器系の生理と疾患；血圧（鈴木）	【予習】本態性高血圧、2 次性高血圧について学習しておく。 【復習】疾患以外に血圧異常がみられる状態について、そのメカニズムと対処方法をまとめ、レポートにまとめる。
9	1,2,3	循環器系の生理と疾患；血管系（鈴木）	【予習】大動脈、末梢動脈、末梢静脈疾患について学習しておく。 【復習】緊急処置が必要な動脈系疾患について症状、検査、治療についてレポートにまとめる。
10	1,2,3	内分泌器系の生理と疾患（田中）	【予習】代表的な内分泌器官を挙げ、放出されるホルモンについて学習しておく。 【復習】放出されるホルモンの標的とその作用についてレポートにまとめる。
11	1,2,3	消化器系の生理と疾患（田中）	【予習】食道、胃、十二指腸、小腸、大腸にみられる疾患について学習しておく。 【復習】肝臓、胆道系、膵臓にみられる疾患についてレポートにまとめる。
12	1,2,3	腎・泌尿器系の生理と疾患（田中）	【予習】腎臓、尿路、膀胱、尿道のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。 【復習】腎臓、尿路、膀胱、尿道に関する疾患について解

			剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。
13	1,2,3	神経系の生理と疾患（田中）	【予習】中枢神経、末梢神経、筋肉のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系）を学習する。 【復習】中枢神経、末梢神経、筋肉に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。
14	1,2,3	運動器、感覚器の生理と疾患（田中）	【予習】骨関節、体性感覚系のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。 【復習】骨関節、体性感覚系に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。
15	1,2,3	口腔の生理と疾患（田中）	【予習】口腔、歯のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。 【復習】口腔、歯に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。
備考	予習、復習は原則として全授業を通して 60 時間は行う。予習はノートを作製し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する解剖・病態生理の視点をもって、レポート作成を行う。 下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは月曜 7 限目前後。 （田中）stanaka@takasaki-u.ac.jp （鈴木）suzuki-t@takasaki-u.ac.jp （桑原）kuwabara@takasaki-u.ac.jp		

科目名	医療栄養学特論
英文名	Advanced medical nutrition
担当教員	竹内 真理
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	傷病者のための適切な栄養療法を見極め、治療方針（栄養療法）を提案できる知識を身につけること。また、栄養食事指導において、傷病者の QOL を損なうことなく栄養療法を実践できる知識を身につけることを目的とする。
到達目標	1.臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。 2.栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントを実施し、必要栄養量や栄養補給方法を選択できる能力を修得する。 3.ベッドサイドや在宅医療の現場での栄養管理を実践し、栄養ケアプランを立案する能力を修得する。 4.NST 活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	授業中の発表や発言内容（50%）、学習意欲（20%）、レポート提出（30%）にて総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	学習した内容を日々の臨床業務に生かす。臨床現場で経験する症例について、栄養ケアプランを立案し、その内容を評価する。
使用教材	各講義時に資料を配布する。 参考資料として、静脈経腸栄養ハンドブック、NST ガイドブック、病態栄養ガイドブック

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	栄養評価。栄養スクリーニングと栄養アセスメント	初回の予習はとくになし。 復習は学習した内容を次の講義までに再度確認する。
2	1,2	栄養補給量（投与エネルギー、栄養素、水、電解質など）の算定と栄養補給法の選択	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
3	1,2	栄養ケアプランの立案（診断計画、治療計画、教育計画）	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
4	1,2	栄養補給の方法①（経口摂取、栄養補助食品の使い方）	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
5	1,2	栄養補給の方法②（経腸栄養、静脈栄養）	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認す

			る。
6	1,2	モニタリングと評価、フィードバック	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
7	1,2,4	栄養アセスメントのチーム医療での活用	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
8	1,2,4	NST 活動	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
9	1,2,4	入院患者の退院支援	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
10	1,2,4	在宅患者の栄養管理	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
11	1,2,3,4	病態別栄養管理(内科領域)①	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
12	1,2,3,4	病態別栄養管理(内科領域)②	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
13	1,2,3,4	病態別栄養管理(外科領域)①	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
14	1,2,3,4	病態別栄養管理(外科領域)②	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認す

			る。
15	1,2,3,4	まとめ	【予習】配布資料の指定箇所を事前に目を通す。 【復習】その日の学習内容を次回講義までに再度確認する。
備考	オフィスアワー：木曜 2-4 時限. 1 号館 308 研究室（内線 7308） メールアドレス：mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp　質問等はメールでも受け付けます。 予習復習時間はレポート作成のための学習時間で補完すること		

科目名	**薬物動態学特論**
英文名	Advanced Biopharmaceutics
担当教員	荻原　琢男
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング（TDM）の意義を学ぶ。さらに、患者ごとの病態や年齢、遺伝子多型、併用薬の違いによる薬物の体内動態要因の変動を理解し、患者ごとの薬物の投与間隔を実際の事例を基に解析・決定する手法を学ぶ。
到達目標	1.薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。 2.薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。 3.経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。 4.薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。 5.生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。 6.薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	複数回の症例レポート（50%）と期末試験（50%）によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	「エピソード薬物動態学」 辻彰　京都廣川書店 「薬物速度論演習」 京都廣川書店

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ	【予習】シラバスを予習しておくこと。 【復習】本科目の概要・課題について復習し、理解すること。
2 3	2,3	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について理解する	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
4 5	1,5	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
6 7	2,4	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
8	1	医薬品の添付文書に記載されている事項を、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理

			解する。
9 10	6	薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
11	1,2,3,4,5,6	薬物動態パラメータの算出方法とその意味について理解する	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
12 13	6	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
14	1,2,3,4,5,6	薬物動態学の最近のトピックス	【予習】講義内容について概要を調べておく。 【復習】講義内容をまとめ、理解する。
15	1,2,3,4,5,6	薬物動態学特論のまとめ	
備考	オフィスアワー：講義当該時限の前後の時 予習・復習は原則として、全授業をとおして 60 時間は行う。		

科目名	**医療倫理学特論**
英文名	Advanced Medical Ethics
担当教員	倉林 しのぶ、大石 桂子
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位
講義目標	「生殖医療」「脳死」「臓器移植」など、近年の医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について、具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、“医療を行う側”と“医療を受ける側”それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。
到達目標	1.医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる。 2.現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる。 3.医療職が臨床で直面する倫理的問題を理解できる。 4.医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる。 5.倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（30%） 授業参加度・授業貢献度（70%）
課題に対するフィードバック	グループディスカッション、また、事例検討では、その都度、講評とともにコメントする。
使用教材	テキストは使用しない。配布資料を中心とする。 参考文献：『日本人の死—日本的死生観への視角—』伊藤益、北樹出版 『臨床倫理学入門』福井次矢編、医学書院, 生命倫理学会誌, 死の臨床研究会誌

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	医療と意志決定（1） 自律的な生の意義とは（大石）	【予習】シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。 【復習】講義資料を見直し、課題を完成させる。
2	2,3,4	医療と意志決定（2） 合意形成と意志決定支援（大石）	
3	2,3,4	子の権利と代理決定 生殖補助医療・治療停止（大石）	
4	1,2,3	真実告知 知る権利と知らされない権利（大石）	
5	1,2	エンハンスメント（1） 「より良い生」を求める技術（大石）	
6	1,2	エンハンスメント（2） 「人間の弱さ」に価値はあるか（大石）	
7	1,2,3,4	東西の死生観 病気と死の受け入れ（大石）	
8	1,2,3	臨床の倫理（1） 倫理とは何か（価値・被験者保護の歴史）（倉林）	【予習】シラバスの講義内容を確認しテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。 【復習】講義資料を見直すこと。
9	1,2,3	臨床の倫理（2） 徳と倫理原則（倉林）	
10	3,4	臨床の倫理（3） インフォームド・コンセント（倉林）	
11	3,4	臨床の倫理（4） 守秘義務/QOL と SOL（倉林）	
12	3,4	臨床の倫理（5） 終末期医療における倫理（倉林）	
13	2,3,4,5	事例検討（1） 院生による文献（倉林）	【予習】文献を読み込み、資料を作成する。 【復習】資料文献を見直す。
14	2,3,4,5	事例検討（2） 院生による文献（倉林）	
15	2,3,4,5	事例検討（3） 院生による文献（倉林）	
備考	・授業はディスカッションを中心に行う。積極的に参加できることを重視する。		

	・事前に文献等を配布された場合、よく読み自分なりの考えをもって講義に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00〜13：00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp　メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。 大石：オフィスアワー：月曜日 13：00〜14：00、金曜日 10：45〜12：15 E-mail: oishi@takasaki-u.ac.jp

科目名	**症状マネージメント特論**
英文名	Advanced Symptom Management
担当教員	櫻井　美和、石田　順子、吉田　久美子、大澤　幸枝、砂賀　道子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	UCLA が開発した症状マネジメント理論を学び、看護実践におけるいくつかの症状について、症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験を理解し、症状マネジメントを促す看護および看護の成果を評価する視点を検討する。加えて、自分の看護実践体験においてマネジメントが困難であった事例をもとに、独創的な症状マネジメント方略を探索する。
到達目標	1.症状マネジメント理論について理解できる。 2.具体的な症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験を理解し、症状マネジメントのための看護および看護の成果を評価する視点を検討できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）で評価する。
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付して返却する。また、プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	授業中に配布する資料を中心である。 【参考文献】田村恵子（2002）：がん患者の症状マネジメント，学習研究社.

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション、UCLA が開発した症状マネジメント理論（櫻井）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】①科目オリエンテーションの内容を確認する。 ②本科目で取り上げる症状マネジメント理論の概要を確認する。
2	1	症状マネジメントモデルと統合的アプローチ（櫻井）	【予習】配布資料を精読し、症状マネジメント理論の基盤となる概念を確認する。 【復習】深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
3	2	子どもの症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護（櫻井）	【予習】子どもの認知発達、セルフケア能力の発達について確認する。 【復習】深めた学習内容について調べ、補完学習する。
4	2	がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護①（吉田）	【予習】がんおよび治療（化学療法、放射線療法、手術療法等）に起因する症状とその発症メカニズム、症状の緩和方
5	2	がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護②（石田）	

6	2	がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護③（砂賀）	法について整理する。 【復習】深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
7	2	腎不全患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護	【予習】腎不全に伴う症状とその発症メカニズム、症状の緩和方法について整理する。 【復習】深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
8	2	統合失調症患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護	【予習】統合失調症の症状とその発症メカニズム、症状の緩和方法について整理する。 【復習】深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
9	2	認知症患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護（大澤）	【予習】認知症に伴う症状とその発症メカニズム、症状の緩和方法について整理する。 【復習】深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
10	1,2	看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルに基づく統合的アプローチを検討する①	【予習・復習】症状マネジメントモデルに基づき、自己の看護実践体験においてマネジメントが困難であった事例の事例分析を行う。
11	1,2	看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルに基づく統合的アプローチを検討する②（石田）	
12	1,2	事例発表①（石田）	【予習】第 10・11 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】①事例発表の際のディスカッション内容に基づき、深めたい学習内容について補完学習する。 ②症状マネジメントモデルを活用した研究論文を検索、クリティークし、事例分析をさらに深める。
13	1,2	事例発表②（石田）	
14	1,2	事例発表③（石田）	
15	1,2	まとめ：症状マネジメントにおける看護の役割の探究（石田）	【予習・復習】①これまでの授業内容を振り返り、症状マネジメントにおける看護の役割をまとめる。 ②自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。
備考	・プレゼンテーションを行うため、主体的・自律的な学習が求められる。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習することが求められる。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。		

	①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限（5 号館 4 階 413 研究室） ②随時メールでも受け付ける。　E-mail：sakurai-m@takasaki-u.ac.jp（櫻井）

科目名	英文読解・英作文の技法
英文名	English for Health Care Science
担当教員	柴山　森二郎
時期・単位	1 年次　後期　選択　1　単位
講義目標	保健医療学の論文の英語の表題・抄録・本文を読み、この分野で使われる英語の語彙・語法を学び、英語で業績を発表する力を付ける。
到達目標	1.研究課題に関連して英語で発表された論文を検索することができる。 2.英語で発表された論文のタイトルや抄録を分析して、使用されている語彙・語法を習得する。 3.英語で発表された論文の抄録と必要に応じて本文も読むことで論文の概要を把握することができる。 4.自分が発表する論文のタイトルと抄録を英語で書くことができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	小テスト（40%）、 課題（60%）
課題に対するフィードバック	論文の検索、英語の語彙・語法の習得、英語で発表された論文の検索、その概要把握、表題と抄録の英語による執筆など課題に対するフィードバックは授業の中で適時行う。
使用教材	学生の研究テーマに関連して、例えば日本看護学会誌、Cancer Nursing, International Journal of Pediatric Nursing など、内外の専門誌から選んだ論文のタイトル、抄録、および本文を教材とする。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4	英語学習について：模倣⇒英語脳　｜表題（タイトル）を読む：日本語と英語（語順）、専門用語　｜抄録（予習用）配布	【復習】表題復習
2	1,2	抄録を読む（1）：抄録の輪読（語彙・語法・構文）　｜論文検索法：PubMed 他、課題（論文検索、その抄録を次回提出）　｜抄録（予習用）配布	【予習】抄録予習、論文検索 【復習】輪読抄録復習
3	1,2	抄録を読む（2）：抄録提出、前回配布抄録輪読（語彙・語法・構文）、抄録（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録を次回提出）	【予習】抄録予習、論文検索 【復習】輪読抄録復習
4	1,2	抄録を読む（3）：抄録提出、前回配布抄録輪読（語彙・語法・構文）、抄録（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録次回提出）	【予習】抄録予習、論文検索 【復習】輪読抄録復習
5	1,2	抄録を読む（4）：抄録提出、前回配布抄録輪読（語彙・語法・構文）、抄録（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録を次回提出）	【予習】抄録予習、論文検索 【復習】輪読抄録復習
6	1,2	抄録を読む（5）：抄録提出、前回配布抄録輪読（語彙・語法・構文）、論文抜粋（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録を次回提出）	【予習】抄録予習、論文検索 【復習】輪読抄録復習
7	1,3	論文を読む（1）：抄録提出、前回配布論文抜粋輪読（語彙・語法・構文）、論文抜粋（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録を次回提出）	【予習】論文予習、論文検索 【復習】輪読論文復習
8	1,3	論文を読む（2）：抄録提出、前回配布論文抜粋輪読（語彙・語法・構文）、論文抜粋（予習用）配布、課題（論文検索、その抄録を次回提出）	【予習】論文予習、論文検索 【復習】輪読論文復習
9	3,4	論文を読む（3）：抄録提出、前回配布論文抜粋輪読（語彙・語法・構文）、日本語抄録配布、課題（配布抄録[表題]を英語で執筆）	【予習】論文予習 【復習】輪読論文復習
10	4	英語表題執筆：[表題]提出、[表題]検討、日本語抄録配布、課題（抄録[目的]を英語で執筆）	【予習】「表題」執筆 【復習】「表題」
11	4	英語抄録[目的]執筆：抄録[目的]提出、「目的」検討、課題（配布抄録[方法]を英語で執筆）	【予習】抄録[目的]執筆 【復習】「目的」

12	4	英語抄録[方法]執筆：抄録[方法]提出、「方法」検討、課題（配布抄録[結果]を英語で執筆）	【予習】抄録[方法]執筆 【復習】「方法」
13	4	英語抄録[結果]執筆：抄録[結果]提出、「結果」検討、課題（配布抄録[結論]を英語で執筆）	【予習】抄録[結果]執筆 【復習】「方法」
14	4	英語抄録[結論]執筆：抄録[結論]提出、「結論」検討、課題（抄録を英語で執筆）	【予習】抄録執筆 【復習】「結論」
15	1,2,3,4	まとめ	
備考	予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 詳細は始業時に説明する。		

科目名	**看護学研究法**
英文名	Advanced Research Methods in Nursing Science
担当教員	石田　順子、倉林　しのぶ、小笠原　映子、吉田　久美子、箕輪　千佳、神田　清子、櫻井　美和、小池　洋子、砂賀　道子
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	＜量的研究法＞ 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義･役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。 ＜質的研究法＞ 保健医療における質的研究の意義･役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法（事例研究、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、現象学）について、研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について学ぶ。
到達目標	1.保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割が理解できる。 2.人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3.各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%）　レポート（70%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションンに対してその都度ディスカッションするとともに講評及びコメントをする。 レポートにはコメントを付し返却する。
使用教材	講義はその都度資料を作成し配布する。 【参考文献】 1）近藤潤子監訳(2010)：看護研究　原理と方法、医学書院 2）福原俊一(2013)：臨床研究の道標、健康医療評価研究機構 3）黒田裕子他監訳（2007）：バーンズ&グローブ看護研究入門−実施・評価・活用−. エルゼビア・ジャパン 5）Burns & Grove （2009）：The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (6th Ed), ELSER SAUNDERS. 6）対馬栄輝（2010）：医療系研究論文の読み方・まとめ方. 東京図書 7）対馬栄輝、石田水里（2013）：医療系データのとり方・まとめ方. 東京図書 8）野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的研究入門. 医学書院 9）萱間真美（2007）：質的研究実践ノート. 医学書院 10）才木クレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール　グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ　医学書院 11）木下康之：M-GTA　グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践　質的研究への誘い　弘文堂 12）木下康之：ライブ講義　M-GTA　弘文堂

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割、研究倫理（石田）	【予習】参考文献を読んで、看護研究の良く割り・意義について調べておく。 【復習】配布された資料に目を通し、看護研究の目的、意義、研究デザイン、研究倫理についてまとめておく。
2	1,2	研究倫理について①(倉林)	【予習】参考文献を読んで、看護研究における倫理について調べておく。 【復習】配布された資料に目を通し、看護研究における倫理および倫理審査についてまとめておく。
3	1,2	研究倫理について②(倉林)	
4	1,2	文献レビュー（小笠原）	【予習】参考文献 1）の 5 章」を参考に文献レビューの方法及びクリティークについて調べておく。 【復習】授業で指示された文献を読み、クリティークするとともに文献レビューを行う。
5	1,2	文献クリティーク（小笠原）	
6	2,3	調査研究のプロセス（石田）	【予習】調査研究について、参考文献を活用し、調べておくこと 【復習】①配布された資料に目をし、調査研究のポイントについてまとめる。②調査研究に関する文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。
7	3	調査研究における妥当性・信頼性（石田）	
8	2,3	尺度開発のプロセス（吉田）	【予習】尺度開発について、参考文献を活用し調べておくこと 【復習】①尺度開発についてまとめる。②尺度開発に関する文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。
9	3	尺度開発における妥当性・信頼性（吉田）	
10	2,3	介入研究のプロセス（箕輪）	【予習】介入研究について参考文献を活用し調べておくこと 【復習】①介入研究のポイント

11	3	介入研究における妥当性・信頼性（箕輪）	をまとめる。②不足する学習内容を補完する。
12	2,3	実験研究・準実験研究のプロセス（神田）	【予習】実験・準実験研究について、参考文献を活用し、調べておく。 【復習】配布資料をもとに実験・準実験研究についてまとめる。
13	3	実験研究・準実験研究における妥当性・信頼性	
14	2	学生による量的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）①（石田）	【予習】自分の興味のある量的研究の文献をクリティークしてくること。①調査研究②尺度開発③介入研究 【復習】①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。
15	2	学生による量的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）②（吉田）	
16	2	学生による量的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）③（箕輪）	
17	1,2	保健医療における質的研究の意義・役割、研究倫理（櫻井）	【予習】質的研究について調べておく。 【復習】①配布された資料を振り返り、質的研究の意義・役割、研究倫理についてまとめる。②質的研究の真実性を高める方法についてまとめてる。③不足する学習内容を補完する。
18	1,2	質的研究のプロセス（櫻井）	
19	1,2	質的研究における真実性を高める対象選定・データ収集・データ分析とは（櫻井）	
20	1,2	質的研究における真実性をたかめる結果・考察とは（櫻井）	
21	2	質的研究の文献クリティーク（櫻井）	【予習】自分の研究課題に関連した質的研究のクリティークを行う。 【復習】①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。
22	2,3	内容分析とは（小池）	【予習】内容分析について参考文献より調べておく。 【復習】①配布された資料を振り返り、内容分析についてポイントをまとめておく。②不足する学習内容を補完する。
23	3	内容分析の研究プロセス（小池）	
24	2,3	グラウンデッド・セオリー・アプローチと修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（砂賀）	【予習】グラウンデッド・セオリー・アプローチおよび修正版グラウンデッド・セオリーアプローチについて、参考文献を

25	3	グラウンデッド・セオリー・アプローチ演習（砂賀）	活用し、調べておく。 【復習】①配布された資料を振り返り、グラウンデッド・セオリー・アプローチのポイントをまとめておく。②不足する学習内容を補完する。
26	2	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの文献クリティーク（砂賀）	【予習】修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに関する文献についてクリティークを行う。 【復習】①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。
27	2,3	事例研究とは（櫻井）	【予習】事例研究について、参考文献より調べておく。 【復習】①配布された資料を振り返り、事例研究のポイントをまとめる。②不足する学習内容を補完する。
28	2	文献クリティーク演習（櫻井）	【予習】自分の研究課題に関する質的研究の文献についてクリティークを行う。 【復習】①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。
29	2	学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）①（櫻井）	
30	2	学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）②（櫻井）	
備考	授業外学習について ・自分の取り組みたい研究課題を見据え、研究方法を理解するために、予習・復習を行うこと。 ・プレゼンテーションを行うため、積極的に文献を収集し、主体的に学習を進めていくこと。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記にて相談を受ける。 ①メールの場合：量的研究 E-mail:jishida@takasaki-u.ac.jp(石田）質的研究 E-mail:sakurai-m@takasaki-u.ac.jp（櫻井） ②オフィスアワー：金曜日 2 限と,3 限（5 号館 4 階 405 研究室）		

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅰ
英文名	Advanced Critical Care Nursing Ⅰ
担当教員	石田 順子、千明 政好、片貝 智恵
時期・単位	1年次 前期 選択 2 単位
講義目標	急性期看護、クリティカルケア看護において重要な概念や理論について、具体的な現象(患者の全身管理、日常生活ケアや苦痛緩和に対するケア、心理的・教育的ケア)から捉える。また、急激な生命の危機状態にある患者・家族の反応を理解し、ストレスや葛藤を抱く中での自己決定権の尊重や患者としての権利を遵守し、健康レベルを高め、QOLの向上を目指すための看護実践方法および課題について探求する。
到達目標	1.クリティカルケア看護学・急性期看護学における重要な概念・理論について実際の現象から理解できる。 2.急性期看護・クリティカル看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践の方法および健康について理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	評価方法:プレゼンテーション(30%) レポート(70%)
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付し、返却する。 対話式に講義を進めていくのでその都度講評およびコメントを行う。
使用教材	1)都留伸子監訳(2004):看護理論家とその業績、医学書院 2)日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1	急性期看護・クリティカルケア看護領域の患者家族の反応ついて／ストレス・コーピング理論(石田)	【予習】それぞれの理論について教材1)を精読する。 【復習】それぞれの理論について急性期看護・クリティカル看護に特化した内容について整理する。理論を使用したクリティカル領域の文献をクリティークする。
3 4	1	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／ケアリング理論(石田)	
5 6	1	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／症状マネジメント理論(石田)	
7 8	1	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／Comfort 理論(石田)	
9	2	ICU／CCU における患者の身体的・心理的反応の特徴について (片貝)	【予習】講義内容に沿って資料を収集し、読んでおく。 【復習】講義から学んだこと及び収集した資料を使用し、患者の身体的・心理的特徴について整理し、急性期看護・クリティカルケア看護の課題について考える。
10	2	ICU／CCU における全身管理および日常生活ケアの実際と課題について(片貝)	【予習】講義内容に沿って資料を収集し、読んでおく。 【復習】講義から学んだこと及

11			び収集した資料を使用し、全身管理及び日常生活のケアについて整理し、急性期看護・クリティカルケア看護の課題について考える。
12	2	ICU／CCU における患者の苦痛症状および苦痛緩和ケアについて（千明）	【予習】講義内容に沿って資料を収集し、読んでおく。 【復習】講義から学んだこと及び収集した資料を駆使し、患者の苦痛緩和のケアについて整理し、急性期看護・クリティカルケア看護の課題について考える。
13 14	2	ICU／CCU における患者と家族の権利および自己決定を支えるための看護の実際と課題について（千明）	【予習】講義内容に沿って資料を収集し、読んでおく。 【復習】講義から学んだこと及び収集した資料を使用し、患者と家族の権利および自己決定を支える看護について整理し、急性期看護・クリティカルケア看護の課題について考える。
15	1,2	急性期看護・クリティカルケア看護領域における看護実践課題についての発表（石田）	【予習】14 回の講義を通し学んだことから急性期看護・クリティカルケア看護領域における看護実践課題についてプレゼンテーションできるようにする。 【復習】ディスカッションおよび講評を振り返り、看護実践課題についてまとめておく
備考	・自分の具体的な経験を基に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討し、発表し、レポートを作成する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 オフィスアワー：火曜日 14:30～19:00 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでも対応する。 E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp（石田）		

科目名	がん看護学特論Ⅰ
英文名	Advanced Cancer Nursing Ⅰ
担当教員	吉田 久美子、神田 清子、石田 順子、砂賀 道子、二渡 玉江、岩崎 紀久子
時期・単位	1年次 前期 選択 2 単位
講義目標	成人期におけるがんが患者と家族にもたらす反応、患者の健康、患者と家族の QOL の向上を目指した看護実践のあり方について、がん看護において重要な概念や理論を用いて理解する。がんの告知と治療選択における意思決定を支える看護、手術療法や化学療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。
到達目標	1.がん看護における重要な概念や理論について実際の現象から理解できる。 2.がん看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション(30%) レポート(70%)
課題に対するフィードバック	課題に対し取り組んだ内容に応じ、口頭あるいはコメントして付しフィードバックする。
使用教材	・都留伸子監訳(2004):看護理論家とその業績. 医学書院 他、日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌などから論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	がん看護学の動向について(吉田)	【予習・復習】がん患者や治療の動向をふまえ、がん看護学の動向について学習すること。
2	1,2	がん看護学の基盤となる理論について(吉田)	【予習・復習】授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。
3	1,2	がん看護学の基盤となる理論について(石田)	【予習・復習】授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。
4	1,2	がん看護学における倫理的課題と看護の役割について(神田)	【予習・復習】倫理的判断が迫られる局面と思考過程について学習すること。
5	1,2	がんの治療選択における意思決定を支える看護について(石田)	【予習・復習】意思決定が必要となる状況と看護師の役割について学習すること。
6	1,2	化学療法を受ける患者の症状マネジメント/セルフケアについて(吉田)	【予習・復習】化学療法の特徴と必要となる症状マネジメントをふまえ、看護研究から現状と課題を理解すること。
7	1,2	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について/危機理論(二渡)	【予習・復習】手術を受ける患者と家族の特徴をふまえ、必要な看護を体系的にまとめて

			おくこと。
8	1,2	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論（砂賀）	【予習・復習】手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。
9	1,2	手術を受けるがん患者と家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）	【予習・復習】手術を受ける患者の実状をふまえ、看護の課題を捉えること。
10	1,2	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について①（石田）	【予習・復習】治療をうける患者を支える家族の特徴を理解すること。
11	1,2	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について②（石田）	【予習・復習】治療をうける患者を支える家族への看護を考察すること。
12	1,2	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について①（岩崎）	【予習・復習】終末期にある患者と家族の特徴を先人的に理解すること。
13	1,2	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について②（岩崎）	【予習・復習】終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。
14 15	1,2	その人らしく安らかな死を迎えるための緩和ケアの実際と課題について（吉田）	【予習・復習】緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。
備考	1.授業外学習の進め方 1)要点を理解しながら、積極的に授業に臨むことが出来るよう予習や復習を行うこと。 予習、復習は原則として全授業を通して 60 時間は行う。 2)効率的に学習できるよう、関連する国内外の文献を有効に活用すること。 2.担当教員連絡先　E-mail アドレス：yoshikumi@takasaki-u.ac.jp		

科目名	老年看護学特論
英文名	Advanced Gerontological nursing
担当教員	大澤 幸枝、田中 聡一、吉田 剛、角野 善司、吉田 久美子、石田 順子、齊田 綾子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメント、生活の自立と QOL の向上を目指した保健・医療・福祉における高齢者の支援やケアマネジメントおよび家族看護などの効果的な看護実践の方法を学ぶ。また、高齢社会における老年看護の専門的な機能と役割を理解し、チーム医療を担う老年看護課題を考察できる。
到達目標	1.高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメントが理解できる 2.生活の自立と QOL の向上を目指した高齢者の支援やケアマネジメントが理解できる 3.家族に対する効果的な看護支援が理解できる 4.高齢社会における専門的な機能と役割が理解できる 5.チーム医療を担う老年看護専門職としての課題を見出すことができる
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート 80%、授業参加度 20%を基準として、総合的に評価する
課題に対するフィードバック	学生個々の考え方を引き出せるディスカッションや教員との意見交換などを通して、コメントや講評を行う。また、レポート課題などはコメントを行い返却する。
使用教材	中嶋紀恵子：老年看護学. 日本看護協会出版会 道場信孝：臨床老年医学入門；すべてのヘルスケアプロッフェショナルのために. 医学書院 橋本肇：高齢者の医療の倫理. 中央出版

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	4,5	高齢者ケアと制度の変遷（1）高齢者保健福祉医療制度の変遷（大澤）	【予習】高齢者の医療制度及び福祉制度について、文献から調べてくる。 【復習】高齢者の医療・福祉制度の変遷を復習する。
2	4,5	高齢者ケアと制度の変遷（2）高齢者保健福祉医療制度の課題（大澤）	【予習】現在の高齢社会における医療面や生活面の課題を箇条書きに書き出してくる。 【復習】高齢者保健福祉制度の現状と課題についてまとめ復習しておく。
3	1	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①（田中）	【予習】高齢者の生理的特徴および老年症候群について参考文献を見つけ、熟読して授業に臨む。 【復習】疾患的視線からみた老年症候群についてノートにまとめる。
4	1	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②（田中）	【予習】アルツハイマー型認知症等の認知症を羅列し、その特徴を書く。

			【復習】若年性認知症を起こしやすい認知症疾患を挙げ、それぞれの疾患についてノートにまとめる。
5	2	高齢者の心理・社会的特徴①（角野）	【予習】高齢者の心理に関する既有の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。 【復習】配布プリントに従って、高齢者の心理について考察し、整理しておく。
6	2	高齢者の心理・社会的特徴②（角野）	【予習】社会における高齢者の地位に関する既有の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。 【復習】配布プリントに従って、社会における高齢者の地位について考察し、整理しておく。
7	1,2,4	高齢者の生活機能と QOL（吉田剛）	【予習】高齢者の生活機能低下について文献を調べて整理しておく。 【復習】高齢者の生活機能の低下を予防し、QOL を高めるために必要なことについてまとめる。
8	1,2,4	高齢者の健康増進活動（吉田剛）	【予習】高齢者の健康増進活動にはどのようなものがあるのか調べて要点を整理する。 【復習】高齢者が健康増進のために行う活動を支援する際にどのようなポイントが必要かまとめる。
9	1,2,3	認知症ケアの理論と実際①（大澤）	【予習】ICF や生活行動モデルについて、参考書を用いて調べてくる。 【復習】認知症ケアの基本的考え方について整理しておく。
10	1.2.3	認知症ケアの理論と実際②（大澤）	【予習】認知症者の症状について調べてくる。 【復習】認知症者に対する看護者の役割について復習しておく。
11	1.3.4	高齢者とがん看護①（吉田久）	【予習】高齢者を対象としたがん看護研究の文献を 1 編読み文献を持参すること。

			【復習】高齢者のがん看護の特徴について記載すること。
12	1,3,4	高齢者とがん看護②（石田）	【予習】高齢者のがんの特徴について文献を通して調べる。 【復習】講義と予習から高齢者のがんの特徴特に急性期の特徴ついて学習し、看護支援を整理しておく。
13	3	在宅看護における高齢者ケアの理論と実際（大澤）	【予習】高齢者と家族関係についての課題を、文献等から調べてくる。 【復習】在宅療養している高齢者と家族への支援の在り方を考え、整理しておく。
14	4,5	高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際（老人看護専門看護師）（齊田）	【予習】専門看護師、認定看護師について調べる。 【復習】求められている専門看護師の役割と実際の活動内容から、専門看護師に必要とされる力は何かを整理する。
15	4,5	高齢者看護の課題（大澤）	【予習】今までの講義から、高齢者看護の課題を箇条書きにまとめてくる。 【復習】他者の課題発表や意見交換等から、高齢者看護の課題と看護者の役割についてレポートにまとめる。
備考	オフィスアワー　科目責任者　大澤　月・火の 2・3・4 限 授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合には、メール等にて対応する 大澤幸枝：E-mail　oosawa-y@takasaki-u.ac.jp 田中聡一：E-mail　stanaka@takasaki-u.ac.jp 角野善司：E-mail　zsumino@takasaki-u.ac.jp 吉田剛　：E-mail　tsuyoshida@takasaki-u.ac.jp 吉田久美子：E-mail　yoshikumi@takasaki-u.ac.jp 石田順子：E-mail　jishida@takasaki-u.ac.jp 齊田綾子：公立七日市病院所属 E-mail　ayako.s@lake.ocn.ne.jp		

科目名	母子看護学特論Ⅰ
英文名	Advanced Maternal and Child Nursing Ⅰ
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題に関して、対象を取り巻く環境をふまえて、最近の研究の動向から考察する。具体的には、ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程とその過程を支援する看護の役割、周産期における母性とその家族への支援、地域サポート体制の構築を教授する。また、子どもの権利を尊重し、人格をもつ主体としての子ども観に立脚し、子どもの成長・発達を理解するための理論、健康障害のある子どもと家族に対する看護のあり方を教授する。そして、母子看護学分野における看護師の役割や特性、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にする。
到達目標	1.母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論を説明する。 2.ライフサイクルにおける母と子、家族の健康と健康課題を説明する。 3.母子看護学における倫理と倫理的課題を説明する。 4.母子看護学における看護の役割を考察する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	1）U. ブロンフェンブレンナー著，磯貝芳郎，福富護訳（2007）：人間発達の生態学（エコロジー）　発達心理学への挑戦，川島書店. 2）都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績．医学書院. 3）舟島なをみ（2011）：看護のための人間発達学　第 4 版，医学書院. 4）M. H. クラウス，J. H. ケネル，P. H. クラウス著，竹内徹訳（2001）：親と子のきずなはどうつくられるか，医学書院. 5) Browden.V.R., C. S. Greenberg. (2014) : Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care,　Wolters Kluwer Health. 6) Barnsteiner, J.H.et.al. (2014) : Person and Family Centered Care, Sigma Theta Tau International. ※その他、日本看護科学学会誌，日本小児看護学会誌を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,4	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1] 理論の実践のつながり、対象と環境（エコロジカルモデル）	【予習】シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある理論について確認する。
2	1,4	母子看護学の基盤となる理論[2] 人間の発達の共通性と発達の影響要因	【予習】科目オリエンテーションの内容に基づき、左記の理論について専門書等で調べる。 【復習】①不足する学習内容を補完する。
3	1,4	母子看護学の基盤となる理論[3]　　認知発達理論	
4	1,4	母子看護学の基盤となる理論[4]　　発達課題理論	

5	1,4	母子看護学の基盤となる理論[5] 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論	②左記の理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。
6	1,4	母子看護学の基盤となる理論[6]　ソーシャルサポート理論	
7	1,4	母子看護学の基盤となる理論[7] Patient(Persons)-Family Centered Care の基本概念[7]	
8	2,4	母子・家族の健康と健康課題[1] 新生児期・乳幼児期の子どもと家族の健康課題	【予習】①新生児期・乳児期にある対象と家族の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
9	1,2,4	母子・家族の健康と健康課題[2] 新生児期・乳幼児期の子どもと家族の健康課題の解決に寄与する理論（母親役割移行理論、 Parenting、親-子相互作用モデルなど）	
10	2,4	母子・家族の健康と健康課題[3] 学童期の子どもと家族の健康課題	【予習】①学童期・思春期・青年期にある対象と家族の健康課題をその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 ②上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
11	2,4	母子・家族の健康と健康課題[4] 思春期・青年期から成人移行期の対象と家族の健康課題	
12	1,2,4	母子・家族の健康と健康課題[5] 学童期・思春期・青年期から成人移行期の対象と家族の健康課題の解決に寄与する理論（自己概念、ボディイメージ、自尊感情の概念とその発達など）	
13	3,4	母と子を取り巻く倫理的課題[1] 子どもの権利条約、小児医療における倫理、倫理的意思決定モデル	【予習】子どもの権利、母子看護学における倫理的意思決定に関連するガイドライン、多様な倫理的意思決定モデルなどを調べ、内容を確認する。 【復習】①自己の看護実践を振りかえり、倫理的課題について検討する。 ②不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
14	3,4	母と子を取り巻く倫理的課題[2] 倫理的意思決定モデルの活用による事例検討	
15	1,4	母子看護学における看護の役割、総括	【予習】これまでの授業内容を

			振り返り、看護の役割をまとめる。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限（5 号館 4 階 413 研究室） ②随時メールでも受け付ける。　E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）		

科目名	精神看護学特論
英文名	Advanced Psychiatric Nursing
担当教員	高田　絵理子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	精神保健福祉の動向をふまえ、精神看護についての現状と今後の課題を考察する。
到達目標	1.精神保健福祉の歴史をふまえ、精神保健福祉制度を理解できる。 2.精神看護領域で用いられる諸理論・方法論を理解できる。 3.精神看護における課題を理解できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%）　ディスカッション（20%）　レポート（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては、講評とともにコメントする。 レポートについては、コメントを記載し、返却する。
使用教材	大熊輝雄（著）「現代臨床精神医学」第12版改訂委員会（編さん）　現代臨床精神医学（第12版）　金原出版 日本神保健看護学会誌　日本精神科看護学会誌 その他適宜紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	3	オリエンテーション	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する。
2	1,3	精神医療・看護の歴史	【予習】シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。 【復習】授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。
3	1,3	精神保健福祉の動向	
4	1,3	精神保健福祉対策	
5	1,3	精神障がい者・家族のサポートシステム	
6	3	地域生活を支える考え方	
7	3	地域生活支援	
8	3	病院と地域の連携	
9	2	対人関係理論	
10	2	セルフケアに関する看護理論	
11	2	家族に関する理論と家族の機能	
12	2	疾患・治療に関する理論	
13	3	精神看護の新しい動き	
14	1,2,3	グループワーク	
15	1,2,3	グループワーク	

備考	・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	在宅看護学特論
英文名	Advanced Home Care Nursing
担当教員	小笠原　映子　、棚橋　さつき、笹原　啓子、篠原　純史、平石　桂子、岡部　美保
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	在宅看護に関連する基本的知識や訪問看護ステーションにおける人材育成、管理運営方法について探求する。地域包括ケアシステムにおける在宅看護の果たす役割、継続看護および多職種連携について教授する。
到達目標	1. 在宅看護に関する基本的内容について理解できる。 2. 訪問看護ステーションにおける人材育成、運営管理等について考察することができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける退院支援・退院調整、チームアプローチについて理解できる。 4. 在宅看護における新しい知見について考察することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や事例素材の準備、プレゼンテーションにより総合的に判断する。 レポート（60%）、授業参加態度・貢献度（40%）
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する
使用教材	日本難病看護学会誌　日本在宅ケア学会誌　見藤隆子他著：看護職者のための政策過程入門 ＊その他適宜紹介する

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	在宅看護の理念と概念（小笠原）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
2	1	在宅療養者を支える諸制度の理解（小笠原）	【予習】介護保険制度について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
3	1	看護基礎教育における在宅看護学教育（小笠原）	【予習】 看護基礎教育における在宅看護論の位置づけについて学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
4	1,4	在宅看護における研究（小笠原）	【予習】 最近の在宅看護に関する研究論文の傾向を調べておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。

5	1,3	退院支援・退院調整①（笹原）	【予習】 退院支援・退院調整の基本的事項について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
6	1,3	退院支援・退院調整②（笹原）	
7	1,3	保健医療福祉の協働：チームアプローチ①（篠原）	【予習】 多職種連携の基本事項について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
8	1,3	保健医療福祉の協働：チームアプローチ②（篠原）	
9	1,3	在宅リハビリテーション（平石）	【予習】 在宅リハビリテーションの基本事項について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
10	1,2	訪問看護の実際（岡部）	【予習】 1~9 回の学習内容を整理し、書籍等で訪問看護の現状について調べておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
11	1,2	訪問看護ステーションにおける人材育成①（棚橋）	【予習】 現任教育の基本事項について学習しておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
12	1,2	訪問看護ステーションにおける人材育成②（棚橋）	
13	1,2	訪問看護ステーションにおける経営・管理（棚橋）	【予習】 左記の経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
14	1,2,3,4	在宅看護におけるシステム構築（棚橋）	
15	1,2,3,4	在宅看護の展望と課題（棚橋）	
備考	・授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメール等で対応する。 小笠原オフィスアワー：4 号館 505 研究室　月・水 13：00～14：30　ogasawara@takasaki-u.ac.jp 棚橋オフィスアワー：5 号館 4 階　409 研究室　月・水 13：00～14：30　tanahashi@takasaki-u.ac.jp		

科目名	看護管理学特論Ⅰ
英文名	Advanced Nursing Administration Settings Ⅰ
担当教員	池田　優子、小池　洋子、棚橋　さつき、安野 朝子、木村　憲洋
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	社会の変化と医療の高度化に伴い益々重要性が高まるマネジメントの在り方について探求する。具体的にはマネジメントの基礎理論を踏まえ、病院から在宅まで一貫した医療の質を保証するためのチーム医療の推進とそれを中核的に担う看護者のマネジメント能力育成の課題について考察する。更に病院組織や訪問看護ステーションにおける経営や看護管理者に必要な経営管理能力や管理方法について学ぶ。
到達目標	1.マネジメントに関する諸理論について理解する。 2.看護マネジメントに必要な対人関係調整能力の概要を理解する。 3.病院及び訪問看護事業所における管理・経営の特徴について理解する。 4.自己の経験を生かし看護管理上の課題と今後の方向性を探求することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への参加度（50%）　課題を考察したプレゼンテーション内容（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメント・評価し、次の課題を明確化する。
使用教材	1.井部俊子・中西睦子監修　:「看護管理学集テキスト」全８巻　日本看護協会出版会 2.ピーター.F.ドラッカー（著）上田惇生訳:「マネジメント―基本と原則」　ダイヤモンド社 3.P・ハーシィ、K・H・ブランチャード、D・E・ジョンソン（著）　山本成二　山本あずさ訳:「入門から応用へ　行動科学の展開　人的資源の活用」生産性出版 4.スティーブン.P.ロビンス　高木晴夫訳:「組織行動のマネジメント」　ダイヤモンド社 5.ヘンリー・ミンツバーク（著）奥村哲史　須貝栄訳:「マネジャーの仕事」　白桃書房

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	科目オリエンテーション　看護とマネジメント　（池田）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を理解し、自己の学習課題を整理する。
2	1	マネジメントの定義と役割　（池田）	【予習】使用教材を読み、マネジメントに関する理論について調べる。 【復習】学習したマネジメントの理論と自己の経験と照らし合わせて有用性について考察する。
3	1	組織行動のマネジメント　（池田）	
4	1,2	動機づけを促すマネジメント　（池田）	【予習】動機付けに関する諸理論について学習し、先行研究についてクリティークする。 【復習】不足する学習内容を補完する。
5	1,2	キャリアデベロップメント　（池田）	

6	1,2	人材育成とリーダーシップ （小池）	【予習】キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。 【復習】キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。
7	1,2	キャリア発達に即した教育プログラム （小池）	
8	1,2	グループマネジメントの方法（池田）	
9	2,3,4	地域包括ケアシステムの中での病院と在宅との連携 （棚橋）	【予習】地域包括ケアシステムに関する動向及び先行研究について調べておく。 【復習】在宅におけるサポートシステム及び管理運営について整理する。
10	2,3	在宅看護の経営・管理の課題と展望 （棚橋）	
11	2,3,4	組織横断的なシステム構築 （安野）	【予習】リスクマネジメントに関する文献について調べておく。 【復習】システム構築に関する課題について整理する。
12	2,3,4	感染管理を含むリスクマネジメントシステムの構築 （安野）	
13	3,4	病院経営と医療 （木村）	【予習】病院経営の視点と課題について調べておく。 【復習】病院経営の課題について整理する。
14	3,4	病院経営収益管理 （木村）	
15	1,2,3,4	まとめ （池田） 15 回の内容についての整理及び 学生によるプレゼンテーション	【予習】マネジメントの理論と人材育成の手法、および地域包括ケアシステムの構築に向けて施設・在宅の課題についてまとめる。 【復習】自己のプレゼンテーション内容の振り返りと課題について整理する。
備考	1. 授業外学習の進め方 自律的な学習が基本です。自己の取り組みたい課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。また、マネジメントに関する著作には必ず目を通し、文献カードに整理しておくこと。 予習・復習のための時間は、1 回の授業についておよそ 3－4 時間は取る必要があります。 2. 質問や疑問点への対応 ①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。 担当教員の連絡先：E-mail：yikeda@takasaki-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー： 月曜日 3－5 限 木曜日 1－2 限 4 号館 3 階 301 研究室		

科目名	看護技術学特論Ⅰ
英文名	Advanced Nursing Art and Science Ⅰ
担当教員	鶴田晴美、箕輪 千佳
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解する。また、具体的な看護技術のエビデンスを調べ、臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解する。
到達目標	1.看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解できる。 2.具体的な看護技術(リラクセーションケア、温罨法ケア、足浴ケア、背面開放座位ケア、体圧分散ケアなど)のエビデンスを調べることができる。 3.臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなど付けて返却する。
使用教材	・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。 ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	科目オリエンテーション 看護技術の条件について （＊＊）	【予習】シラバスを読み、講義の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、不足する学習内容を補完する。
2	1,3	エビデンスと看護研究のつながり （＊＊）	【予習】エビデンスに関して専門書等で調べる。 【復習】・授業で配布した資料および紹介した論文を精読する。 ・不足する学習内容を補完する。
3	1,2,3	看護ケアのエビデンスの構築について （箕輪）	
4	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 1 （＊＊・箕輪）	【予習】関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。 【復習】関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を
5	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 2 （＊＊・箕輪）	
6	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 3 （＊＊・箕輪）	

7	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 4（＊＊・箕輪）	検索し、クリティークする。
8	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 5（＊＊・箕輪）	
9	1,2,3	リラクセーションケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究（箕輪）	【予習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 【復習】関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。
10	1,2,3	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 1（箕輪・＊＊）	
11	1,2,3	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 2（箕輪・＊＊）	
12	1,2,3	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 3（箕輪・＊＊）	
13	1,2,3	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 4（箕輪・＊＊）	
14	1,2,3	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 5（箕輪・＊＊）	
15	1,3	総括（＊＊）	【予習】これまでの授業内容を振り返り、まとめる。 【復習】不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。
備考	・関心のある看護技術について文献検討し、現時点でのエビデンスについて発表する。また、関心のある看護技術の開発とエビデンス構築に向けた研究の実際について発表する。 ・文献検索法を熟知しておくこと。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	**地域看護学特論**
英文名	Advanced Lecture on Community Health Nursing
担当教員	倉林　しのぶ、宮崎　有紀子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	地域におけるヘルスプロモーションにかかわる看護の理論と方法について教授する。公衆衛生や健康の概念、個人や集団の健康づくりに向けた健康教育、個人・家族・集団を対象とした看護活動、地域の健康課題の解決のための社会資源の開発と施策への反映について、対象別の実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化といった側面から教授する。
到達目標	1.公衆衛生看護の概念について理解できる 2.健康教育、健康管理に関する保健師の活動とその根拠について理解できる。 3.地域で生活する個人・家族・集団に対する看護活動のあり方について考察を深めることができる。 4.地域の健康問題解決のための社会資源や施策について考察できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度（50%）レポート（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
使用教材	テキストは使用しない。講義内容に応じた資料を提示する。 参考文献： 　金川克子ほか訳「コミュニティアズパートナー」医学書院 「保健師ジャーナル」「公衆衛生」「公衆衛生情報」等の雑誌

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション（倉林）	【予習】シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する。 【復習】オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある文献について調べる。
2	1	公衆衛生看護の概念（宮崎）	【予習】提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。 【復習】講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。
3	1,2	健康教育にかかわる理論と実践例（宮崎））	
4	1,2	ヘルスプロモーションにかかわる理論と実践例（宮崎）	
5	1,2	地域の健康指標および特性の把握（宮崎）	
6	1,2,3	地域における保健医療福祉の連携とシステム化①（倉林）	【予習】保健医療福祉に関する文献を集めておく。また疑問点を抽出しておく 【復習】各分野の連携についてまとめる。
7	1,2,3	地域における保健医療福祉の連携とシステム化②（倉林）	
8	1,2,3	健康危機管理（宮崎）	【予習】講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点
9	2,3	地域保健活動の評価方法（宮崎）	

10	2,3	在宅療養者への支援（倉林））	を抽出しておく。 【復習】公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、また、在宅との連携についてまとめておく。
11	2,3	社会資源と地域ケアシステム①（倉林）	
12	2,3	社会資源と地域ケアシステム②(倉林)）	
13	2,3	家族支援（倉林）	【予習】講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。 【復習】家族を含む地域看護の対象者についての支援と倫理的課題についてまとめる。
14	2	地域看護活動における倫理的側面（倉林）	
15	1,2,3	まとめ（倉林）	
備考	・関連する文献の検索および検討を主体的に行うこと。 ・授業内容に基づき自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00〜13：00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp　メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。		

科目名	国際看護学特論Ⅰ
英文名	Advanced International Nursing Ⅰ
担当教員	望月経子
時期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位
講義目標	国際保健における理念や Child Health, Maternal Health, on-Communicable Diseases, Universal Health Coverage, Infection Diseases などを含む グローバルヘルスの健康課題、さらに国際看護における基本的知識を学び、国際社会の中での看護のあり方について探究する。さらに、国際 MDGsや SDGsを踏まえ、今後の国際保健が目指す方向性を考察する。
到達目標	1. 世界の健康格差を理解し、グローバルの視点で健康課題を理解する。 2. MDGsの果たした成果を振り返りながら SDGsの目指す方向性を理解する。 3. 日本における国際協力の仕組みと国・民間・国際機関の活動について理解する。 4. 国際社会の中で看護が果たす役割について明確にすることが出来る。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	評価方法：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。
使用教材	1） 国際保健医療学会編（2013）：国際保健医療学、杏林書院 2） Journal of International Health、International Nursing Review 3） 田村やよい編（2016）：国際看護学、メヂカルフレンド社 4） 蟹江憲史編（2017）：持続可能な開発目標とは何か:2030 年へ向けた変革のアジェンダ、ミネルヴァ書房 5） 国際協力研究所編（2009）：指標から国を見る、独立法人国際協力機構（JICA）

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	世界の保健に関する歴史的変遷について	【予習】教材3を精読する。 【復習】世界の保健分野で歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理する。
2	1	日本の保健・看護に関する歴史的変遷について	【予習】教材3を精読する。 【復習】日本の保健は歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理し、国際保健の歴史変遷がどのように関わっていたのかを合わせ整理する。
3	1	国際保健におけるプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション理論	【予習】教材1、3を精読する。 【復習】プライマリーヘルスケア理論とヘルスプロモーション理論を整理し、その開発の歴史的変遷を整理する。
4	1	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 健康格差とその課題	【予習】教材1、4、5を精読する。

			【復習】健康格差が発生する原因を学び、健康格差がどのように健康問題に影響を及ぼすのかを整理する。
5	1	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 世界で起こっている健康問題	【予習】教材1、4、5を精読する。 【復習】現在、健康格差によって起こっている健康問題に対しての解決方法を考える。
6	2	MDGsの目的と世界の動き	【予習】教材1、4を精読する 【復習】MDGsが提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015 年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱された SDGsの特徴と全政界の取り組みを整理する。
7	3	MDGsの成果と SDGsが目指す方向について	
8	3	SDGsの世界的動向	
9	3	国際協力にかかわる機関・組織とその役割 /国際組織とその活動	【予習】教材1、3、5を精読する。 【復習】国際経協力に関わる国外、国内機関を整理しそれぞれの具体的機能、活動についてまとめる。
10	3	国際協力に関わる機関・組織とその役割 /国内組織とその活動	
11	4	国際災害看護の実際	【予習】これまでに海外で発生している災害を調べ、看護職がどのように関わってきたのかまとめる。 【復習】国際災害活動の実際を振りかえり、今後の課題につき整理する。
12	4	日本におけるグローバルな課題 / 感染症・環境破壊・災害・在日外国人問題	【予習】教材3を精読する。 【復習】日本におけるグローバルな課題に対しての解決方法を探る。
13	4	国際看護活動の場と対象、健康問題について	【予習】世界で行われている看護の国際協力（ODA,NGO）について調べる。 【復習】講義を通して、残された健康問題を整理する。
14	4	日本の看護分野における国際協力の現状と課題	
15	4	看護の立場で考えるグローバルヘルスの今後の課題と展望	【予習】世界における保健医療分野に残されている課題を明確にする。 【復習】講義をとおし、残された健康課題に対しての看護の役割を整理する。

備考	備考 ・自分自身の経験を基に、世界で起こっている健康問題を検討し、その中で看護に求められている機能や役割を、レポート・意見交換などを通し探求する。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として各講義の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅱ
英文名	Advanced Critical Care NursingⅡ
担当教員	石田　順子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述し、その現象をケアリング理論、ストレス - コーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort 理論から捉え直し、対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化する。
到達目標	1.クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述できる。 2.記述した現象をケアリング理論、ストレス - コーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort 理論から捉え直すことができる。 3.クリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	評価方法：プレゼンテーション（30%）　レポート（70%）
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付し、返却する。 対話式に講義を進めていくのでその都度講評およびコメントを行う。
使用教材	卯野木健監訳（2007）：AACN クリティカルケア看護マニュアル第 5 版. エルゼビア・ジャパン 日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、聖路加看護学会誌から論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	クリティカルケアにおける患者・家族の課題と実践について	【予習】自分自身の経験を通してクリティカルケアにおける患者・家族の課題と実践について考えまとめる。 【復習】ディスカッションを通して明確になった内容を整理する。テーマに関連する文献を収集する。
2 3 4	1	クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と実践について記述する。	【予習】1 回目の講義を通して明らかになった課題と実践を記述する。 【復習】ディスカッションを通して深まった現象を含めて、理論的に記述する。記述した現象に特化した文献を収集する。
5 6 7	2	記述した現象についてケアリング理論、ストレス - コーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort 理論などを用いて分析する。	【予習】前回の講義において記述した現象について左記の理論を用いて分析する。 【復習】ディスカッションを通してさらに深めた内容を記述し

8			ていく。記述した現象に特化した文献を集める。
9 10 11 12	2,3	記述した現象のテーマについて文献レビューを行い、現時点でのエビデンスをまとめる。	【予習・復習】記述した現象のテーマについて関連する文献を収集し、集めた文献を精読し、文献レビューを行う。
13 14 15	3	記述した現象を元にクリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化し、発表する。	【予習】今までの学習を通して得られた成果をまとめ、発表の準備をする。 【復習】ディスカッションおよび講評、コメントを振り返り、クリティカルケアにおける課題を明確化しておく。
備考	・クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践の課題について明確化し、発表する。 ・文献検索を熟知していること。また、自主的に文献検索を行い、レビューしていくこと。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp（石田） オフィスアワー：火曜日 14:30～19:00		

科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ :Advanced Critical Care Nursing
担当教員	石田　順子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	特論Ⅰで明確にしたクリティカルケアの看護実践における課題を解決する方法について文献検討およびディスカッションから導き出し、実践に適用できるアセスメント方法や看護介入プログラムを作成する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入の効果を判断する効果指標も作成する。
到達目標	1.クリティカルケアの看護実践の課題の解決方法について文献検討から導き出せる。 2.実践課題を解決するためのアセスメント方法や看護介入プログラムを作成する。 3.作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	評価方法:プレゼンテーション(30%)　レポート(70%)
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付し、返却する。 対話式に講義を進めていくのでその都度講評およびコメントを行う。
使用教材	日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、聖路加看護学会誌から論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決について。	【予習・復習】看護実践の課題を解決するための文献検索を行い、文献の整理をする。不足する学習内容を補完学習する。
2 3 4 5 6	1,2,3	クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決の方法について文献検討から導き出し、発表する。	【予習】準備した文献を精読し、患者・家族の課題と看護実践の問題解決の方法を導き出し、発表の準備をする。 [復習]不足する学習内容を補完学習する。
7 8 9 10 11	1,2,3	文献検討を元に課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入効果を判断する効果指標も作成する。	【予習】課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表の準備を行う。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
12 13 14 15	1,2,3	作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討し、修正し、発表する。	【予習】作成したプログラム等の実践への適用について検討、修正し、発表準備を行う。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
備考	・特論Ⅰで明確にした課題について、文献検討をもとに実践に適用できる課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。		

	・主体的に文献検索を行い、文献検討を進めていくこと。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp（石田） オフィスアワー：火曜日 14:30～19:00

科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅱ		
英文名	SeminarⅡ:Advanced Critical Care Nursing		
担当教員	石田　順子		
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位		
講義目標	特論Ⅰ、演習Ⅰ、特論Ⅱで検討したアセスメント方法や看護介入プログラムをもとに、研究テーマを明確にする。研究テーマから研究目的を導き、研究デザイン、研究方法について検討する。研究テーマの明確化、対象の選定、介入研究の場合には介入方法の確立、データ収集方法・データ分析方法について文献検討をもとに検討する。		
到達目標	1.研究テーマおよび研究目的の明確化ができる。 2.研究目的に合った研究デザイン・研究方法（対象者の選定、介入研究の場合は介入方法の確立、データ収集方法・データ分析方法）が検討できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	プレゼンテーション（50%）　レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	講義ごとに講評およびコメントを行う。 資料として提出されたものに対しては文章でコメントするとともに口頭でもコメントを返す。		
使用教材	特に使用しない。		
講義内容	第 1 回～5 回	今までの学習をもとに研究テーマ、研究目的を明らかにする。	
	第 6 回～10 回	研究デザイン、研究方法、研究フィールドについて明らかにする。	
	第 11 回～15 回	対象者の選定、加入方法の確立、データ収集方法、データ分析方法を検討する。	
	予習	講義ごとに資料を作成する。課題は、その都度提示する。	期間中適宜
	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 不足する学習内容を補完学習する。	期間中適宜
備考	・研究計画書作成に向けた研究デザイン、研究方法の検討を行う。 ・課題に対して積極的に取り組み、自分で考え主体的に臨むこと。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail:jishida@takasaki-u.ac.jp（石田）		

科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅲ		
英文名	SeminarⅢ：Advanced Critical Care Nursing		
担当教員	石田　順子		
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位		
講義目標	演習Ⅱで検討した内容をもとに研究計画書を作成し、プレテストを実施し、計画書の修正を行う。		
到達目標	1.研究計画書を作成できる。 2.プレテストをもとに研究計画書の修正ができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	プレゼンテーション（50%）　レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	講義ごとに講評およびコメントを行う。 資料として提出されたものに対しては文章でコメントするとともに口頭でもコメントを返す。		
使用教材	特になし。		
講義内容		2 年次 4 月から 5 月に開講する。 第 1 回～5 回　研究計画書の作成（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、倫理的配慮の明確化 第 6 回～10 回　プレテストの実施 第 11 回～15 回　研究計画書の実施	
	予習	講義ごとに資料を作成する。課題は、その都度提示する。	期間中適宜
	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 不足する学習内容を補完学習する。	期間中適宜
備考	・演習Ⅱで作成したアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を実践で実施し、事例をまとめ、特別研究で用いるアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を確定する。 ・研究へ向けての計画書作成のため主体的・積極的に予習・復習を行い、講義に臨むこと。 ・予習・復習は原則として、各授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp（石田）		

科目名	がん看護学特論Ⅱ
英文名	Advanced Cancer NursingⅡ
担当教員	吉田 久美子
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位
講義目標	成人期におけるがん患者と家族ががんや治療から受ける影響をふまえ、患者と家族のQOLの向上を目指した看護実践のあり方について、セルフケア理論やセルフエフィカシーなどの理論を用いて理解する。特に、化学療法や放射線療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。
到達目標	1.がん看護におけるセルフケア理論やセルフエフィカシーについて、実際の現象と結びつけ理解できる。 2.化学療法や放射線療法、緩和ケアを受ける患者の特徴を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。
使用教材	都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績. 医学書院 他、日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌などから論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	がん看護学に活用できる理論について	【予習・復習】がん看護学で活用されやすい代表的な理論の概要について学習すること。
2	2	化学療法を受ける患者の特徴と抱える問題について	【予習・復習】化学療法を受ける患者の特徴や問題について文献を購読し理解すること。
3	2	放射線療法を受ける患者の特徴と抱える問題について	【予習・復習】放射線療法を受ける患者の特徴や問題について文献を購読し理解すること。
4	1,2	緩和ケアを受ける患者の特徴と抱える問題について	【予習・復習】緩和ケアを受ける患者の特徴や問題について文献を購読し理解すること。
5	1,2	がん看護学とセルフケア理論について－1	【予習・復習】セルフケア理論の概要とキーワードについて学習すること。
6	1,2	がん看護学とセルフケア理論について－2	【予習・復習】セルフケア理論の看護システムについて学習すること。
7	1,2	がん看護学とセルフケア理論の活用と課題について－3	【予習・復習】セルフケア理論の活用例について検討し、看護の課題を理解すること。
8	1,2	がん看護学とセルフエフィカシーについて－1	【予習・復習】セルフエフィカシーの概要を理解すること。

9	1,2	がん看護学とセルフエフィカシーについて－2	【予習・復習】セルフエフィカシーと看護の関連について学習すること。
10	1,2	がん看護学とセルフエフィカシーの活用と課題について－3	【予習・復習】がん患者におけるセルフエフィカシーの活用例を検討し看護の課題を理解すること。
11	1,2	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について	【予習・復習】治療を受ける患者の家族の特徴を文献から理解すること。
12 13	1,2	緩和ケアを受ける患者を支える家族への看護について	【予習・復習】治療を受ける患者を支える家族への看護を文献から現状を理解すること。
14 15	1,2	治療・緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護について	【予習・復習】治療・緩和ケアを受ける患者と家族を支援するための看護の具体的方法について文献から学習すること。
備考	1.具体的な経験をもとに患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。 3.予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 4.オフィスアワー：月曜 1～4 限 5.担当教員連絡先：E メールアドレス：yoshikumi@taksaki-u.ac.jp		

科目名	がん看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ :Advanced Cancer Nursing
担当教員	石田　順子、吉田　久美子、砂賀　道子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	特論Ⅰを踏まえ、がん看護の実践の場で起こっている患者・家族の反応と看護実践について記述し、その現象をセルフケア理論、ストレス-コーピング理論、家族看護学の理論、緩和ケアなどの理論を活用して分析することで捉え直し、チーム医療の中の看護師の役割を踏まえ対象の生活の質（QOL）を高めるための看護実践上の課題と看護課題を明確化する。
到達目標	1.がん患者・家族に現れている反応と看護実践について述べることができる。 2.がん患者・家族に現れている反応と看護実践について理論や概念を適用することにより捉え直すことができる。 3.がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連について説明できる。 4.チーム医療の中の看護師の役割を踏まえ、対象の生活の質（QOL）を高めるための看護実践上の課題について明確化できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 　　豊かな人間性と使命感
評価方法	評価方法：プレゼンテーション（30%）　レポート（70%）
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントを付し、返却する。 プレゼンテーション時はディスカッションを行い、その都度講評およびコメントを行う。
使用教材	・がん看護コアカリキュラム，医学書院 ・D.F ポーリット,B.P.ハングラー著,近藤潤子訳,看護研究　原理と方法,医学書院 ・Nancy Burns,SuzanK,Grove 著,黒田裕子他訳,看護研究入門,エルゼビア・ジャパン ・日本がん看護学会誌、日本看護研究学会誌、日本看護科学学会学会誌から文献を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	がん患者・家族における課題と看護実践について	【予習】がん看護における患者・家族の課題と看護実践について考える。 【復習】ディスカッションを通して明確になった内容を整理する。記述したテーマに関連する文献を収集する。
2 3	1	①がん患者・家族に現れている反応と看護実践について記述する。	【予習】がん患者・家族に現れている反応と看護実践について、経過によって異なる内容を2つ記述する。 【復習】ディスカッションを通して深まった現象を含めて、理論的に記述する。テーマに関連した文献を収集する。不足する学習内容を補完学習する。
4 5	1	②がん患者・家族に現れている反応と看護実践について記述する。	

6 7 8 9	2,3	記述した現象についてセルフケア理論、ストレス-コーピング理論、家族看護学の理論、緩和ケアなどの理論などを用いて分析する。	【予習】記述した現象のどちらかについて理論を用いて分析する。 【復習】ディスカッションで深めた内容を追加整理する。不足する学習内容を補完学習する。
10 11 12	2,3,4	記述したがん看護における中心的テーマについて文献レビューを行い課題を明確化する。	【予習】テーマに沿って収集した論文を整理する。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
13 14 15	4	記述した現象をもとに明確化された看護実践上の課題についてプレゼンテーションを行う。	【予習】プレゼンテーションの準備 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
備考	・十分な準備をしてから講義に臨むこと。 ・主体的積極的に文献を収集していく。興味・関心のある研究を踏まえて準備を進める。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：yoshikumi@takasaki-u.ac.jp（吉田） E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp （石田） E-mail：sunaga@takasaki-u.ac.jp （砂賀）		

科目名	がん看護学演習Ⅱ		
英文名	SeminarⅡ:Advanced Cancer Nursing		
担当教員	石田　順子、吉田　久美子、砂賀　道子		
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位		
講義目標	特論Ⅰ、演習Ⅰ、特論Ⅱで明らかになったがん看護実践上の課題について追究し、先行研究を活用しながら、興味関心のある研究テーマを明確にする。そして研究テーマから研究枠組みを構築し研究目的に適した研究計画書を作成する。		
到達目標	1.がん看護における看護実践上の課題について追究することができる。 2.文献検討および文献クリティークを行い、興味関心のある研究テーマを明確化できる。 3.研究の枠組みを作成し、研究計画書の原案を作成できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	プレゼンテーション（50%）　レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	講義ごとに講評およびコメントを行う。 資料として提出されたものに対しては文章でコメントするとともに口頭でもコメントを返す。		
使用教材	参考文献 ・がん看護コアカリキュラム，医学書院 ・D.F ポーリット，B.P.ハングラー著，近藤潤子訳，看護研究　原理と方法，医学書院 ・Nancy.Burns，SuzanK.Grove 著，黒田裕子他訳，看護研究入門，エルゼビア・ジャパン ・日本看護科学学会学会誌や日本がん看護学会誌を活用する。		
講義内容	第 1 回	がん看護における看護実践上の課題について。	
	第 2 回～6 回	がん看護における看護実践上の課題について、先行研究について文献検討および文献のクリティークから研究テーマを明確化する。	
	第 7 回～10 回	研究テーマの概念枠組み、研究手法（対象者、分析方法、評価方法等）、倫理的配慮について文献検討をもとに検討する。	
	第 11 回～15 回	研究テーマに沿った研究計画書の原案を作成する。	
	予習	講義ごとに資料を作成する。課題は、その都度提示する。	期間中適宜
	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 不足する学習内容を補完学習する。	期間中適宜
備考	・課題に積極的に取り組むこと。 ・自分で考え、主体的に講義に参加すること。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：yoshikumi@takasaki-u.ac.jp（吉田） E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp（石田） E-mail：sunaga@takasaki-u.ac.jp（砂賀）		

科目名	がん看護学演習Ⅲ		
英文名	SeminarⅢ：Advanced Cancer Nursing		
担当教員	石田　順子、吉田　久美子、砂賀　道子		
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位		
講義目標	演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき明らかにした課題を、臨床において実践可能であるか検証する。そして抽出された問題点および改善点について整理し、研究計画書の修正を行い特別研究の円滑な実践につなげられるよう指導する。		
到達目標	1.演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能であるか検討する。 2.研究施設との調整を行い、問題点や修正点を明確にする。 3.問題点を修正し実践可能な研究計画書として完成させ、倫理審査を受け承認を得る。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	プレゼンテーション（50%）　レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	講義ごとに講評およびコメントを行う。 資料として提出されたものに対しては文章でコメントするとともに口頭でもコメントを返す。		
使用教材	特に指定しない。		
講義内容	2 年次 4 月～5 月にかけて開講する。 下記のプログラムに沿って進めていく。 1.演習Ⅱで作成した研究計画書の検討（実践可能なレベルであるか検証） 2.研究施設との調整 3.研究計画書の問題点、修正点の明確化 4.研究計画書の修正 5.倫理審査の準備および申請 6.プレゼンテーション・まとめ		
	予習	講義ごとに資料を作成する。課題は、その都度提示する。	期間中適宜
	復習	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 不足する学習内容を補完学習する。	期間中適宜
備考	・がん看護学演習Ⅰ・Ⅱについて学習内容を整理した上で演習Ⅲに臨むこと。 ・課題に積極的に取り組み、自分で考え、主体的に講義に参加すること。 ・予習・復習は原則として、各授業の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail：yoshikumi@takasaki-u.ac.jp（吉田） E-mail：jishida@takasaki-u.ac.jp （石田） E-mail：sunaga@takasaki-u.ac.jp（砂賀）		

科目名	**地域・精神看護学特論**
英文名	Advanced Community Health & Psychiatric Nursing
担当教員	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	地域・精神看護学領域における研究動向を踏まえ、研究課題の明確化と研究計画の作成に向けた文献抄読を行う。国内外の文 献抄読により、論文読解能力を高め、研究目的に沿った研究手法について理解する。
到達目標	1.地域・精神看護学領域における研究課題について検討できる 2.研究課題に関連する文献のクリティークができる 3.文献学習を基に、研究の基盤となる理論について理解し、説明ができる 4.文献学習を基に、研究実践に向けた研究手法について理解し、説明ができる
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度（60%）　レポート（40%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーション時は、毎回、講評とともにコメントする。
使用教材	各回の授業内容に関連した文献を提示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション（倉林）	【予習】シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する。 【復習】オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する。
2	1	地域におけるヘルスプロモーションと課題（宮崎）	【予習】シラバスを参考に各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。 【復習】授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。
3	1	保健行動とその根拠、および生活習慣病の予防と課題（宮崎）	
4	1,2	健康教育等の行動変容に向けた取り組み（宮崎）	
5	1,2	地域で生活する療養者と家族支援に関する課題（倉林）	
6	1,2	地域におけるグリーフケア（倉林）	
7	2,3	遺族ケアと社会資源（倉林）	
8	2,3	地域領域における倫理的課題（倉林）	
9	2,3	精神領域における倫理的課題（倉林）	
10	1,2	退院支援に向けた取り組み	
11	2,3	地域生活を支える考え方	
12	1,2	地域生活支援に向けた取り組み	
13	1,2	精神障がい者自身のスティグマと課題	
14	1,2	職場における精神保健活動と課題	
15	3,4	まとめ、総合討論（倉林）	【予習】本授業全体の見直しておく。 【復習】全体のまとめを行い研究課題について検討する。

備考	・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うこと。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00〜13：00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp　メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。

科目名	地域・精神看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ : Community Health and Psychiatric Nursing
担当教員	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	地域・精神看護学領域における健康課題を多様な角度から捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。近年の地域・精神看護学の研究動向を踏まえながら、対象とその家族、また保健・医療従事者の健康課題やメンタルヘルスについての理解を深める。また、喪失体験に関わる臨床的、倫理的側面の知識を習得し地域におけるグリーフケアについて探究する。
到達目標	1.地域で生活する対象およびその家族のもつ健康課題について理解できる。 2.地域・精神看護学領域における健康課題解決のための理論構築ができる。 3.地域の特徴を踏まえた看護介入の方法について明確化できる。 4.課題を解決するためのアプローチについての討論ができる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	ディスカッションとグループワークへの参加（30%）プレゼンテーション（20%） レポート（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
使用教材	演習内容に応じ、適宜提示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1,2	地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題の探究	【予習】シラバスを読み、講義目標を理解する。 【復習】対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。
3 4 5 6	1,2	対象および家族のもつ健康課題のアセスメント	
7 8 9 10 11 12	1,2,3	プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピ ング理論、家族発達理論、死別における悲嘆プロセスおよび予期悲嘆、 病的悲嘆の概念、スピリ チュアルペイン、家族間における倫理的問題について	【予習】シラバスのなかのキーワードについて学習する。 【復習】各モデル理論等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。
13 14 15	1,2,3	研究課題の明確化と課題発表	【予習】プレゼンテーションの準備。 【復習】本講義の全体を見直す。

備考	・講義は対話形式で行う、積極的に発言すること ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 倉林:オフィスアワー:月曜日・火曜日の 11:00～13:00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。

科目名	地域・精神看護学演習Ⅱ
英文名	SeminarⅡ：Community Health and Psychiatric Nursing
担当教員	倉林 しのぶ
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	地域・精神看護学演習Ⅰで捉えた健康課題を解決するための具体的な実践方法について、先行研究や国内外の文献を活用しながら検討する。健康課題に応じた方法論を構築したうえで、研究テーマおよび目的に基づいた実践のためのプログラムを作成する。
到達目標	1.健康課題の背景にある、対象および家族の発達段階や価値観について記述できる 2.健康課題に関連する国内外の文献について検討しクリティークができる 3.問題解決のための具体的な実践のためのプログラムの作成ができる
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	ディスカッションとグループワークへの参加（30%）　プレゼンテーション（30%）　レポート（40%）
課題に対するフィードバック	プログラム内容を含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
使用教材	適宜提示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	対象および家族の発達段階とその背景について	【予習】 シラバスの確認と、必要な文献の探索。 【復習】 文献を理解した上で整理しまとめる。
2	1		
3	1,2	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討	【予習】 文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。 【復習】文献整理、プログラムの検討。
4	1,2		
5	1,2		
6	3	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	【予習】 健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。 【復習】毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。
7	3		
8	3		
9	3		
10	3		
11	3	作成した実践プログラムの発表と修正	【予習】プレゼンテーションの準備。 【復習】コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。
12	3		
13	3		
14	3	プログラムに基づく実践可能な実習プランの作成	
15	3		

備考	・提示された資料については必ず事前学習した上で授業に参加すること。ディスカッションでは積極的に発言すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00～13：00

	E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp　メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。	

科目名	**地域・精神看護学演習Ⅲ**
英文名	SeminarⅢ：Community Health and Psychiatric Nursing
担当教員	倉林 しのぶ
時期・単位	2 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	演習Ⅱで作成した実践プログラムを計画に基づいて実施する。実施に際しては、施設・他職種との連携・調整を図りながら、 プログラムの効果や問題点・改善点についても検討し、評価につなげていく。
到達目標	1.実践プログラムに基づいた実施ができる 2.実施したプログラムの効果判定、問題点、改善点について整理できる
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	実習計画（20%） 実習への取り組み（20%） ケースレポート（30%） 実習レポート（30%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
使用教材	演習の進行状況に応じ、適宜提示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	4 月 実践プログラムに関する全体の流れを確認する 実習場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する	【予習】プログラムを確認し、全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う。 【復習】実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる。
2			
3			
4		実習施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施	
5			
6		5 月～6 月 実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	【予習】 実施までの準備を綿密に行う。 【復習】実施後の効果や問題点の把握し、整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う。
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

備考	・プログラム実践のための施設・他職種との調整に臨んでは、具体的な計画のもとに実施すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の 11：00～13：00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。

科目名	母子看護学特論Ⅱ
英文名	Advanced Maternal and Child NursingⅡ
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題を、対象を取り巻く環境をふまえた上で専門的な視点から見出す。具体的には、文献を精読し、理論を理解し、そのコアとなる概念を理解する。その上で、子どもと家族の健康問題や健康課題の解決に向けた方策を考察する。
到達目標	1.母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論や概念を理解する。 2.母子看護学の基盤となる理論や概念を活用した論文を精読し、理解する。 3.各ライフサイクルにある女性、母性の特徴、および健康障害を抱え生活する子どもと家族の特徴を理解する。 4.上記 1～3 を踏まえ、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題とその解決方策を考察する。 5.母子看護学における看護の役割を考察する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	1）都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績．医学書院. 2）筒井真優美編集（2015）：看護理論家の業績と理論評価，医学書院. 3）M. H. クラウス，J. H. ケネル，P. H. クラウス著，竹内徹訳（2001）：親と子のきずなはどうつくられるか，医学書院. 4）Browden, V. R., C. S. Greenberg.（2014）：Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health. ※その他、日本看護科学学会誌，日本小児看護学会誌を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,5	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1] ヘルスプロモーション	【予習】シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある理論について確認する。
2	1,2,5	母子看護学の基盤となる理論[2] 子どものセルフケアの発達	【予習】科目オリエンテーションの内容に基づき、左記の理論について専門書等で調べる。 【復習】①不足する学習内容を補完する。 ②左記の理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。
3	1,2,5	母子看護学の基盤となる理論[3] 子どもの気質と parenting、母親役割達成（移行）モデル	
4	1,2,5	母子看護学の基盤となる理論[4] 愛着理論、母子相互作用理論、親-子相互作用（バーナード）モデル	
5	1,2,5	母子看護学の基盤となる理論[5] ストレス・コーピング理論、子どものストレス・コーピングの発達	

6	1,2,3,4	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[1] 母親役割達成(移行)モデル	【予習】①左記のモデルについて専門書などで調べる。 ②左記の健康課題に関連する論文、モデルを活用した論文を検索し、クリティークする。 【復習】①不足する学習内容を補完する。
7	1,2,3,4	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[2] 育児不安、育児負担のある母親の理解と支援	
8	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[1] 健康障害を抱える子どもの特徴	【予習】①健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する
9	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[2] 健康障害を抱える子どもの家族の特徴	
10	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[3] 健康障害を抱える子どもと家族を取り巻く環境—エコロジカルモデルから人的・物理的環境、社会資源、多職種連携の現状と関係性を考える—	
11	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[4] 健康障害を抱える子どもと家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から—	
12	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[5] 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護① —医療的ケアを必要とする子どもの特徴と健康課題—	【予習】①医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。
13	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[6] 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護② —医療的ケアを必要とする子どもの家族の特徴と健康課題—	
14	1,2,3,4	健康障害を抱える子どもと家族への看護[7] 医療的ケアを必要する子どもと家族への看護③ —子どもと家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から—	
15	5	母子看護学における看護の役割、総括	【予習】これまでの授業内容を振り返り、看護の役割をまとめる。 【復習】不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。

備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限（5 号館 4 階 413 研究室） ②随時メールでも受け付ける。　E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）

科目名	母子看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ :Maternal & Child Nursing
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	母子看護学特論の学びをもとに、母性、子どもと家族の抱える健康課題を明確化する、母性・父性に関する理論、家族理論、子どもの成長と発達に関する理論、保育・教育理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論から健康課題を捉えなおし、母子看護学の対象である子どもと家族が生活する場の特徴を明確化し、看護職の役割と看護介入のあり方を明確化する。
到達目標	1.文献検討の手法を理解する。 2.母性、子どもと家族の健康課題と看護実践の現状について記述する。 3.記述した健康課題を、母子看護学に関する諸理論から捉えなおす。 4.母子看護学の対象である子どもと家族が生活する場の特徴を踏まえ、求められる看護の役割、看護介入方法と課題を明確化する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（10%）、プレゼンテーションとクリティーク（30%）、レポート（60%）
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートにはコメントを付して返却する。
使用教材	1)ジュディス・ガラード著，安部陽子訳（2012）：看護研究のための文献レビュー　マトリックス方式　第 3 版，医学書院. 2)キャサリン・ポープ，ニコライ・メンズ，ジェニー・ポペイ著，伊藤景一，北素子監訳（2009）：質的研究と量的研究のエビデンスの統合―ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用，医学書院. ※その他、母子看護学特論Ⅰの配布資料や日本看護科学学会誌，日本小児看護学会誌を適宜活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	2	オリエンテーション，母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究	【予習】シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある学習内容を明確化する。
2	1	文献検討の手法[1] 文献のクリティーク、文献整理（マトリックス法）、サブストラクション	【予習】テキスト 1)、2)の関連する項を精読する。 【復習】不足する学習内容を補完する。
3	1	文献検討の手法[2] Meta 分析、Meta 統合、質的研究と量的研究のエビデンスの統合	
4	2,3	フィールドワーク、文献のクリティーク[1] フィールドワーク（母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わりや包括的アセスメント、事例分析、家族会・患者会への参加、学会・研修会への参加）、および文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。	【予習・復習】①自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワークの計画立案、文献検索、文献精読、クリティークを行う。

5	2,3	フィールドワーク、文献のクリティーク[2] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。	②健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。 【復習】①フィールドワーク、文献のクリティークをとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。 ②不足する学習内容を補完する。
6	2,3	フィールドワーク、文献のクリティーク[3] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。	
7	2,3	フィールドワーク、文献のクリティーク[4] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。	
8	2,3	フィールドワーク、文献のクリティーク[5] フィールドワークおよび文献クリティークを行い、母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題を明確にする。	
9	2,3	プレゼンテーション[1]	【予習】第 4～8 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を補完する。
10	2,3,4	エビデンスの統合[1] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。	【予習・復習】①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。 【復習】 文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。
11	2,3,4	エビデンスの統合[2] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。	
12	2,3,4	エビデンスの統合[3] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。	
13	2,3,4	エビデンスの統合[4] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。	
14	2,3,4	エビデンスの統合[5] 母子看護学の対象である子どもと家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。	
15	2,3,4	プレゼンテーション[2]	【予習】第 10～14 回の学習成果のプレゼンテーション資料

			を作成し、準備する。 【復習】自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限（5 号館 4 階 413 研究室） ②随時メールでも受け付ける。　E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）		

科目名	母子看護学演習Ⅱ
英文名	SeminarⅡ:Maternal & Child Nursing
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	1年次　後期　選択　2　単位
講義目標	文献検討やディスカッションをとおして、母子看護学演習Ⅰで選定した健康課題と看護実践上の課題について研究的視点から論述し、自己の課題を明確化する。その上で研究課題の概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。
到達目標	1.文献検討に基づき、研究課題を焦点化する。 2.上記2に基づき、研究課題を設定する。 3.研究課題に対する看護研究のあり方やその方向性を明確化する。 4.研究課題に対する看護研究プログラムの試案を作成する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーションとクリティーク(30%)、レポート(60%)
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートにはコメントを付して返却する。
使用教材	1)ジュディス・ガラード著, 安部陽子訳(2012):看護研究のための文献レビュー　マトリックス方式　第3版, 医学書院. 2)キャサリン・ポープ, ニコライ・メンズ, ジェニー・ポペイ著, 伊藤景一, 北素子監訳(2009):質的研究と量的研究のエビデンスの統合―ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用, 医学書院. ※その他、母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰの配布資料や日本看護科学学会誌, 日本小児看護学会誌を適宜活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション, 母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究	【予習】①シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ②研究として取り組みたい研究課題を明確にする。 【復習】科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある学習内容を明確化する。
2	1,2	研究課題の焦点化、明確化[1] フィールドワーク(母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わりや包括的アセスメント、事例分析、患者会・家族会への参加、学会・研修会への参加など)、文献のクリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	【予習】①自己の関心のあるテーマに基づき、フィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②研究課題の拠り所になる理論・概念を明確化する。 【復習】自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。
3	1,2	研究課題の焦点化、明確化[2] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確にする。	

4	1,2	研究課題の焦点化、明確化[3] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	
5	1,2	研究課題の焦点化、明確化[4] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討を行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	
6	1,2	プレゼンテーション[1]	【予習】第 2～5 回の学習成果のプレゼンテーション資料を準備する。 【復習】自己の研究課題への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を補完する。
7	3	研究方法の選定[1] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性（研究デザイン、研究対象者の選定、データ収集方法、分析方法など）を明確化する。	【予習】①研究課題に関連したフィールドワーク、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 【復習】自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。
8	3	研究方法の選定[2] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	
9	3	研究方法の選定[3] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	
10	3	研究方法の選定[4] フィールドワーク、文献クリティーク、文献検討、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	
11	3	プレゼンテーション[2]	【予習】第 7～10 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】自己の研究課題に対する研究方法の方向性を導くとともに、 不足する学習内容を補完する。
12	4	研究計画書の試案作成[1]	【予習】今までの学習内容に基

		今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	づき、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。 【復習】不足する学習内容を補完する。
13	2,3,4	プレゼンテーション[3]	【予習】第 12 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。
14	2,3,4	研究計画書の試案作成[2] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	【予習】第 13 回の授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。 【復習】不足する学習内容を補完する。
15	2,3,4	プレゼンテーション[4]	【予習】第 14 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】自己の研究課題に対する研究方法についての課題を検討する。
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしながら、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限（5 号館 4 階 413 研究室） ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）		

科目名	母子看護学演習Ⅲ
英文名	SeminarⅢ：Maternal & Child Nursing
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	母子看護学演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき、看護研究プログラムを研究フィールドで実践し、プログラムの実践や関連職種と連携するための問題・課題を導出する。その上で、実践可能な看護研究プログラムに修正し、特別研究に向けて準備を整える。
到達目標	1.作成した看護研究プログラムを実践する。 2.実践をとおして、看護研究プログラムの問題や課題を明確化する。 3.看護研究プログラムの問題や課題を解決するための看護研究プログラムに修正する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポートや課題への取り組み内容（30%）、プレゼンテーション（70%）
課題に対するフィードバック	・レポートに対してはコメントを付して返却する。 ・課題に対するプレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	・母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱの配布資料や日本看護科学学会誌，日本小児看護学会誌を適宜活用する。 ・看護学研究法で使用したテキストや配布資料を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	オリエンテーション，看護研究プログラムの実践に向けた準備[1] フィールドエントリーおよび看護研究プログラムの実践方法を検討し、計画を立てる。	【予習】①シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ②研究計画書の試案に基づき、フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法の方向性を明確にする。 【復習】科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、不足する学習内容を補完する。
2	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム[1] 看護研究プログラムに基づき実践	【予習】フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。 【復習】フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決方策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。
3	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[2] 看護研究プログラムに基づき実践	
4	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[3] 看護研究プログラムに基づき実践	
5	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[4] 看護研究プログラムに基づき実践	
6	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム[5] 1）第 2～5 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践や効果についてまとめ、実践適用性や可能性を検討する。 2）第 2～5 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践方法に	【予習】第 2～5 回の学習内容を整理する。 【復習】不足する学習内容を補完する。

		関する問題や課題、それらの解決方策について検討する。 3)上記 1)、2)を踏まえ、看護研究プログラムを修正する。	
7	1,2,3	プレゼンテーション[1]	【予習・復習】第 2～6 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。
8	1,2	看護研究プログラムの実践に向けた準備[2] フィールドエントリーおよび看護研究プログラムの実践方法を検討し、修正する。	【予習】研究計画書の試案に基づき、フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法の方向性を明確にする。 【復習】不足する学習内容を補完する。
9	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[6] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	【予習】フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践に向けて準備する。 【復習】フィールドエントリー、看護実践プログラムの実践方法に関する問題・課題、それらの解決方策についてフィールドノート、研究ノートに記載する。
10	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[7] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
11	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[8] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
12	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[9] 修正した看護研究プログラムに基づき実践	
13	1,2	フィールドエントリーと看護研究プログラム実践[10] 1)第 9～12 回の学習内容に基づき、看護研究プログラムの実践や効果についてまとめ、実践適用性や可能性を検討する 2)フィールドエントリー、看護研究プログラムの実践方法に関する問題や課題、それらの解決方法について検討する。 3)上記 1)、2)を踏まえ、看護研究プログラムを修正する。	【予習】第 9～12 回の学習内容を整理する。 【復習】不足する学習内容を補完する。
14	1,2,3	プレゼンテーション [2] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	【予習】第 9～12 回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。 【復習】授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。
15	3	まとめ: 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を修正する。	【予習】授業での助言・指導に基づき、看護研究プログラムを再修正する。 【復習】研究計画書をより洗練させる。
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、あんた特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしながら、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・常に、科学的方法を用い系統的に探究すること、研究協力者、研究対象者への倫理的配慮を意識しながら、学習する。		

	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：木曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）

科目名	看護技術学特論Ⅱ
英文名	Advanced Nursing Art and Science Ⅱ
担当教員	鶴田晴美、箕輪千佳
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。介入研究における倫理的問題、Outcome 指標の作成、データ分析法および看護モデルの構築について学ぶ。
到達目標	1.看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。 2.人を対象とする看護介入研究において遵守すべき倫理的事項が理解できる。 3.Outcome としての心理的指標、生理的指標の作成について理解できる。 4.収集したデータの統計分析法、質的分析法について知る。 5.看護モデルの構築について学ぶ。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 レポートは期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。
使用教材	・Rogers(1999) Concept Development in Nursing：Foundations, Techniques, and Applications, WB Saunders ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会等から紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	科目オリエンテーション 概念分析について（Rogers の概念分析）（鶴田）	【予習】シラバスを読み、講義の目標を理解する。 【復習】・科目オリエンテーションの内容を確認する。 ・ Rogers の概念分析について理解を深める。
2	1,4	リラクセーションについての概念分析 （箕輪）	【予習】関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。 【復習】・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。
3	1,4	関心のある概念についてのミニ概念分析 1 （鶴田・箕輪）	
4	1,4	関心のある概念についてのミニ概念分析 2 （鶴田・箕輪）	
5	1,4	関心のある概念についてのミニ概念分析 3 （鶴田・箕輪）	
6	2	人を対象とする看護介入研究における倫理事項 （鶴田）	【予習】授業のテーマに関して専門書を精読する。 【復習】・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容につい
7	3	Outcome 指標の作成 （箕輪）	
8	3,4	量的データ分析法 （箕輪）	

9	3,4	質的データ分析法 （鶴田）	て、看護技術学特論Ⅰで精読した論文ではどうなっているか検討する。
10	1,2,3,4	サブストラクションについて （箕輪）	【予習】関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。 【復習】・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。
11	1,2,3,4	関心のある介入研究におけるサブストラクション 1 （箕輪・鶴田）	
12	1,2,3,4	関心のある介入研究におけるサブストラクション 2 （箕輪・鶴田）	
13	1,2,3,4	関心のある介入研究におけるサブストラクション 3 （箕輪・鶴田）	
14	1,2,3,4,5	看護モデルの構築 （箕輪）	【予習】関心のある介入研究に、看護モデルが記載されている論文を検索する。 【復習】・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究について看護モデルが記載されている論文をクリティークする。
15	1,4	まとめ （鶴田）	【予習】これまでの授業内容を振り返り、まとめる。 【復習】不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。
備考	・関心のある概念について概念分析を行い、発表する。 ・関心のある介入研究についてサブストラクションを作成し、発表する。 ・対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	看護技術学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ :Advanced Nursing Art and Science
担当教員	鶴田　晴美、箕輪　千佳
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の問題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを抽出し、注目した看護技術の条件（技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性）について文献とディスカッションを通して検討する。
到達目標	1.注目すべき看護現象のなかにある患者・家族の問題およびその問題を解決するために用いられている看護技術を抽出する。 2.注目した看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について明確にできる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。
使用教材	・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。 ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から論文を紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3	1	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。	【予習】・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・注目する看護現象を具体的に記述する。 【復習】・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。
4 5 6	1,2	関心のある看護技術について文献検討	【予習】関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。 【復習】授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。
7 8	1,2	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。	【予習】関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。 【復習】授業でのディスカッショ

9			ンを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。
10 11 12	1,2	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。	【予習】関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。 【復習】授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。
13 14 15	1,2	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。	【予習】これまでの授業を基に研究の方向性について考える。 【復習】授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。
備考	・看護技術学特論Ⅰで取り上げた看護技術について、文献をクリティークし、発表する。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	看護技術学演習Ⅱ
英文名	SeminarⅡ:Advanced Nursing Art and Science
担当教員	鶴田　晴美、箕輪　千佳
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。また、注目した看護技術における。介入研究におけるサブストラクションを作成し、技術開発およびエビデンスの構築に向けたテーマを明確にする。
到達目標	1.注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析ができる。 2.注目した看護技術における介入研究におけるサブストラクションが作成できる。 3.技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
課題に対するフィードバック	・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。 ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。
使用教材	・Rogers(2000) Concept Development in Nursing：Foundations , Techniques, and Applications 2nd Ed, Saunders ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から紹介する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3 4 5	1	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	【予習】・シラバスを読み、講義の目標を理解する。 ・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。 【復習】授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。
6 7 8 9 10	2	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクションを作成する。	【予習】注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクションを作成する。 【復習】授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクションを洗練させる。
11 12 13 14 15	3	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	【予習】これまでの授業を基に研究テーマについて考える。 【復習】授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。

備考	・看護技術学特論Ⅱで取り上げた概念について概念分析を行い、発表する。また、看護技術学特論Ⅱで取り上げた介入評価研究を基にサブストラクションを作成し、発表する。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。

	・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対処する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	**看護技術学演習Ⅲ**
英文名	SeminarⅢ：Advanced Nursing Art and Science
担当教員	鶴田　晴美、箕輪　千佳
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	看護技術開発やエビデンスの構築に向けたテーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、測定方法、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し、プレテストを経て、研究計画書が完成できる。
到達目標	1.看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法を検討することができる。 2.研究計画書を作成することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	研究計画書（100%）
課題に対するフィードバック	研究計画書作成段階で、口頭あるいは文書でコメントする。
使用教材	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等、関連する最新の倫理指針

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3 4 5	1,2	2 年次　4 月から 5 月に開講する。 研究計画書の作成 （研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化	【予習】・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。 【復習】授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。
6 7 8 9 10	1,2	プレテストの実施	【予習】作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。 【復習】プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。
11 12 13 14 15	1,2	研究計画書の修正	【予習】プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。 【復習】授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。

備考	・定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6 月までには承認が得られるように準備する。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認がなければ研究は実施できない。 ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	国際看護学特論Ⅱ
英文名	Advanced International Nursing Ⅱ
担当教員	望月経子
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位
講義目標	レイニンガ-のサンライズモデル、Purell モデルなどの異文化看護理論を学び、国際看護の対象となる看護上の課題に焦点をあて、文化を越えた問題解決の具体的展開を理解する。さらに、世界における保健医療分野の問題解決に用いられる開発手法である PCM(Project Cycle Management)を理解し、国際看護上の問題解決についての基本的知識を得る。
到達目標	1. 異文化の視点で国際保健、看護の場と対象を理解する。 2. 異文化看護論である Sunrise モデル、Purnell モデル、Campinha-Bacote モデル、Giger and Davidhizar モデルを理解し、異文化における看護介入理論を理解し、実践できる。 3. 国際的に保健、看護活動を展開するために必要な手法を理解する。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテ―ション(30%)、レポート(70%)
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。
使用教材	1) 田村やよい編(2016):国際看護学、メヂカルフレンド社 2) PCM 開発のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント、FASID 3) Marilyn R. McFarland(2018):Leininger's Transcultural Nursing: Concepts, Theories, Research & Practice、 McGraw-Hill Education / Medical 4) Joyce Giger(2016):Transcultural Nursing、Mosby 5) マデリン M.レイニンガー(1995)、レイニンガー看護論―文化ケアの多様性と普遍性、医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	グローバルヘルスと異文化	【予習】教材1を精読する。 【復習】国際保健問題解決と異文化の理解の関係につき具体的に整理する。
2	1	異文化看護とは	【予習】教材1を試読する。 【復習】文化と看護につき自分の言葉で表現できるようにする。
3	1,2	異文化看護論Ⅰ/ Leininger の看護論	【予習】教材1、3を精読する。 【復習】 Leininger の理論とサンライズモデルの特徴を整理する
4			
5	1,2	異文化看護論Ⅱ/ Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacote の看護論	【予習】教材1、4を精読する。

			【復習】 Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacote の理論の特徴を整理する。
6 7 8 9	1,2	異文化看護論と看護の展開 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて看護の対象理解と解決方法をアセスメントする	【予習】これまで学んだ異文化看護理論を復習する。 【復習】異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された解題を整理する。
10	3	PCM とは	【予習】事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。 【復習】PCM の特徴と意義を整理する。
11	3	PCM の具体的手法について1/ 課題の把握	【予習】事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。 【復習】PCM 手法において課題の把握方法を整理する。
12	3	PCM の具体的手法について2/ 課題の整理	【予習】事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。 【復習】 PCM手法において課題整理のプロセスと特徴を整理する。
13	3	PCM の具体的手法について3/ 解決策検討手法	【予習】事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。 【復習】 PCM 手法においての課題解決の検討方法をまとめる。
14	3	PCM の具体的手法について/ 課題解決の対策とその評価	【予習】事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。 【復習】 PCM 手法においての課題解決と評価方法を整理する。
15	1 2 3	PCM 手法の課題把握～評価までの振り返り	【予習】これまでの PCM の各段階において不明瞭な部分を明らかにし整理する。 【復習】PCM 手法の流れと留意点を整理する。

備考	備考 ・自分自身の経験を基に、その国で起こっている看護の課題を検討し明確にする。 ・看護理論については英文献が読めるように準備をしておくこと。 ・PCM 手法の展開は、保健医療のみならずあらゆる角度からのアセスメントが必要となるため、社会学、保健行動学、民俗学などについても知識を得ておくこと。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として各講義の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	国際看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ:International Nursing
担当教員	望月経子
時期・単位	1年次 前期 選択 2 単位
講義目標	国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた国際看護上の課題につき、PCM 手法を用いながら、地域の健康資源(人的資源、経済的資源、物的資源、知的資源)を考慮し、優先付け、組合せ、活用方法などを討議しながら問題解決のためのプロジェクト計画策定過程を学ぶ。さらに、1. 課題解決のための国際協力 2. 在日外国人支援 3. その他の希望 より1つ選択し、倫理的配慮を行いながら国内外の動向を調べ、学生自身が関心のある国際看護上の課題を抽出できる。
到達目標	1. PCM 手法を用い、異文化看護を関連づけながら課題解決のための一連の過程が展開できる。 2. 自分自身が関心のある国際看護の課題につき英論文等を精読した中で、国内外の動向を調べる事ができる 3. 自分自身が関心のある国際看護の課題の抽出ができる
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。
使用教材	1)PCM 開発のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント、FASID 2)Journal of International Health 3)International Nursing Review

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	自身の経験の中での国際看護上の課題について	【予習】国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた看護上の課題につきその内容を復習する。 【復習】整理したここでの課題の背景を具体的に整理する。
2 3 4 5 6	1	PCM 手法を用いた課題解決の展開 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	【予習】PCM 手法につき復習する。 【復習】各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。
7 8	1	PCM 手法で作成した内容をプロジェクトとして計画書を作成し発表する	【予習】PCM 手法を復習する。 【復習】計画書の作成につきその特徴をまとめる。
9	2,3	自身の関心のある国際看護上の課題を明確にする	【予習】国際看護学特論Ⅱの振り返えりを行い、自身の関心のある課題を挙げてくる。

			【復習】明確にした課題の背景を整理する。
10 11 12 13 14	2,3	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する	【予習】声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。 【復習】不足している学習内容を補完する。
15	2,3	文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにしたものをから解決すべく国際看護上の課題として位置づける	【予習】明らかにした関心のある国際看護課題につき再度振り返りを行い整理する。 【復習】不足している学習内容を補完する。
備考	備考 ・自身の関心のある国際看護上の課題から、現状分析を行いながら探究したい国際看護上の課題へと整理する。 ・現状分析には実際に現地に赴くことも可能だが、倫理上の配慮を十分におこなうこと。 ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。 ・予習復習は原則として各講義の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	国際看護学演習Ⅱ
英文名	Seminar Ⅱ:International Nursing
担当教員	望月経子
時期・単位	1年次 後期 選択 2 単位
講義目標	国際看護学演習Ⅰで抽出した学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題につき、英文献・和文献クリティークを行い、文献レビューを通してその課題へのアプローチの世界的動向を学ぶ。さらにその学びを踏まえ、各自の研究課題を明らかにする。国際看護学特論Ⅱや国際看護学演習Ⅰで検討した理論や手法を基に、明らかにした研究課題より自己の研究テーマや研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを検討する。
到達目標	1. 学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向が理解できる。 2. 自身の研究課題を明らかにできる。 3. 研究テーマ、目的を明らかにでき、研究計画書のアウトラインが作成できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。
使用教材	集めた論文、文献

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向	【予習】自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向の資料を収集する。 【復習】何が課題なのかを明確にする。
講義内容	第3回～5回 今までの学習を基に研究課題を明らかにする。 第6回～10回 研究テーマ、研究目的を明らかにする。 第11回～15回 研究計画書のアウトラインを作成する。		
	【予習】講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。		適宜 時間
	【復習】講義ごとに振り返えりを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。		適宜 時間

備考	備考 ・研究計画書作成に向けた講義時間となる。今まで学んできた講義内容を集積させた検討を行うこと。 ・課題に対して積極的に取り組み、自分で考え主体的に臨むこと。 ・予習復習は原則として各講義の前後に90分以上の時間をかける必要がある。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	国際看護学演習Ⅲ
英文名	SeminarⅢ：International Nursing
担当教員	望月経子
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	国際看護学演習Ⅱで明確にした研究テーマや目的を基に、妥当性のある研究方法（対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）を検討し、研究計画書を作成する。また、作成した研究計画書に沿ってプレテストを行い、適宜、研究計画書の修正を行い、研究計画書が完成する。
到達目標	4.　研究計画書が作成できる。 5.　プレテストを基に研究計画書の修正ができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテ―ション（50%）、レポート（50%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。 対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。
使用教材	特になし

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
講義内容		第 1 回～5 回　研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。 第 6 回～10 回　プレテストの対象選択と実施。 第 11 回～15 回　研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	
		【予習】講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	適宜　時間
		【復習】講義ごとに振り返えりを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	適宜　時間

備考	備考 ・特別研究に向けての研究計画書の作成のため主体的・積極的に予習復習を行い講義に臨むこと。 ・演習Ⅱで明らかにした研究課題の振り返りを常に行いながら取り組む事。 ・予習復習は原則として各講義の前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	看護実践開発科学特別研究				
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science				
担当教員	吉田　久美子				
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位				
講義目標	慢性的な経過をたどり治療を継続しているがん患者の生活の質の向上を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究結果を修士論文としてまとめる。				
到達目標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。				
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観			
	✓	高度な実践力			
	✓	研究能力			
	✓	豊かな人間性と使命感			
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。				
課題に対するフィードバック	取り組んだ内容に対し、適宜、紙面あるいは口頭でコメントを返す。				
使用教材	・毎回の授業時に研究のプロセスに応じ資料を配付する。 ・課題や講義内容に関連する文献などを提示し活用する。				
講義内容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1)調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1)中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 2)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 3)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。				
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示		1.5	時間

	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示		1.5	時間
備考	1.授業外学習の進め方 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3.科目責任者連絡先　E-mail アドレス：yoshikumi@takasaki-u.ac.jp 4.科目責任者のオフィスアワー　　月曜・火曜・金曜				

科目名	**看護実践開発科学特別研究**
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当教員	砂賀　道子
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位
講義目標	がんと診断され、治療を受けながらもがんと共に生きるがんサバイバーの生きる力を高め、自律や適応を促す支援を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により結果を体系的に整理し、がん看護学における課題への対応と発展に寄与できるよう研究成果を修士論文としてまとめる。
到達目標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。
使用教材	・毎回の授業時に研究のプロセスに応じ資料を配付する。 ・課題や講義内容に関連する文献などを提示し活用する。
講義内容	4～5 月 1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 1) 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 2) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 3) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2) がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3) 論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4) 研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5) 新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。
予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜
復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜
備考	1 .授業外学習の進め方 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。

	2) がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3. オフィスアワー：【前期】火曜日 15 時～17 時、【後期】火曜日 14 時～17 時。 5 号館 4 階 406 研究室　　その他はメールでも対応可能。 4. 担当教員連絡先：E-mail アドレス：sunaga@takasaki-u.ac.jp

科目名	**看護実践開発科学特別研究**
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当教員	石田　順子
時期・単位	2 年次　通年　選択　6　単位
講義目標	がん看護演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤として、治療期（手術を受け、がん化学療法を受けている等）にあるがん患者の症状マネジメント、がん患者と家族の生活の質の向上をめざした看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。
到達目標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭または書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。
使用教材	特に指定しない。
講義内容	4～5 月　1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1)調査方法、調査内容などを中心に質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2)　データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月　精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月　計画書に記載した分析方法に基づき分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 1)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月　論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。
	予習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜　時間
	復習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜　時間
備考	1.授業外学習の進め方：1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める

	こと。 2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習は原則として、各授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail:jishida@takasaki-u.ac.jp(石田)　　オフィスアワー：火曜日 3・4 限、金曜日 1・2 限

科目名	**看護実践開発科学特別研究**	
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science	
担当教員	倉林 しのぶ	
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位	
講義目標	地域・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした実践プログラムについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集 を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理した上で、修士論文としてまとめる	
到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. 実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。 3. プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。	
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観
	✓	高度な実践力
	✓	研究能力
	✓	豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文とプレゼンテーション 修士論文に対しては学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。	
課題に対するフィードバック	論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。	
使用教材	特に指定しない。	
講義内容	4～5 月 1.研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に、対象者の選定理由・方法、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に基づき、具体的調整と準備を行う。 6～8 月 1.対象者の倫理を十分考慮したうえでデータ収集を開始する。 データ収集の手順や対象者への倫理的配慮について十分確認した上で取り組む 2.得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認する 9～10 月 1.計画書に基づいた分析を行い、結果を系統的にまとめる。 2.中間発表での意見およびコメントを論文の作成に活用する。 11～1 月 実施から結果までのプロセスをふまえた内容を熟考し、知見を明確に表現した論文を作成する。 1)研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。	

	2)プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 3)プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。			
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	適宜提示	
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	適宜提示	
備考	・定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。 ・各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 倉林:オフィスアワー:月曜日・火曜日の 11:00～13:00 E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp メールの場合は専攻と氏名を必ず記載のこと。			

科目名	**看護実践開発科学特別研究**
英文名	Seminar of Master's on Nursing Practice Science
担当教員	箕輪 千佳
時期・単位	2 年次 通年 選択 8 単位
講義目標	看護技術学演習Ⅲを通して修正したアセスメント方法や看護介入プログラムを実践の場で実施し、その効果について記述する研究の計画を作成し、発表する。研究計画書に沿って研究を実施し、作成したアセスメント方法の有用性や看護介入プログラムの効果について、修士論文としてまとめ、提出する。
到達目標	1.作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを用いた研究の計画書が作成できる。 2.研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文としてまとめ提出できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程およびまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付けて返却する。
使用教材	特に指定しない。
講義内容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し、倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者の選定理由、除外基準、選定方法、介入方法、データ収集内容、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者に対して十分倫理的配慮を行い、データ収集を開始する。 1)介入方法、データ収集方法を中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備および練習を行う。 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備したうえで収集に取り組む。 6～8 月 精度の高い豊かなデータを収集するため、介入方法やデータ収集内容を確認しながら収集する。 1)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データの精度を上げる。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を図表を用いてまとめる。中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 1)計画書に記載した分析方法をもとに体系的なデータ分析を行う。 2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)看護技術開発やエビデンスの構築に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、看護技術開発やエビデンスの構築に向け最終論文として提出する。
	予習 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示 期間中適宜
	復習 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示 期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方 ： 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し、研究活動を行うこと。

	2.予習・復習の時間 ： 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員の連絡先 ： E-mail アドレス minowa @takasaki-u.ac.jp 4.オフィス・アワー ： 水・金 2 時限目

科目名	**看護実践開発科学特別研究**
英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当教員	櫻井　美和
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位
講義目標	母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに基づき、母子看護学における看護実践上の課題解決に向けた研究テーマを明確にする。その上で、研究計画書を作成し、研究計画書に基づきデータ収集、データ分析を行い、系統的に整理した上で修士論文としてまとめ提出する。
到達目標	1.課題に対する研究の方法論的課題や倫理的課題を踏まえ、研究方法としての適切性やその限界を吟味したうえで、研究計画書を作成する。 2.研究計画書に基づき、系統的にデータ収集、分析する。 3.母子看護学の課題に対し、発展に寄与しうる修士論文を作成する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・作成した研究計画書に対してはコメントを付して返却する。また、研究計画書のプレゼンテーションに際し、その都度ディスカッションしながら、講評・コメントとする。 ・データ収集および分析の進捗状況や分析結果、考察についてまとめた資料やプレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションながら、講評・コメントする。 ・作成段階の修士論文の構成とその内容について、その都度ディスカッションしながら、講評・コメントする。
使用教材	・母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて配布した教材を活用する。 ・研究過程に応じ、必要な参考資料を配布する。
講義内容	【4～6 月】 より洗練した研究計画書を作成し、倫理審査を受ける 1）研究テーマ、研究目的、方法、対象者の選定、データ収集方法、分析方法などについて、真実性の保証、信頼性の確保という観点から検討し、研究計画書を作成する。 2）対象者の選定、データ収集方法、分析方法などについて、研究協力者や研究対象者への倫理的配慮を検討し、研究計画書を作成する。 3）研究計画書審査のプレゼンテーション資料を作成・準備し、審査を受ける。 4）倫理審査の関連資料を作成・準備し、倫理審査を受ける。 【7～9 月】 研究計画書に基づき、データ収集・分析を行う 1）研究計画書に基づき、研究協力施設、および研究対象者に研究協力の依頼を行う。 2）真実性の高いまたは信頼性の高いデータを得ること、研究対象者への倫理的配慮を意識し、データを収集する。 3）データ収集上の課題や適切性を確認・検討し、データ収集の精度を高める。 4）研究計画書に基づき、科学的方法、客観的方法を用い分析する。 【10 月】 研究の進捗状況や研究の成果をまとめ、研究中間発表を行う。 1）分析結果について、図表を用いてまとめる。 2）研究の背景、研究目的、研究方法、結果および分析内容についてまとめ、プレゼンテーションする。 3）研究中間発表会で受けた講評や助言をもとに、修士論文作成に向けた示唆を確認する。 【11～2 月】 分析結果に対し考察を加え、修士論文を作成・提出するとともに、プレゼンテーションする。 1）先行研究の結果と自己の研究の結果を常に照合しながら、新知見は何か、母子看護学の発展に寄与しうる結果は何かということを探求しながら考察する。 2）論文の一貫性や客観性を確認するとともに、自己の研究成果を系統的かつ明確に表現し、論文を作成す

	る。 3)学位論文審査で受けた講評や助言をもとに、修士論文を加筆・修正し、学術論文としての精度を高める。 4)自己の研究成果を系統的、かつ明確に表現し、プレゼンテーションする。 5)研究過程、論文作成過程においての学び、今後の看護実践・研究・教育への意向をまとめ、最終審査を受ける。			
	予習	研究過程に応じて、必要な課題を提示する。	期間中適宜	
	復習	研究過程に応じて、必要な課題を提示する。	期間中適宜	
備考	・研究の各段階において、科学的方法を用い、系統的に探究することを意識しながら、主体的に研究を進める。 ・常に母子看護学に関連する文献を探索・クリティークし、先行研究の研究成果や理論と自己の研究結果、分析結果とを照合しながら研究を進める。 ・研究の進捗状況に応じて教員と対面授業を行うが、その際には少なくとも授業前後に 90 分以上の事前学習を行う。 ・研究計画書審査、倫理審査の承認を得なければ研究を実施することはできない。 ・指定された期日までに修士論文を提出するとともに修士論文発表会で発表し、学位論文審査、最終審査に合格できなければ単位修得はできない。 ・研究過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー:木曜日 2 限、金曜日 1 限(5 号館 4 階 413 研究室) ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: sakurai-m@takasaki-u.ac.jp （櫻井）			

科目名	**老年・在宅看護学特論**
英文名	Advanced Gerontological and Home Care Nursing
担当教員	小笠原　映子、棚橋　さつき、梨木　恵実子、篠原　純史、石井　純子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	老年・在宅看護についての制度、保健医療福祉の連携やシステムといった側面から在宅で過ごす療養者や高齢者また、認知症高齢者の看護を教授する。また、高齢者サポートの実践者からの事例等を通して、訪問看護の課題および解決に向けた方略ついて地域連携や看護連携の側面も含め考察する。
到達目標	1.在宅看護における療養者・家族の特徴について理解する。 2.訪問看護ステーションの現状、課題について理解する。 3.高齢化社会における認知症のとらえ方、今後の対策について理解する。 4.高齢者への社会資源サポートについて理解する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（40%）、レポート（60%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。
使用教材	使用教材　舟島なをみ（2015）：看護実践・教育のための測定用具ファイル　第５版　医学書院 厚生労働省など国、県、市町村が発表している施策やデータ等 ＊その他日本在宅ケア学科誌　日本在宅看護学会誌、日本看護管理学会誌等を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	科目オリエンテーション　　在宅看護の状況（小笠原）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に在宅看護の状況について確認する。
2	1,4	医療介護連携における介護支援専門員の役割（石井）	【予習】講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
3	1,4	医療介護連携におけるソーシャルワーカーの役割（篠原）	
4	1,2	在宅看護における家族支援①（小笠原）	
5	1,2	在宅看護における家族支援②（小笠原）	
6	1,2,3,4	退院支援に関する研究の動向（棚橋）	【予習】左記の関連学会、学会誌等でトピックス、最新の知見について調べ、自身の研究テーマの位置付けを考察する。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
7	1,2,3,4	在宅看護に関する研究の動向（小笠原）	
8	1,2	訪問看護ステーションについて　人材育成（棚橋）	【予習】講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
9	1,2	訪問看護ステーションについて①　経営・管理（棚橋）	
10	1,2,3,4	訪問看護ステーションについて②　経営・管理（棚橋）	

11	3,4	高齢者ケアと制度について（梨木）	【予習】地域で高齢者が暮らすための様々な制度やケアの現状について調べる。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
12	3,4	認知症施策の方向性とオレンジプランについて（梨木）	【予習】認知症に関する施策の変遷と（新）オレンジプランについて調べる。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
13	3,4	高齢者の人権擁護（認知症高齢者や高齢者虐待等）（梨木）	【予習】人権擁護に関する様々な制度と、高齢者の虐待の種類や現状を調べる。 【復習】不足する学習内容について補完学習する。
14	1,3,4	高齢者を取り巻く環境について、事例をとおして学習（梨木）	【予習】自身の経験や文献を通して、高齢者が QOL を向上・維持しながら生活できるような環境の有り方について考える。 【復習】今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。
15	1,3,4	社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ（梨木）	【予習】自身の経験と学習してきた社会資源を関連させ、現状と課題を考える。 【復習】今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。
備考	授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合にはオフィスアワー、メール等で対応する。 小笠原オフィスアワー：4 号館 505 研究室　月・水 13：00～14：30　ogasawara@takasaki-u.ac.jp 棚橋オフィスアワー：5 号館 4 階　409 研究室　月・水 13：00～14：30　tanahashi@takasaki-u.ac.jp		

科目名	老年・在宅看護学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ:Gerontological and Home Care Nursing
担当教員	小笠原　映子、棚橋　さつき
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	高齢者患者と家族に特有な看護実践方法とその評価方法を探求し、高度看護専門職としての課題を明確にする。また、質の高い在宅看護サービスを提供するための看護実践方法を、事例などから学び、施設における現状や課題を明確化する。また、在宅看護サービスの質の維持、向上に関して計画的に実践していくための必要な知識を習得する。
到達目標	1.老年・在宅看護領域に関する理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2.実際に行われている老年看護や在宅看護実践方法について検討し、研究課題の方向性を見出す。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。 総合討論等の成果(60%)、授業参加度・貢献度(40%)
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。
使用教材	アイボ・エイブラハム:ベストプラクティスのための高齢者ケアプロトコール. 医学書院 堀内園子:認知症看護入門. ライフサポート社 岡田晋吾編:地域連携パスの作成術・活用術 訪問看護の事業所開設Q&A　日本看護協会出版社 その他適宜指示する

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	在宅看護学における看護実践上の課題の探索(小笠原)	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
2	1,2	文献検討の手法(小笠原)	
3	1,2	在宅看護の質の管理:訪問看護事業所(棚橋)	
4	1,2	在宅看護分野におけるサービスの質評価・改善(小笠原)	
5	1,2	在宅看護分野における情報共有(小笠原)	
6	1,2	在宅看護と行政研究(棚橋)	
7	1,2	在宅看護の質の管理:人材育成(棚橋)	
8	1,2	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する。(棚橋・小笠原　) ①専門看護師、認定看護師等へのコンサルテーション ②地域連携パス ③看護小規模多機能型施設	【予習】左記の実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。 【復習】看護実践方法について確認し補完学習を行う。
9	1,2		
10	1,2		
11	1,2		
12	1,2		
13	1,2		
14	1,2	事例のまとめと発表を行い、課題と方向性を見出す(棚橋・小笠原)	【予習】事例発表に向けて準備を行う。 【復習】発表での意見を参考に課題の方向性について補完する。
15	1,2		

備考	訪問看護の質向上のための方法に関する情報収集を事前に行って参加してほしい。授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。 予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。 小笠原オフィスアワー：4 号館 505 研究室　月・水 13：00～14：30　ogasawara@takasaki-u.ac.jp 棚橋オフィスアワー：5 号館 4 階　409 研究室　月・水 13：00～14：30　tanahashi@takasaki-u.ac.jp

科目名	老年・在宅看護学演習Ⅱ
英文名	SeminarⅡ：Gerontological and Home Care Nursing
担当教員	小笠原 映子、棚橋 さつき
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位
講義目標	自己の抱える問題や課題を事例検討会やフィールドワークをとおして高度訪問看護実践に必要な能力における知識を獲得する。また、文献学習にて、論文読解能力を高め多様な研究方法について理解し、研究計画の作成の方法や実験的な研究方法の基礎的知識と応用力を身につける。老年・在宅看護に関する研究の現状を理解し、プログラム作成の基本を見出す。
到達目標	1.老年・在宅看護関連の課題解決方法を、文献学習や研究手法などから理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2.プログラムの基本形の作成ができる。 3.作成したプログラムから、自分の考えをまとめ、ディスカッションを行うことができる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や資料準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。 レポート（70%）、発表（30%）
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。
使用教材	日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著：論文のレトリック D.F.ポートリット＆C.T.ベック著 看護研究 原理と方法 その他適宜指示する

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3 4 5 6 7 8	1,2,3	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】自己の課題についての文献を自律的に学習する。
9 10 11 12 13 14 15	1,2,3	自己の関心、取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成する。	【予習】取り組みたい課題について文献、専門書等により学習する。 【復習】不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。

備考	・自己の課題を明確にして、事前に老年・在宅看護におけるトピックスなどを学習して、文献学習、事例検討会に取り組んでほしい。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメールにて対応する。

	小笠原オフィスアワー:4 号館 505 研究室　月・水 13:00～14:30　ogasawara@takasaki-u.ac.jp 棚橋オフィスアワー:5 号館 4 階　409 研究室　月・水 13:00～14:30　tanahashi@takasaki-u.ac.jp

科目名	老年・在宅看護学演習Ⅲ
英文名	SeminarⅢ：Gerontological and Home Care Nursing
担当教員	小笠原 映子、棚橋 さつき
時期・単位	2 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	在宅看護や在宅移行の構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し特別研究に向けて準備を整える。
到達目標	1.在宅看護学に関する科目で学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。 2.実践プログラムに基づいた実践ができる。 3.実施したプログラムの効果測定、問題点、改善点について整理できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	研究計画書 （100%）
課題に対するフィードバック	授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。
使用教材	適宜指示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3 4 5	1,2,3	2 年次 4 月～6 月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。	【予習】実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。 【復習】先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	1,2,3	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	【予習】プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。 【復習】プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。

備考	・定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6 月までには承認が得られるように準備をする。 ・研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において質問等生じた場合にはメールにて対応する。 小笠原オフィスアワー：4 号館 505 研究室 月・水 13：00～14：30 ogasawara@takasaki-u.ac.jp 棚橋オフィスアワー：5 号館 4 階 409 研究室 月・水 13：00～14：30 tanahashi@takasaki-u.ac.jp

科目名	看護管理学特論Ⅱ
英文名	Advance Nursing Administration SettingⅡ
担当教員	池田　優子、小池　洋子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	チーム医療の中核を担う看護師のマネジメント能力育成をめぐる現状について、病院組織の構造的側面・人間的側面の両面から分析し、課題を明確化し、それぞれが抱える課題と解決に向けた方法論について学ぶ。更に病院における組織開発とシステム構築に向けたマネジメントの現状や人材育成に向けた教育プログラムの構築について学びを深める。
到達目標	1.組織開発に関する理論を学習し、マネジメントについて多角的な視点から考えることができる。 2.組織開発におけるグループマネジメントの課題について理解できる。 3.病院組織横断的なシステム構築の現状と課題について考察できる。 4.キャリアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への参加度（50%）　課題についてのプレゼンテーション内容（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。
使用教材	1.Senge P.M, 著、枝廣淳子、小田理一郎訳;学習する組織:システム思考で未来を創造する, 英治出版 2.Goffee, R, Jonce, G, 著、森由美子訳:DREAM　WOLK　PLACE, だれもが「最高の自分」になれる組織をつくる、英治出版 3.手島恵編著:看護のためのポジティブマネジメント、医学書院 4.堀公俊著:チーム・ファシリテーション一最強の組織を作る 12 のステップ、朝日新聞出版 5.エドガー.H・シャイン著, 二村俊子・三善勝代訳:キャリア・ダイナミックス、白桃書房

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	講義ガイダンス（池田） 組織を構造的側面と人間的側面から理解する	【予習】シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。 【復習】不足の内容について補完する。
2	1	組織開発に関する理論について学ぶ（池田） 組織行動学　システム理論　ホールシステム・アプローチ ポジティブ・マネジメント	
3	1	組織開発におけるグループマネジメントのあり方（池田）	
4	1,3	組織開発におけるシステム構築について（小池）	【予習】自己の体験を通して、システムづくりの課題についてまとめておく。 【復習】不足の内容について補完する。
5	1,3	組織横断的な人材開発について（小池）	
6	1,2	組織開発におけるキャリア支援（池田） キャリア発達　キャリアデベロップメント　キャリアアンカー	【予習】キャリア発達及びマネジメントに関する理論につい

7	1,2	組織開発におけるマネジメントのあり方（池田） ドラッカーと目標管理	て文献を読んでおく。 【復習】不足の内容について補完する。
8	1,3	効果的なグループマネジメントのあり方　その 1（池田） ポジティブ・マネジメント	【予習】グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。 【復習】不足の内容について補完する。
9	1,3	効果的なグループマネジメントのあり方　その 2（池田） 傾聴と承認	
10	1,3	効果的なグループマネジメントのあり方　その 3（池田） コーチングとティーチング	
11	1,3	効果的なグループマネジメントのあり方　その 4（池田） ダイアログとディスカッション	
12	1,2,3,4	組織開発における人材育成プログラム　その 1（池田） 新人に対する教育プログラム	【予習】人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。 【復習】不足の内容について補完する。
13	1,2,3,4	組織開発における人材育成プログラム　その 2（池田） 中堅に対する教育プログラム	
14	1,2,3,4	組織開発における人材育成プログラム　その 3（池田） 管理者に対する教育プログラム	
15	1,2,3,4	まとめ　（池田） 組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてのプレゼンテーションと振り返り	【予習】講義で学習した内容について総括しつつ、組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてまとめる。 【復習】ディスカッションで出された内容を加えながら不足する内容について補完する。
備考	1. 自律的な学習が基本です。組織開発向けて必要な看護マネジメントの理論や方法論について学びを深めること。この講義は自己の研究課題を絞り上げていくための講義内容となるので、関連する書籍や文献検索を重ねて、主体的な学習を進めること。そのため、予習・復習の時間は、1 回の授業について 3.4 時間はとる必要があります。 2. 質問は疑問への対応 ①随時メールで対応します。疑問が生じたら、そのままにしないですぐ連絡をして、解決を図ること 主担当教員　E-maill：yikeda@takasaki-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー：火曜日 1－2 限　木曜日 3－4 限　 4 号館 3 階　301 研究室		

科目名	看護管理学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ :Advanced Nursing Administration
担当教員	池田　優子
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	組織開発における人材育成の具体的方法について、文献とディスカッションを重ねるとともに、臨床の場における人材育成プログラムの実際についてフィールドに出かけ学ぶ。
到達目標	1.組織開発におけるマネジメント手法について理解できる。 2.キャリアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業及びフィールドワークへの参加度（50%）　プレゼンテーション内容（50%）
課題に対するフィードバック	講義の中でその都度ディスカッションするとともに、コメントを加え、評価する。
使用教材	特に指定しない。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション	【予習】マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。 【復習】不足内容について補完する。
2	1	関心のあるマネジメント理論についての文献検討	
3			
4			
5			
6	1	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション	【予習】関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。 【復習】不足内容について補完する。
7			
8			
9			
10	1,2	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	【予習】人材育成に関する文献について文献を読んでおく。 【復習】不足内容について学習し補完する。
11			
12			
13			
14			
15	1,2	まとめ	

備考	1.授業外学習の進め方 マネジメントの理論及び方法論について、文献検討を行い、クリティークし発表する。そのための予習・復習について、全体として 60 時間は行う必要がある。 人材育成教育プログラムへの参加を通して、何が効果的で、自己の課題は何か明確化できるよう、特に復習とまとめに各回 3 時間必要です。 2.質問や疑問点への対応 ①随時メールにて対応します。疑問が生じたら、そのままにしないで連絡して解決を図ること。 担当教員の連絡先：E-mail：yikeda@takasaki-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー：月曜日 3-5 限　木曜日 1-2 限　4 号館 3 階　301 研究室

科目名	看護管理学演習Ⅱ
英文名	SeminarⅡ:Advanced Nursing Administration
担当教員	池田　優子
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	演習Ⅰでの学習を基に、国内外のマネジメントやキャリア開発に関する文献検討とディスカッションの中から自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを明らかにする。
到達目標	1.看護管理に関する文献検索を行い、概要を理解するとともに課題を明らかにできる。 2.自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを作成できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業への参加度（50%）、プレゼンテーション内容（50%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	その都度提示する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2 3 4 5	1	マネジメントやキャリアデベロップメントに関する国内外の文献の検討	【予習】マネジメント・キャリアデベロップメントに関する文献のクリティークを行う。 【復習】 不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。
6 7 8 9 10	1,2	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	【予習】先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。 【復習】不足する学習内容について補完する。
11 12 13 14 15	1,2	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	【予習】先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。 【復習】ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。

備考	1.授業外学習の進め方 自らの研究課題とテーマを、明確化していく重要な時期である。何故そのテーマを選んだのか、先行研究の十分な検討の中から、研究目的を明確化していくための自律的学習を積み重ねる必要があります。そのためには、予習・復習は全授業を通して 60 時間は必要となる。 2.疑問や質問への対応 学習過程で生じた疑問や質問については、その都度メールで応じる。 ①E-mail: yikeda@takaski-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー：火曜日 1－2 限　木曜日 3－4 限　4 号館 3 階　301 研究室

科目名	**看護管理学演習Ⅲ**		
英文名	SeminarⅢ：Advanced Nursing Administration		
担当教員	池田　優子		
時期・単位	2 年次　前期　選択　2　単位		
講義目標	看護マネジメントに関するテーマをもとに、研究目的を明確化し、目的達成のための妥当な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。それをもとに特別研究に向けた準備を整える。		
到達目標	1.研究テーマに基づき、研究目的・研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。 2.プレテストを実施し、問題点・改善点を修正し、妥当性のある研究計画書を提出する。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究計画書（100%）		
課題に対するフィードバック	計画書作成プロセスでその都度ディスカッションを行い、コメント・評価する。		
使用教材	適宜指示する。		
講義内容	4 月　　研究計画書を作成し、プレテストを実施する。 　　修正を行い、倫理審査にかける。 6～7 月　データ収集に合わせて、文献検索を行い、比較検討ができるよう準備する。		
	予習	先行研究や文献についてさらに読み込み、研究テーマと目的と意義、方法の一貫性を検討する。 プレテストを行うにあたり、予測される問題点を整理し、対象者の選定方法や方法について整理しておく。	期間中適宜
	復習	研究計画書の妥当性について出された疑問や課題について精査する。 プレテストで得られた課題についてその結果をもとに、研究方法について整理し、修正する。	期間中適宜
備考	1.授業時間外での学習の進め方 研究計画書を定められた期日までに提出する必要がある。研究倫理審査基準について熟読し、基準に耐えうる研究計画書となるよう自律的な学習を進める。 予習・復習は原則として 60 時間は行う必要がある。 2.疑問・質問への対応 ①学習過程で生じた疑問は、随時メールで対応する。 　E-mail:yikeda@takasaki-u.ac.jp（池田優子） ②オフィスアワー　月曜日 3－5 限　木曜日 1－2 限　4 号館 3 階　301 研究室		

科目名	ケアシステム開発科学特別研究
英文名	Seminar for Master's thesis on Care System Science
担当教員	小笠原 映子
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位
講義目標	在宅看護学領域の研究課題に関して、看護実践上の課題や先行研究のクリティークを通して研究テーマを設定し、適切な研究方法を選び研究を実践する。得られた知見を論理的にまとめ、結果を考察し論文を執筆することができる。
到達目標	1.研究テーマに関連した領域における先行研究の文献レビューおよびクリティークができる。 2.先行研究の文献レビューを踏まえて、研究テーマを設定できる。 3.倫理的配慮にもとづいて研究計画を立案できる。 4.研究テーマ、研究目的に適した研究方法を選択し、それを適切に実施できる。 5.収集されたデータを整理・分析できる。 6.得られた結果について、解釈・考察できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。 ・データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。 ・論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。
使用教材	研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
講義内容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。 6～8 月 精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。 また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。 11 月～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。
	予習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
	復習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方　1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：初回講義日にメールアドレスをお知らせします。 4.オフィスアワー：4 号館 505 研究室　月・水 13:00～14:30

科目名	ケアシステム開発科学特別研究
英文名	Seminar for Master's thesis on Care System Science
担当教員	棚橋 さつき
時期・単位	2 年次　通年　選択　8　単位
講義目標	在宅看護におけるシステム開発を目指した看護研究テーマについて　、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、在宅看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
到達目標	1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2.在宅看護、ケアシステム開発における課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文に対し、学位論文審査基準 7 項目と最終試験基準 5 項目によって評価する。
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてコメントをつけ返却する。
使用教材	使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。
講義内容	4～5 月 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。 6～8 月 精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 9～10 月 計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。 また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。 11 月～1 月 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。
	予習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
	復習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方　1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス:tanahashi@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：5 号館 4 階　409 研究室　水・木 13：00～14：30

科目名	助産学特論I（ウィメンズヘルス）
英文名	Advanced Theory of Midwifery Ⅱ (Women's Health)
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、蓮尾 豊
時期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位
講義目標	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。
到達目標	1.思春期男女に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2.男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3.性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4.グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォロワーシップを発揮できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	参加度（30%）レポート（70%）「女のからだ、を読んで考えたこと」
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	テキスト：①荻野美穂：女のからだ、岩波新書 ②吉沢豊予子：助産師基礎教育テキスト 2, 看護協会出版会 参考書：③ウィメンズヘルス事典−女性のからだとこころガイド, 日本母性衛生学会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,	WOMEN’S HEALTH と GENDER(大石)	【予習】 シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する 【復習】 科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する
2	1,2,3,	思春期女性の支援（ピルを含む）（蓮尾）	【予習】月経のメカニズムについて調べておく 【復習】ピルの作用機序と副作用について復習する
3	1,2,3,	女性と月経、月経障害について（蓮尾）	
4	1,2,3,4	思春期女性の支援グループワーク（大石）	【予習】 女のからだ 第2章までを読む 【復習】 女のからだ 第 3,4 章を読む
5	1,2,3,4	性感染症予防と支援（子宮頸がん予防）（大石）	【予習】子宮と女性性器の解剖 【復習】子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する
6		性感染症予防と支援グループワークとまとめ（大石）	

7	1,2,3	女性とパートナーに対する支援（大石）	【予習】 DVについてインターネット上の情報を収集する 【復習】 DVの社会背景を考察する
8			
9	1,2,3,4	女性に対する暴力：グループワーク（大石）	
10	2,3	不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論（久保田）	【予習】 妊娠成立のメカニズムを復習しておく 【復習】 テキスト：女のからだ　第5章を読む
11		不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論（久保田）	
12	2,3,4	不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク（久保田）	
13		不妊女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表（久保田）	
14	3	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴（大石）	【予習】 中高年女性の身体的特徴 【復習】 中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する
15	3,4	中高年女性に対する支援：グループワークとまとめ（大石）	
備考	・主体的に discussion　に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館 3 階 306 研究室 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学特論Ⅱ（助産管理）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅢ（Midwifery Management）
担当教員	小泉　仁子、馬目　裕子
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。
到達目標	1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4.自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。
使用教材	テキスト：①我部山・他：助産学講座 10，医学書院　②助産業務要覧 2019 年版，看護協会出版会　③成田：助産師基礎教育テキスト 3，看護協会出版会 参考書：看護六法（平成 25 年版），新日本法規，助産業務ガイドライン 2014，院内助産・助産師外来ガイドライン 2018

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産業務・管理の概念（小泉） ＊助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする。
2 3	1,2	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	【予習】テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。 【復習】問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。
4	2,4	助産業務管理の実際（病院）（小泉） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする。
5 6	2,4	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（馬目）） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする
7	2,3	周産期における安全管理・危機管理（馬目）	【予習】テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確

			にする。 【復習】問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。
8	2,3	助産師と災害対策（馬目） ＊周産期施設の災害対策 ＊災害の実際 ＊災害時の母子ケアについて	【予習】災害に関連した母子ケアについて、インターネット等で情報に触れる 【復習】災害時に助産師に求められる役割が分かる
備考	・各単元（授業時間）について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。 ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。 ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。 ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を実りあるものにするよう努力する。 ・講師との連絡方法については、初講時に示す。		

科目名	助産学特論Ⅲ（開業・院内助産）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ（Independent Practice of　Midwifery）
担当教員	大石 時子、東福寺　幾夫、馬目　裕子、西山 信之、宮下 美代子、岡本　登美子、林 啓子
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。
到達目標	1.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。 2.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。 3.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4.行政への働きかけ（産後母子訪問システム等の実績等）、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。 5.助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（30%）、presentation（70%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。
使用教材	1）″ジェームズ C.コリンズ：ビジョナリーカンパニー,日経 BP 社 2）産婦人科診療ガイドライン 2017 3）助産業務ガイドライン 2014 4）福井年子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会、 5）図説・日本の遠隔医療 2017　日本遠隔医療学会 その他資料で提供″

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	病院における経営戦略の実際（西山）	【予習】病院における経営組織の特徴・課題について考察。 【復習】経営組織の基本的な考え方、組織デザイン、組織文化、組織戦略、組織変革などについて、早く正しい答えを見出す能力（知能）を高める。
2	1	病院における経営戦略の実際（西山）	【予習】病院における経営組織のマネジメント概念の現実への適用について考察。 【復習】個人や集団といったミクロレベルから、組織構造や組織間といったマクロレベルまで、経営組織の「未来最適」「全体最適」を、問い続ける能力（知性）を磨く。
3	1	助産所における経営と経営戦略（宮下）	【予習】宮下助産院の経営内

4	1	助産所における経営戦略の実際（宮下）	容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。 【復習】「私が開所したい助産院」とのテーマで presentaion の準備をする
5	2	助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下）	
6	2	助産師の自律と人間関係の調整（宮下）	
7	3,5	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイ,5 リスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下）	
8	3	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	【予習】 ウパウパ岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる 【復習】 産後ケア事業の法律的根拠と意義についてまとめる
9	4		
10	3	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（馬目）	【予習】産科医療過誤訴訟 【復習】:災害支援・災害時分娩
11	2,3,5	院内助産システムと助産師の自律について（林）	【予習】 院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく 【復習】 施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える
12	2,3,5	助産師の自律（バースセンターの設立経験から）（林）	【予習】 院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える 【復習】 助産師の声明・綱領（日本助産師会）を読み、院内助産を通した助産師の自律について考える
13	2,3	遠隔医療とは（東福寺） (1)遠隔医療とは (2)遠隔医療の歴史 (3)遠隔医療実用上の障害 (4)D to D 遠隔医療 (5)D to P、 D to N to P 遠隔医療、オンライン診療 (6)その他の遠隔医療 (7)遠隔禁煙支援と Digital Therapy	【予習】 副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」（日本遠隔医療学会編）1 章～3 章を通読する。 【復習】 助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。
14	2,3	IT technology を使った周産期管理 （東福寺） (1)分娩監視装置 (2)遠隔妊婦健診 (3)電子母子手帳	【予習】副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」（日本遠隔医療学会編）2 章を通読する。 【復習】周産期管理へのICT応用を整理する。

15	1,2,3,4、5	Presentation （大石）	【予習】presentation の用意 【復習】お互いの発表を共有しさらに自己の考察を深める
備考	・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学特論Ⅳ（母子保健政策論）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Maternal and Child Health Politics)
担当教員	大石　時子、菊地　栄、増田　さゆり、日本助産師会会長
時期・単位	2 年次　前期　必修　1　単位
講義目標	母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する
到達目標	1. 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。 2. 母子保健・・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる 3. 政策策定過程に影響を及ぼす団体（助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等）の役割を理解できる。 4. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。 5. 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート(100%)　　「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」
課題に対するフィードバック	質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。
使用教材	参考図書:　①福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会 ②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院、 その他資料で提供″

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	助産師と母子保健政策（大石）	【予習】地域母子保健論の復習をする 【復習】歴史と助産師の関連について復習する
2	1	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策（菊地）	【予習】母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく 【復習】関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる
3	1	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策の変遷（菊地）	【予習】母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく 【復習】関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる
4	1	日本助産師会における政策要望活動等（会長）	【予習】日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る

5			【復習】職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる
6 7	2	県レベルにおける母子保健政策実施（増田）	【予習】群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる 【復習】母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する
8	5	まとめ（大石） 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策の中から一つを選び、その歴史的変遷と現在の政策を振り返り、今後どのような方策が必要か発表する	【予習】今までの授業から現在の母子保健政策を歴史の中に位置づけてみる 【復習】母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する
備考	・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産における補完代替医療
英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当教員	今関　節子、山西　加織
時期・単位	2 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	女性のライフスタイルをホリステックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。
到達目標	1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（100%） 各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。
課題に対するフィードバック	毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。
使用教材	①松本清一・他著：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ②鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネージメント（今関）	【予習】シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。 【復習】オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。
2	2	ヨガの基礎理論（山西）	【予習】ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。 【復習】授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。
3	2	ヨガの実際（山西）	
4	1,2	妊産婦エクササイズの理論（今関）	【予習】あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。 【復習】授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。
5	1,2	妊産婦エクササイズの実際（今関）	
6	1,2	産痛緩和法の理論と実際　マッサージ・呼吸法（今関）	【予習】あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。

7	1,2	産痛緩和法の理論と実際　身体的・心理的リラクセーション（今関）	【復習】学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。
8	1,2	アロマ・ハーブに使われる精油・植物（今関）	【予習】資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。 【復習】学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。
9	1,2	女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関）	
10	1,2	リフレクソロジーの基礎理論（今関）	【予習】左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。 【復習】各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。
11	1,2	リフレクソロジーの実際（今関）	
12	1,2	ツボの基礎理論（今関）	【予習】資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。 【復習】周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。
13	1,2	ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）	
14	1,2	産後の骨盤エクササイズの理論と実際（今関）	【予習】産後の骨盤と筋・靭帯の変化を理解して授業に出席する。 【復習】骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。
15	1,2	快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際（今関）	
備考	・授業の実施場所は、2・3 回目は 8 号館 1F、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。 オフィスアワー：土曜日 13 時~14 時		

科目名	女性のフィジカルアセスメント
英文名	Physical Assessment of Women
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、新井 基子
時期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位
講義目標	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。
到達目標	1.助産師が行うべき.女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	実技試験（100%）
課題に対するフィードバック	演習において、その場で講評・コメントする。
使用教材	教科書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 参考書：吉沢豊子：女性の健康とケア，日本看護協会出版会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石）	【予習】教科書序章、I-1を読む 【復習】看護診断と助産診断の相違を考察する
2			
3	1,2	頭部、顔、皮膚の診察法とアセスメント（大石）	【予習】教科書 I-3 を読む 【復習】診察技術を練習する
4			
5	1,2	頸部の診察法とアセスメント （大石）	
6			
7	1,2	胸部、の診察とアセスメント（大石）	
8			
9	1,2	成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法（久保田）	【予習】更年期、骨粗しょう症 【復習】加齢と生活習慣病
10			
11	1,2	成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実際とアセスメント（久保田）	
12			
13	1,2,3	婦人科的診察法の実際（大石）	【予習】教科書 I-5 を読む 【復習】技術テストに向け練習を行う
14			
15	1,2,3	婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実際（大石）	
16			
17	1,2	超音波診断装置による基礎的操作の理論（大石）	【予習】教科書 I-5 を読む 【復習】操作技術を練習する
18			
19	1,2	超音波診断装置による基礎的操作と検査一般・アセスメントの実際（大石）	
20			
21	1,2	乳房の診察法の基礎理論（新井）	【予習】教科書Ⅳ-3,4 を読む

22			【復習】配布資料の理解を確認する
23	1,2	乳房の診察法とアセスメントの実際（新井）	
24			
25	1,2	妊娠期の変化の逸脱兆候の診察法とアセスメント	【予習】教科書Ⅴ章を読む 【復習】必要な検査と検査結果（値）の正常範囲を復習する
26			
27	1,2	腹部診察法とアセスメント、（大石）	【予習】教科書 I-4 を読む 【復習】診察技術を練習する
28			
29	1,2	手足の診察とアセスメント（大石）	【予習】教科書 I-3,4 を読む 【復習】診察技術を練習する
30			
備考	・主体的に演習に参加する。 ・自律的に技術の練習をする。 ・技術で得た身体所見をアセスメントする ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。 5 号館 3 階 306 研究室（大石） E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	産婦人科医学診断
英文名	Gynecology Diagnosis
担当教員	篠崎 博光、曽田 雅之、中村 和人
時期・単位	1 年次 前期 選択 1 単位
講義目標	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。
到達目標	1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（30%） レポート（70%）
課題に対するフィードバック	講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。
使用教材	テキスト：岡井 崇：標準産婦人科学（STANDARD TEXTBOOK），医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4	女性生殖器の構造・女性の性機能（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
2	1,2,3,4	女性のライフサイクルと健康課題（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
3	1,2,3,4	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
4	1,2,3,4	産婦人科検査（画像診断）（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
5	2,3,4	女性性器の疾患①（中村）	【予習】女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。 【復習】テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。
6	2,3,4	女性性器の疾患②（中村）	【予習】婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に

			理解しておく。 【復習】テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。
7	1,2,3,4	加齢と疾患、更年期と更年期障害（曽田）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
8	1,2,3,4	加齢と疾患、骨粗鬆症（曽田）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	新生児学
英文名	Neonatology
担当教員	丸山 憲一
時期・単位	1 年次 前期 必修 1 単位
講義目標	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。
到達目標	1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート(50%)および口頭発表(50%)で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。
使用教材	テキスト:仁志田博司:新生児学入門(第 5 版), 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価	【予習】講義の項目についてテキストで事前学習を行う。 【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。
2	1,2,3	新生児診断学	
3	1,2,3	新生児の生理、発達	
4	1,2,3,4	新生児の養護と管理(ハイリスク新生児、NICU 入院児を含む)	
5	1,2,3,4	体温調節と保温	
6	1,2,3,4	栄養の基礎と診療	
7	1,2,3,4	水—電解質バランス	
8	1,2,3,4	内分泌系・代謝系の異常	
9	1,2,3,4	内分泌系・代謝系の異常と管理	
10	1,2,3,4	呼吸器系の生理と診療	
11	1,2,3,4	循環器系の基礎と診療	
12	1,2,3,4	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療	
13	1,2,3,4	免疫系と感染	
14	1,2,3,4	中枢神経系の障害と診療	
15	1,2,3,4	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理	

備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ
英文名	High risk of Perinatal Complications Ⅰ
担当教員	伊藤　理廣、竹中　恒久
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。
到達目標	1.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	第 4 回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。
使用教材	テキスト①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂　②岡井崇・他編：標準産婦人科学（第 4 版），医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	胎児の発生と出生前診断（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
2	1,2	不妊症（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
3	1,2	不育症（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
4	1,2	異常妊娠：妊娠悪阻、流産（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
5	1,2	異常妊娠：早産、頸管無力症、人工妊娠中絶、子宮内胎児死亡・死産（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
6	1,2	異常妊娠：異所性妊娠、妊娠高血圧症候群（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。

			【復習】当日学習した要点を整理する。
7	1,2	異常妊娠：常位胎盤早期剥離、前置胎盤、癒着胎盤（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
8	1,2	異常妊娠：羊水の異常、多胎妊娠、血液型不適合妊娠（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
9	1,2	異常妊娠：胎児発育不全、薬物・放射線の児への影響、過期妊娠（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
10	1,2	合併症妊娠：子宮筋腫、心疾患、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、妊娠性貧血、慢性腎炎・ネフローゼ症候群、妊娠中の糖代謝異常、甲状腺疾患（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
11	1,2,3	合併症妊娠：感染症 異常分娩；娩出力の異常（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
12	1,2,3	異常分娩：子宮底圧迫法、VBAC、分娩誘導、産道の異常、回旋異常・胎位異常（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
13	1,2,3	異常分娩：肩甲難産、胎児機能不全、前期破水、子宮破裂（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
14	1,2,3	異常分娩：頸管裂傷、腟・会陰裂傷、子宮内反、弛緩出血、DIC、産科ショック、吸引分娩、鉗子分娩（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
15	1,2,3	異常分娩：帝王切開術、産科麻酔 異常産褥：産褥熱 母子免疫：母子免疫（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ
英文名	High risk of Perinatal ComplicationsⅡ
担当教員	伊藤　雄二、丸山　憲一、竹中 俊文、吉田 光典、増山 葉月
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。
到達目標	1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（60%）　演習レポート（40%）
課題に対するフィードバック	講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。 試験終了後、結果について講評、コメントを行う。
使用教材	テキスト：①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂　②岡井崇・綾部琢哉：標準産婦人科学（第 4 版），医学書院 参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断，東京医学社　②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第 2 版），メディカ出版　③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術ートラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学），医学書院　④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト（第 3 版），メジカルビュー社　⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト 58－本当に知りたかった技とコツ，メディカ出版

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	【予習】超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。 【復習】超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。
3 4	1	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	【予習】妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。 【復習】実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。
5	1	超音波検査の実際と画像評価（増山）	【予習】出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復

6			習しておく。 【復習】自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。
7 8	3	分娩時のモニタリングと胎児の評価　理論と実技（吉田）	【予習】胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。 【復習】実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。
9 10	2	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	【予習】骨盤底の解剖を理解する。 【復習】助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。
11 12	2	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	【予習】会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。 【復習】基本的な縫合や糸結びを確認する。
13 14	3	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
15 16	3	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
17	3	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。 【復習】講義の内容を確認す

18			るとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
19 20	3	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
21	3	娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
22 23	3	新生児の異常と画像評価（丸山）	【予習】今までの新生児の異常編の授業を復習しておく 【復習】新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する
24 25 26	3	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	【予習】講義の項目についてテキストで事前学習を行う。 【復習】講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。
27 28 29 30	3	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	**地域母子保健実習**
英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community
担当教員	久保田　隆子、大石　時子
時期・単位	2 年次　前期　選択　1　単位
講義目標	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。
到達目標	1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2.地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。 3.地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（50%）　演習（50%）
課題に対するフィードバック	行政が実践する健康教育、クラス運営について学ぶ機会を得て助産師の業務拡大を考察することができる。
使用教材	参考書:①群馬県保健要覧 30 年度版, 群馬県保健予防課
講義内容	第 1 日　・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス 第 2 日　・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画 ・行政や地域で行われている学級等への参画 第 3 日　・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画 第 4 日　・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画 第 5 日　・グループワーク:実際のクラスの企画から評価まで学内演習、まとめ
	予習　わが国の母子保健（母子衛生研究会）を読む。　期間中適宜
	復習　母子保健の主なる統計（母子衛生研究会）を読む。　期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田）受講に関しては履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） 事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 1 週間(5 日間)＝45 時間

科目名	国際助産論
英文名	International Midwifery
担当教員	大石 時子
時期・単位	2 年次 通年 選択 1 単位
講義目標	Global 化する世界の中での 国際母子保健と women's health の課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健と women's health に関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。
到達目標	1. 世界での母子の健康状態の特徴がわかる 2. Global 化の中での women's health の課題がわかる 3. 世界の women's health や母子保健に果たす国際機関の役割がわかる 4. 在日外国人女性の women's health や母子保健の現状と課題がわかる 5. 国内外で助産師がはたすべき役割がわかる
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（70%） 参加度（30%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	随時、資料を提示する。参考書： 医学書院、助産学講座 9、地域母子保健・国際母子保健

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	助産学と国際社会（大石）	【予習】助産師が世界でどのような活動をしているか調べる 【復習】
2	1,2	国際母子保健（大石）	【予習】日本の母子保健の指標を復習しておく 【復習】日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する
3	1,2,3	国際的な women's health の課題（大石）	【予習】世界での人口移動がどのように行われているか調べる 【復習】世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える
4	4,5	在日外国人女性の現状と健康（大石）	【予習】日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる 【復習】助産師の役割を考察する

5	4,5	在日外国人の母子保健（大石）	【予習】日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる 【復習】助産師の役割を考察する
6	3,5	在外日本人の母子保健と Women's Health （大石）	【予習】参考書の 6 章 B を読む 【復習】助産師が国際的に連携する意義について考察する
7	3,5	助産に関わる国際組織の活動（大石）	【予習】 WHO, UNFPA.、ICM の HP を調べる 【復習】国際組織が果たす役割についてまとめる
8	3,5	助産実践と助産教育の国際比較 （大石）	【予習】ICM の HP をみておく 【復習】助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館 3 階 306 研究室 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学教育論
英文名	Midwifery education
担当教員	久保田　隆子、大石　時子
時期・単位	1 年次　後期　選択　1　単位
講義目標	助産学教育の変遷、教育展開および教授法について学び、問題点や課題について考察できる。
到達目標	1.助産学教育の変遷と位置づけが理解できる。 2.助産学教育の課程別カリキュラム内容が理解できる。 3.学習者の知識・理論・技術を実践行動に統合するための能力開発過程を理解できる。 4.教育展開として、カリキュラム立案から評価の過程について企画できる。 5.現在の助産学教育の問題点を抽出できる。 6.助産学教育の方向性を考察できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	グループ討論への参加度（50%）　カリキュラム立案（50%）
課題に対するフィードバック	助産学の変遷や課程別カリキュラム内容とその課題、将来を見越した教育の方向性など、幅広い視点で助産学をとらえることで、今後臨床や教育界の教育担当者としての心構えが備わる。
使用教材	参考文献: ①田中耕治,よくわかる授業論　ミネルヴァ書房 ②杉江修治,大学授業を活性化する方法　玉川大学出版会 ③福井トシ子編,助産師業務要覧Ⅱ実践編、Ⅲアドバンス編　日本看護協会出版会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	日本の助産師教育の変遷 助産師教育課程指定規則の内容と位置づけ	【予習】講義の目標を理解する 0.5 時間 【復習】自律的に学習する 0.5 時間
2	1,2	助産学教育の課程別カリキュラムの特徴 専門（養成所）・大学・専攻科・別科・大学院	【予習】課程別の特徴 0.5 時間 【復習】課程別の違い 0.5 時間
3	1,2,3	助産師教育課程構築の実際① 課程別カリキュラムの内容と特徴	【予習】教育目標 0.5 時間 【復習】到達目標のとらえ方 0.5 時間
4	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際② 参考書の内容と特徴と比較	【予習】参考書の選出方法 0.5 時間 【復習】参考書の各出版社別特徴 0.5 時間
5	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際③ 講義構築へ向けての講義案作成	【予習】助産師教育と科目 0.5 時間 【復習】教材観・指導観・学生観 0.5 時間

6	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際④ 助産学実習へ向けての実習要綱案作成	【予習】助産師教育と実習 0.5 時間 【復習】10 例介助と到達度 0.5 時間
7	1,2,3,4,5	助産師教育課程構築の実際⑤ 助産師教育の現状と抱える問題点と課題・今後目指すべきカリキュラムの提案	【予習】教育年限 0.5 時間 【復習】PBL の目的 0.5 時間
8	1,2,3,4,5,6	助産師教育課程構築の実際⑥ 理想の学校作り発表会	【予習】KTP のフレーム 0.5 時間 【復習】行動変容の第一歩 0.5 時間
備考	メールアドレス　kubota-t@takasaki-u.ac.jp(久保田)　氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室(久保田) ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ②課程別助産師教育についての情報収集に着手することを勧める。課程別事例を用いての発表を行う。助産学教育に必要な用語を調べておくこと。 ③予習・復習項目はシラバスに沿っています。読んで臨んでください。予習・復習は原則として全授業を通して 8 時間を行う。		

科目名	助産学概論
英文名	Introduction to Midwifery
担当教員	大石 時子、今関 節子
時期・単位	1 年次 前期 必修 1 単位
講義目標	助産とは何かについて、助産の本質、意義、歴史、対象について理解し、専門職としての助産師の業務・責務・役割を認識して、深められる。また、国際的視点から見た助産師の活動、倫理、教育、研究についての理解を通して、各自の中に専門職としての助産師像を持てるようにする。
到達目標	1.独占業務である助産についての本質と意義を、さまざまな根拠に基づいて説明できる。 2.助産学を支える理論や概念について理解できる。 3.助産師の業務・責務・役割について法的、社会通念的に説明できる。 4.助産と助産師の歴史や文化について、日本独自な特徴や世界に共通した面について理解できる。 5.日本の助産活動を世界の助産師の実践・教育と比較しながら考察できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（100%） 「私が目指したい助産師活動」
課題に対するフィードバック	授業中のディスカッションを重視し、その中で講評・コメントする。
使用教材	テキスト：①加藤尚美・他：基礎助産学第 1 巻，助産学概論，日本助産師会出版 参考書：①大林道子：助産師の戦後，勁草書房 ②看護六法，新法規出版 ③ 福井トシ子編 助産師業務要覧 2019 年版 ④その他講義ごとに資料を準備する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産学とは（大石）	【予習】シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。 【復習】科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、看護学との相違を考察する。
2	1,2	助産学に関連する概念と理論（大石） （生命倫理、職業倫理を含む）	【予習】助産師の声明（日本助産師会）を読む 【復習】助産学を構築する理論、関連する学問領域との探求方法について考察する。
3	1,3	助産師と法律（大石）	【予習】教科書第 3 章を読む 【復習】助産師独自の権利について復習する
4	4	助産の歴史（古代から江戸時代、明治・大正・昭和初期）（今関）	【予習】日本の歴史を高校の教科書で復習してくる。 【復習】 歴史の中で子産み子育てケアの根底にある流れを考察する。

5	4	助産の歴史（第二次大戦後）（今関）	【予習】戦後の看護の歴史について復習してくる。 【復習】 助産におけるこれからの展望について、歴史的視点から考察する。
6	1,4,5	日本の助産実践の現状 （大石）	【予習】日本助産師会の HP から助産院の活動について調べる 【復習】日本の助産師活動の特徴についてまとめる
7	1,4,5	日本と諸外国での助産師の活動と教育（大石）	【予習】助産師の教育について、助産の歴史の中から復習してくる。 【復習】日本において期待される助産師活動は何かを考え教育のあり方を考察する。
8	1,4,5	日本の助産師の将来と課題 （大石）	【予習】今までの講義を復習する 【復習】どのような助産師活動をしたいか考察する
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行い、試験前に補完する。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp		

科目名	助産健康教育論
英文名	Health education in Midwifery
担当教員	大石 時子、茂木 佐智子、片倉 裕子
時期・単位	1 年次 後期 必修 1 単位
講義目標	思春期から老年期までの女性および成熟期の男性個人または集団を対象に、健康教育を実施する基礎的な力を修得する。
到達目標	1. 健康教育の基礎理論と方法論を理解する。 2. 実際に健康教育を企画し実践し評価する。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	参加度・貢献度（100%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	参考書: 新しい健康教育、日本健康教育士養成機構、保健同人社

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	健康教育と助産師 （大石）	【予習】 助産学実習 I で見学した助産師としての保健指導や健康教育を復習しておく 【復習】 科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する
2	1	健康教育の基礎理論 （大石）	【予習】行動変容理論にはどのような理論があるか 【復習】行動変容理論を健康教育にどういかすかを考える
3	1	健康教育の方法（茂木） 成人学習者の特徴 効果的な教育の設計と展開① ・教育目的と目標の設定	【予習】講義終了時に次回の学習課題を提示する 【復習】配布資料を基に講義内容を復習する
4	1	健康教育の方法（茂木） 効果的な教育の設計と展開② ・教育方法と教材教具 ・教育評価	【予習】講義終了時に次回の学習課題を提示する 【復習】】配布資料を基に講義内容を復習する
5 6 7 8 9	2	健康教育の企画案作成（片倉） 対象、目的、内容、方法、	【予習】今までの授業を企画案に活かせるよう、復習しておく 【復習】進行状況に合わせて企画案の修正を行う

10			
11			
12			
13			
14			
15	2	健康教育の実際：rehearsal と評価修正（片倉・大石・茂木）	【予習】実践のための練習 【復習】評価にそって教育案を修正する
備考	・主体的に企画する。 ・自律的に学習・練習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館3階 306 研究室 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	妊娠期の助産診断技術学
英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Pregnancy
担当教員	久保田 隆子、片倉 裕子、行田 智子、立木 歌織
時期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位
講義目標	妊婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断し、ハイリスク徴候をアセスメントするために必要な知識を習得する。また妊娠期の母性と胎児に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。
到達目標	1.妊娠の生理的経過と異常徴候発見のためのスクリーニングを説明できる。 2.妊婦診察のための基本的な技術を実践できる。 3.妊婦の助産診断過程を展開し、必要な支援と健康教育を実践できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験 50%、実技・レポート 50%
課題に対するフィードバック	妊娠期の母性と胎児に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得するために、学生には企画書作成と発表を個人・集団に対して学内演習を行っている。継続妊婦への保健指導に活用している。
使用教材	テキスト: 、配布資料 ①森恵美:妊娠期の診断とケア,日本看護協会出版会 ②堀内茂子:助産診断技術学Ⅰ,助産学講座 5,医学書院 ③我部山キヨ子:助産診断技術学Ⅱ,助産学講座 6,医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	女性生殖器の解剖と機能（久保田）	【予習】講義の目標を理解する 0.5 時間 【復習】自律的に学習する 0.5 時間
2	1,2	女性生殖器の解剖と機能（久保田）	【予習】妊娠の生理 0.5 時間 【復習】妊娠による母体の変化 0.5 時間
3	1,3	診断の概念と助産診断の位置づけ（久保田）	【予習】助産診断の成立 0.5 時間 【復習】助産診断・技術学 0.5 時間
4	1,3	診断の概念と助産診断の位置づけ（久保田）	【予習】助産診断の重要性 0.5 時間 【復習】助産師の専門性強化 0.5 時間
5	1,3	妊娠経過と助産過程の関係について（久保田）	【予習】助産過程の概念定義 0.5 時間 【復習】助産過程の構成要素 0.5 時間
6	1,3	妊娠経過と助産過程の関係について（久保田）	【予習】助産診断の範囲 0.5 時間 【復習】助産診断類型 0.5 時間

7	1,2	妊娠経過に即した情報収集の方法:妊婦診察のための基本技術（行田）	【予習】問診、外診、内診 0.5 時間 【復習】定期健康診査 0.5 時間
8	1,2	妊娠経過に即した情報収集の方法:妊婦診察のための基本技術（行田）	【予習】妊娠の診断 0.5 時間 【復習】分娩予定日の算定 0.5 時間
9	2,3	妊婦診察のための基本技術演習（久保田）	【予習】レオポルド 0.5 時間 【復習】胎児の位置 0.5 時間
10	2,3	妊婦診察のための基本技術演習（久保田）	【予習】胎児付属物 0.5 時間 【復習】胎児発育 0.5 時間
11	1,2,3	妊娠期助産診断のためのアセスメントの方法について（久保田）	【予習】心理、社会的変化 0.5 時間 【復習】ボディイメージ 0.5 時間
12	1,2,3	妊娠期助産診断のためのアセスメントの方法について（久保田）	【予習】心理、社会的変化 0.5 時間 【復習】子どもや家族 0.5 時間
13	1,2,3	妊娠期助産診断のためのアセスメントの方法について（久保田）	【予習】心理、社会的変化 0.5 時間 【復習】母親役割 0.5 時間
14	1,2,3	妊娠期助産診断のためのアセスメントの方法について（久保田）	【予習】心理、社会的変化 0.5 時間 【復習】バースプラン・レビュー 0.5 時間
15	1,3	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント（立木）	【予習】妊娠期の異常 0.5 時間 【復習】異常妊娠をまとめる 0.5 時間
16	1,3	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント（立木）	【予習】ハイリスク妊娠 0.5 時間 【復習】DM・高血圧合併妊娠をまとめる、0.5 時間
17	1,3	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント（立木）	【予習】母子の安全管理 0.5 時間 【復習】GBS・感染、0.5 時間
18	3	妊娠期ケアプランの立案について（久保田）	【予習】問題解決プロセス 0.5 時間 【復習】エビデンスを探す 0.5 時間
19	1,3	事例の展開:講義とグループワークの中で助産計画立案（久保田）	【予習】教育技術 0.5 時間 【復習】行動、認知、情報処理 0.5 時間
20	1,3	事例の展開:講義とグループワークの中で助産計画立案（久保田）	【予習】健康教育の理論 0.5 時間 【復習】妊娠初期のアプローチ 0.5 時間

21	1,3	事例の展開:グループワークの中で展開し発表する(久保田)	【予習】教育の方法 0.5 時間 【復習】妊娠中期のアプローチ 0.5 時間
22	1,3	事例の展開:グループワークの中で展開し発表する(久保田)	【予習】指導計画の立案作成 0.5 時間 【復習】妊娠後期のアプローチ 0.5 時間
23	1,3	保健指導技術(個人、集団)(行田)	【予習】個人指導 0.5 時間 【復習】利点と欠点 0.5 時間
24	1,3	保健指導技術(個人、集団)(行田)	【予習】集団指導 0.5 時間 【復習】学級運営 0.5 時間
25	2,3	出産準備教育のための助産技法:アクティブバース、産痛緩和(久保田)	【予習】出産準備教育 0.5 時間 【復習】産通緩和、呼吸法 0.5 時間
26	2,3	出産準備教育のための助産技法:アクティブバース、産痛緩和(久保田)	【予習】分娩体位 0.5 時間 【復習】リラクゼーション 0.5 時間
27	2,3	出産準備教育のための助産技法:妊娠中の教育支援と乳房ケア(久保田)	【予習】相談技術 0.5 時間 【復習】電話訪問 0.5 時間
28	2,3	出産準備教育のための助産技法:妊娠中の教育支援と乳房ケア(久保田)	【予習】相談技術 0.5 時間 【復習】意思決定支援 0.5 時間
29	2,3	診断に基づく健康教育について:予防的教育指導案をグループで展開(久保田)	【予習】運動、体操 0.5 時間 【復習】妊娠とスポーツ 0.5 時間
30	2,3	診断に基づく健康教育について:予防的教育指導案をグループで展開(久保田)	【予習】移動、旅行 0.5 時間 【復習】勤労妊婦 0.5 時間
備考	メールアドレス kubota-t@takasaki-u.ac.jp (久保田) 氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室(久保田) ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。企画書、レポートに着手することを勧める。 ②健康教育ができることを目的としている。教材作成やプレゼンテーション能力の育成の為に、知識、言動、態度等についてもトレーニングを深めること。 ③予習・復習項目はテキストの目次に沿っています。読んで臨んでください。予習・復習は原則として全授業を通して 30 時間を行う。		

科目名	分娩期の助産診断技術学Ⅰ
英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum Ⅰ
担当教員	久保田　隆子、片倉　裕子
時期・単位	1 年次　前期　必修　1　単位
講義目標	産婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識と技術を習得する。
到達目標	1.分娩の機転と分娩進行におけるアセスメントについて説明できる。 2.分娩進行を診断するための基本的な診察技術を実践できる。 3.産婦に対するケアプランを立案できる。 4.正常な分娩経過を促すための支援を説明できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	グループ討論への参加度（50%）　データ収集とアセスメント実技（50%）
課題に対するフィードバック	事例情報を通して、妊娠、分娩、産褥、新生児の一連の流れがイメージできる。 経過別に助産診断ができる。実習の際の記録用紙の記録ができる。
使用教材	テキスト：①町浦美智子：分娩期の診断とケア，助産師基礎教育テキスト 5. 日本看護協会出版会 ②我部山キヨ子・武谷雄二：助産学講座 7 助産診断技術学Ⅱ分娩期　医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	分娩期、産道の理解（久保田）	【予習】:分娩の定義 0.5 時間 【復習】分娩の種類 0.5 時間
2	1,2	分娩期、産道の理解と分娩メカニズム（久保田）	【予習】分娩の 3 要素 0.5 時間 【復習】産道、娩出力、娩出物 0.5 時間
3	1,2	分娩経過と助産過程の関係について（久保田）	【予習】:分娩と母体への影響 0.5 時間 【復習】分娩と胎児への影響 0.5 時間
4	1,2	分娩経過に即した情報収集の方法：産婦診察のための基本技術（久保田）	【予習】分娩期の助産診断 0.5 時間 【復習】分娩予測 0.5 時間
5	1,2	分娩進行の診断技術（内診、外診、CTG）の講義と実際（久保田）	【予習】産婦の健康診査 0.5 時間 【復習】分娩開始の診断 0.5 時間
6	1,2	分娩進行の診断技術（内診、外診、CTG）の演習（久保田）	【予習】分娩の経過診断 0.5 時間 【復習】胎児の健康状態 0.5 時間
7	2,3	分娩期助産診断のためのアセスメントの方法について講義と演習（久保田）	【予習】:産婦の心理 0.5 時間 【復習】産婦の健康生活 0.5 時間

8	2,3	産婦事例に対するケアプランの立案について講義と演習（久保田）	【予習】バースプラン 0.5 時間 【復習】分娩の振り返り 0.5 時間
9	3,4	産婦事例に対する助産診断とケアプランについて：グループで展開（久保田）	【予習】事例・妊娠期 0.5 時間 【復習】事例・妊娠期のまとめ 0.5 時間
10	3,4	産婦事例に対する助産診断にもとづく助産の展開：グループで実施（久保田）	【予習】事例・分娩期 0.5 時間 【復習】事例・分娩期のまとめ 0.5 時間
11	3,4	正常経過逸脱予測事例の助産診断とケアプランについて：グループで展開（久保田）	【予習】事例・産褥期 0.5 時間 【復習】事例・産褥期のまとめ 0.5 時間
12	3,4	正常経過逸脱予測事例のケアプランと助産の実際：グループで展開（久保田）	【予習】事例・新生児 0.5 時間 【復習】事例・新生児のまとめ 0.5 時間
13	3,4	正常経過逸脱予測事例の助産の実際：グループ発表と討論（久保田）	【予習】産婦の支援 0.5 時間 【復習】分娩進行のケア 0.5 時間
14	1,4	助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案：グループで展開（久保田）	【予習】異常分娩 0.5 時間 【復習】異常への対応 0.5 時間
15	1,4	助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案の発表・討論とまとめ（久保田）	【予習】心理社会的問題 0.5 時間 【復習】緊急時の対応 0.5 時間
備考	メールアドレス kubota-t@takasaki-u.ac.jp 氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ②事例情報のアセスメントに着手することを勧める。事例を用いての助産診断を妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の各期毎に事例発表を行う。周産期に必要な用語を調べておくこと。 ③予習・復習項目はテキストの目次に沿っています。読んで臨んでください。予習・復習は原則として全授業を通して 15 時間を行う。		

科目名	分娩期の助産診断技術学Ⅱ
英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum Ⅱ
担当教員	久保田　隆子、新井　基子、立木　歌織
時期・単位	1 年次　前期　必修　1　単位
講義目標	助産診断過程に基づいて、正常分娩を目指した産婦とその家族への援助に必要な知識と技術を習得する。
到達目標	1.仰臥位による分娩の介助がスムースに展開できる。 2.産婦の助産診断過程に基づき、それぞれの体位に対応した助産技術の特徴を説明出来る。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	実技（70%）　レポート（30%）
課題に対するフィードバック	分娩介助技術の修得により、助産学実習に際して、分娩介助ができる。分娩進行に合わせて、助産診断ができる。分娩進行に必要な援助ができる。
使用教材	テキスト：我部山キヨ子／武谷雄二：助産診断・技術学Ⅱ　分娩期・産褥期，医学書院 参考書：①山本あい子：助産概論，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 ②町浦美智子：分娩期の診断とケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 ③進純郎：分娩介助学　第 2 版，医学書院 ④岩田塔子：体位別フリースタイル分娩介助法，メディカ出版 ⑤中根直子：分娩介助，ペルネイタルケアノート，メディカ出版 ⑥荒木勤：最新産科学正常編・異常編，文光堂 ⑦高崎健康福祉大学分娩介助手順　他

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産の概念（久保田）	【予習】分娩開始の診断 0.5 時間 【復習】分娩期の経過診断 0.5 時間
2	1,2	助産技術の歴史（久保田）	【予習】娩出機転 0.5 時間 【復習】回旋骨産道の評価 0.5 時間
3	1,2	助産技術の展開（久保田）	【予習】産道の診断 0.5 時間 【復習】軟産道の評価 0.5 時間
4	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の展開（介助者、助手）（新井）	【予習】分娩室の準備 0.5 時間 【復習】必要物品の準備 0.5 時間
5	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の展開（助手業務）（新井）	【予習】外陰部消毒 0.5 時間 【復習】導尿 0.5 時間
6	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 1（新井）	【予習】肛門圧迫、会陰保護 0.5 時間 【復習】分娩機転と保護 0.5 時間
7	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 2（新井）	【予習】児頭・体幹娩出 0.5 時間 【復習】臍帯結紮・胎盤娩出 0.5 時間

8	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 3（新井）	【予習】胎児付属物 0.5 時間 【復習】出生直後の新生児 0.5 時間
9	1,2	助産の理論と技術（アクティブバース）（立木）	【予習】アクティブバース 0.5 時間 【復習】利点、欠点 0.5 時間
10	1,2	助産の理論と技術（水中出産・スクワッティング）（立木）	【予習】水中出産、蹲踞位 0.5 時間 【復習】利点、欠点 0.5 時間
11	1,2	助産の理論と技術（側臥位分娩・座位分娩）（立木）	【予習】側臥位分娩、座位分娩 0.5 時間 【復習】利点、欠点 0.5 時間
12	1,2	助産の理論と技術（久保田）	【予習】肩甲難産 0.5 時間 【復習】利点、欠点 0.5 時間
13	1,2	助産の理論と技術（久保田）	【予習】胎児の健康状態 0.5 時間 【復習】利点、欠点 0.5 時間
14	1,2	助産における体位と環境にかかわる討論とまとめ（久保田）	【予習】呼吸法 0.5 時間 【復習】分娩時の声掛け 0.5 時間
15	1,2	分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の個人評価（久保田）	【予習】産婦の援助、産痛 0.5 時間 【復習】分娩進行とニーズ 0.5 時間
備考	メールアドレス kubota-t@takasaki-u.ac.jp （久保田）、 氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ②授業で学んだ知識や助産技術は時間外を利用して必ず復習・トレーニングしておくこと。 ③滅菌操作の基本的な看護技術（ガウンテクニック、摂子の使い方、手袋）は時間外で練習すること。 ④予習・復習項目はテキストの目次に沿っています。読んで臨んでください。予習・復習は原則として全授業を通して 15 時間を行う。		

科目名	産褥・新生児期の助産診断技術学
英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Postpartum and Neonatal
担当教員	久保田　隆子、新井　基子、立木　歌織
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	褥婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。また、褥婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する。
到達目標	1.褥婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。 2.褥婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（50%）　実技・レポート（50%）
課題に対するフィードバック	毎回の講義の後にリアクションペーパーの提出を求めており、各自振り返りを行う、産褥経過に沿った、保健指導の企画、発表会を行う。実習前準備として資料は活かすことが出来る。
使用教材	テキスト：①横尾京子：産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 参考書：②遠藤俊子：ハイリスク妊産褥婦・新生児ケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会　②我部山キヨ子／武谷雄二：助産診断・技術学Ⅱ　分娩期・産褥期，医学書院 ③Glenys Boxwell（沢田健／エクランド源雅子）：新生児集中ケアハンドブック，医学書院 ④仁志田博：新生児学入門　第 4 版，医学書院 ⑤NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会：母子育児支援スタンダード，医学書院 ⑥水野克巳、水野典子：母乳育児支援講座，南山堂 ⑦その他資料配布

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	産褥の生理と異常（久保田）	【予習】退行性変化促進の支援 0.5 時間 【復習】排泄、膀胱、直腸 0.5 時間
2	1,2	産褥の生理と異常（久保田）	【予習】悪露の排出 0.5 時間 【復習】早期離床 0.5 時間
3	1,2	産褥の経過とスクリーニング、褥婦のセルフケア支援（久保田）	【予習】感染予防 0.5 時間 【復習】会陰部創傷の治癒 0.5 時間
4	1,2	産褥の経過とスクリーニング、褥婦のセルフケア支援（久保田）	【予習】心理、社会的変化 0.5 時間 【復習】家族関係、育児支援 0.5 時間
5	1,2	母子早期接触、分娩想起への支援、家族計画・受胎調節（久保田）	【予習】授乳指導 0.5 時間 【復習】母児接触バースレビュー0.5 時間
6	1,2	母子早期接触、分娩想起への支援、家族計画・受胎調節（久保田）	【予習】退院指導 0.5 時間 【復習】家族計画 0.5 時間

7	1,2	母乳育児支援（新井）	【予習】母乳栄養の確率 0.5 時間 【復習】乳房乳頭の形態 0.5 時間
8	1,2	母乳育児支援（新井）	【予習】乳汁の産生 0.5 時間 【復習】児の抱き方 0.5 時間
9	1,2	母乳育児支援、出生直後の新生児ケア（新井）	【予習】催乳感覚 0.5 時間 【復習】吸着 0.5 時間
10	1,2	母乳育児支援、出生直後の新生児ケア（新井）	【予習】栄養方法の決定 0.5 時間 【復習】母乳、人工栄養 0.5 時間
11	1,2	新生児のアセスメントとケア（久保田）	【予習】新生児の適応生理 0.5 時間 【復習】出生後 24 時間のケア 0.5 時間
12	1,2	新生児のアセスメントとケア（久保田）	【予習】早期新生児ケア 0.5 時間 【復習】出生後 24 時間の以降ケア 0.5 時間
13	1,2	育児に必要な知識と技術支援（家庭での新生児ケア）（久保田）	【予習】家庭生活への移行 0.5 時間 【復習】退院後の生活 0.5 時間
14	1,2	育児に必要な知識と技術支援（家庭での新生児ケア）（久保田）	【予習】生理学的適応 0.5 時間 【復習】TPR、黄疸 0.5 時間
15	1,2	育児に必要な知識と技術支援（家庭での沐浴）（久保田）	【予習】皮膚状態のアセスメント 0.5 時間 【復習】清潔ケア 0.5 時間
16	1,2	育児に必要な知識と技術支援（家庭での沐浴）（久保田）	【予習】沐浴 0.5 時間 【復習】臍処置、0.5 時間
17	1,2	ハイリスク新生児ケア（立木）	【予習】胎児発育不良 0.5 時間 【復習】低出生体重児 0.5 時間
18	1,2	ハイリスク新生児ケア（立木）	【予習】新生児蘇生 0.5 時間 【復習】呼吸障害 0.5 時間
19	1,2	母子愛着障害・児の虐待要因早期発見（立木）	【予習】虐待の要因 0.5 時間 【復習】ネグレクト 0.5 時間
20	1,2	母子愛着障害・児の虐待要因早期発見（立木）	【予習】産褥うつ病 0.5 時間 【復習】エジンバラ調査 0.5 時間
21	1,2	産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）（立木）	【予習】乳児健康診査 0.5 時間 【復習】成長発達ポイント 0.5 時間
22	1,2	産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）（立木）	【予習】予防接種 0.5 時間 【復習】定期、任意接種 0.5 時

			間
23	1,2	産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）まとめと発表・討論（久保田）	【予習】産褥事例と記録 0.5 時間 【復習】分娩から退院まで 0.5 時間
24	1,2	産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）まとめと発表・討論（久保田）	【予習】産褥事例と記録 0.5 時間 【復習】退院までの検査 0.5 時間
25	1,2	乳児の成長・発達とケア（新生児期）（久保田）	【予習】新生児の計測 0.5 時間 【復習】児頭計測 0.5 時間
26	1,2	乳児の成長・発達とケア（新生児期）（久保田）	【予習】黄疸の計測 0.5 時間 【復習】光線療法 0.5 時間
27	1,2	乳児の成長・発達とケア（久保田）	【予習】低血糖 0.5 時間 【復習】新生児痙攣 0.5 時間
28	1,2	乳児の成長・発達とケア（久保田）	【予習】嘔吐、腹部膨満 0.5 時間 【復習】消化管出血 0.5 時間
29	1,2	予防接種（久保田）	【予習】感染症 0.5 時間 【復習】産道，経母乳感染 0.5 時間
30	1,2	予防接種（久保田）	【予習】新生児ケアの基本 0.5 時間 【復習】家族の中のケア 0.5 時間
備考	メールアドレス kubota-t@takasaki-u.ac.jp(久保田)、 氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ②授業で学んだ知識や技術は、必ず復習・トレーニングすること。 ③母性看護学で学んだ知識は忘れないように暗記して講義に臨むこと。 ④予習・復習項目はテキストの目次に沿っています。読んで臨んでください。 予習・復習は原則として、全授業をとおして 30 時間は行う。		

科目名	**地域母子保健論（旧カリ）**	
英文名	Maternal Child Health in the Community	
担当教員	大石時子、髙津　三枝子、金　寿子、立木　歌織	
時期・単位	2 年次　前期　必修　1　単位	
講義目標	地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。	
到達目標	1.妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。 2.母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。 3.地域の特性やや母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。 4.多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。	
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観
	✓	高度な実践力
	✓	研究能力
	✓	豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験　（50%）　プレゼンテーション（50%）	
課題に対するフィードバック	授業中のディスカッションの中で講評・コメントする。	
使用教材	テキスト 1)我部山キヨ子編：助産学講座 9　地域母子保健・国際母子保健　第 5 版、医学書院 参考書 1)山本あい子編：助産師基礎教育テキスト　第 1 巻　助産概論、日本看護協会出版会 2)公益財団法人母子衛生研究会編：母子保健の主なる統計（最新版）、母子保健事業団 3)国民衛生の動向 2017/2018, 厚生労働統計協会	

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,4	地域母子保健活動の意義（河内）	【予習】第 1 章　地域母子保健の意義を読む。 【復習】地域母子保健の意義について考察する
2	2	母子保健の現状と動向（河内）	【予習】第 2 章　母子保健の現状と動向を読む。 【復習】母子保健をめぐる課題について考察する。
3	1,2	国、都道府県、市町村、公益法人、NPO　等の助産師の母子保健活動の歴的理解（髙津）	【予習】第 3 章　地域母子保健行政の体系を読む。 【復習】助産師の母子保健活動に影響する要因について考察する。
4	1,2,4	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾（髙津）	【予習】第 3 章　母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。 【復習】母子保健関係法規と現代社会の問題との関連に

			ついて考察する。
5 6	2,4	地域母子保健活動の展開①ー女性のライフサイクルへの支援（河内）	【予習】第５章　地域母子保健活動の展開の A,B を読む 【復習】女性のライフスタイルに合わせた支援への課題を考察する。
7 8	1,2,3	地域母子保健活動の展開②ー訪問指導の理論と実践（河内）	【予習】第 5 章-C,D,E を読む。 【復習】母子の健康レベルに応じた支援について考察する。
9 10	2,3,4	地域母子保健活動の展開③ー地域における様々な協働（金）	【予習】地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。 【復習】協働の意義を考える。
11 12	2,3	地域特性に関連づけた地区診断の実践（　高津　）	【予習】これまでの講義内容を復習する。 【復習】母子保健に焦点をあてた地区診断について理解を深める。
13	1,2	諸外国の母子保健活動（　大石）	【予習】第６章　国際母子保健を読む。 【復習】諸外国の母子保健活動の理解を深める。
14 15	2,3,4	討論とまとめ：あなたの町の母子保健活動（　立木　　）	【予習】自己の居住する町の母子保健活動についてプレゼン準備をする。 【復習】全体で共有した情報を整理し地域母子保健の在り方を考察する。
備考	・授業中の討論に主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり、研究室で対応する。 オフィスアワー：5 号館 3 階 306 研究室　水曜日　12：00～13：00 Email：oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	**地域母子保健論**
英文名	Maternal Child Health in the Community
担当教員	大石　時子、立木　歌織、髙津　三枝子、金　寿子
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。
到達目標	1.妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。 2.母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。 3.地域の特性やや母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。 4.多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。
学位授与方針との対応	幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 　　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験 （70%）　プレゼンテーション（30%）
課題に対するフィードバック	授業中のディスカッションの中で講評・コメントする。
使用教材	テキスト 1)我部山キヨ子編：助産学講座 9　地域母子保健・国際母子保健　第 5 版、医学書院 参考書 1)山本あい子編：助産師基礎教育テキスト　第 1 巻　助産概論、日本看護協会出版会 2)公益財団法人母子衛生研究会編：母子保健の主なる統計（最新版）、母子保健事業団 3)国民衛生の動向 2017/2018, 厚生労働統計協会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,4	地域母子保健活動の意義（立木）	【予習】第 1 章　地域母子保健の意義を読む。 【復習】地域母子保健の意義について考察する
2	2	母子保健の現状と動向（立木）	【予習】第 2 章　母子保健の現状と動向を読む。 【復習】母子保健をめぐる課題について考察する。
3	1,2	国、都道府県、市町村、公益法人、NPO 等の助産師の母子保健活動の歴史的理解（髙津）	【予習】第 3 章 地域母子保健行政の体系を読む。 【復習】助産師の母子保健活動に影響する要因について考察する。
4	1,2,4	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾（髙津）	【予習】第 3 章 母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。 【復習】母子保健関係法規と現代社会の問題との関連に
5			

			ついて考察する。
6	2,4	地域母子保健活動の展開①ー訪問指導の理論(立木)	【予習】第４章および５章Ｂを読む 【復習】訪問指導の意義について考える
7 8	1,2,3	地域母子保健活動の展開②ー訪問指導の実際 （金）	【予習】第 5 章-C,D,E を読む。 【復習】母子の健康レベルに応じた支援について考察する。
9 10	2,3,4	地域母子保健活動の展開③ー地域における様々な協働（高津）	【予習】地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。 【復習】協働の意義を考える。
11 12	2,3	地域特性に関連づけた地区診断の実践（立木）	【予習】これまでの講義内容を復習する。 【復習】母子保健に焦点をあてた地区診断について理解を深める。
13	1,2	諸外国の母子保健活動（立木）	【予習】第６章 国際母子保健を読む。 【復習】諸外国の母子保健活動の理解を深める。
14 15	2,3,4	討論とまとめ：あなたの町の母子保健活動（立木、大石）	【予習】自己の居住する町の母子保健活動についてプレゼン準備をする。 【復習】全体で共有した情報を整理し地域母子保健の在り方を考察する。
備考	・授業中の討論に主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり、研究室で対応する。 オフィスアワー：5 号館 3 階 306 研究室 水曜日 12：00～13：00 Email：oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学実習Ⅰ（基礎）		
英文名	Clinical Practice of Midwifery Ⅰ（Basics）		
担当教員	久保田　隆子、片倉　裕子、大石　時子		
時期・単位	1 年次　通年　必修　3　単位		
講義目標	周産期における母児とその家族を支援するため、教員・指導者と共に基本的な助産診断・助産能力と実習環境に対応した学習態度を習得する。		
到達目標	1.妊婦健康診査を実践でき、妊婦への保健指導の目的と方法を説明できる。 2.助産過程を展開し、指導者とともに 3 例の助産を実践し自らの課題を見出し述べることができる。 3.産褥新生児の助産診断とケアを実践できる。 4.周産期における保健指導の目的と方法を説明できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	分娩期の助産診断記録・分娩介助評価表（70%）　参加度（30%）		
課題に対するフィードバック	分娩期の助産診断と分娩介助評価表は提出期限内に提出し学生には、指導助産師とのコメントを付して直接応対する。実習Ⅱに向けて課題を見出す。		
使用教材	分野作成の実習の要項及び講義資料、今日の助産、マタニティ診断ガイドブック。		
講義内容	・1 週間（5 日間）＝45 時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 ・実習先に 3 週間（1 日 8 時間週5日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。そのうち1週間は継続実習とする。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 ・分娩介助（1 例目～3 例目）自律的な助産過程を展開し、助産を実践する（各 3 日間）。 ・助産師としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解。 ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際。 ・当該実習先が地域社会の中の事業者・機関等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしての、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。		
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜
	復習	実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田）　、 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） 受講するためには実習指導の履修登録が必要。その他、関連する科目（妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ、分娩期の助産診技術学Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修を推奨する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。また、報告会を全履修学生の実習が終了して 2 週間後に予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。		

科目名	助産学実習Ⅱ（実践力開発）
英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅡ (Practical Development)
担当教員	久保田　隆子、片倉　裕子、大石　時子
時期・単位	1 年次　後期　必修　4　単位
講義目標	女性と周産期における母児とその家族を支援するため、女性や妊産褥婦や家族とのかかわりができ、助産診断・技術能力を高め、助産師としての態度を養う。
到達目標	1.助産過程が展開でき、指導のもとに4例の助産技術を1例ずつ高めながら実践できる。 2.助産における間接介助と新生児のケアを実践できる。 3.エビデンスに基づき女性並びに周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。 4.女性並びに妊婦、産婦、褥婦の健康診査と診断に基づきケアの実践ができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	分娩期の助産診断記録・分娩介助評価表（70%）　参加度（30%）評価方法
課題に対するフィードバック	分娩期の助産診断と分娩介助評価表は提出期限内に提出し学生には、指導助産師とのコメントを付して直接応対する。実習Ⅲに向けて課題を見出す。
使用教材	分野作成の実習の要項及び講義資料、今日の助産、マタニティ診断ガイドブック
講義内容	・1 週間（5 日間）＝45 時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 ・実習先に 4 週間（1 日 8 時間週5日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 ・分娩介助（4 例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（3 日間）。 ・分娩介助（5 例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（3 日間）。 ・分娩介助（6 例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（3 日間）。 ・分娩介助（7 例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（3 日間）。 ・分娩直後の新生児ケア・早期新生児へのケア指導・助言（4 日間）。 ・妊婦褥婦保健指導案（個人）の立案と実施の指導助言（2 日間）。 ・妊婦健診の指導・助言（2 日間）。 ・上記分娩介助3例目以降の実習の中に、分娩から退院まで継続して受け持つ事例を含むことができる。
	予習　実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認　期間中適宜
	復習　実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備　期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田）、 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） 受講するためには実習指導の履修登録が必要。その他、関連する科目（妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ、分娩期の助産診技術学Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修を推奨する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 また、報告会を全履修学生の実習が終了して 2 週間後に予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。 開講時期:1 年次 8 月～9 月

科目名	助産学実習Ⅲ（実践力発展）
英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅢ（Practical Advanced）
担当教員	久保田　隆子、片倉　裕子、大石　時子
時期・単位	1 年次　後期　必修　3　単位
講義目標	既習の助産診断・技術能力を統合させて、自律と連携に向けた確かな技術の確認と発展を目指し、経験知の科学的考察のための基盤を築く。
到達目標	1.既習の知識・技術を統合し、助産過程に基づいた助産を自律的に 3 例実践できる。 2.周産期における多職種連携チームの一員として、周産期のカンファレンスに参加し、課題解決に取り組むことができる。 3.継続事例の 1 例について産婦から助産を含めた出産育児ケア・指導の実践ができる。 4.周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	分娩期の助産診断記録・分娩介助評価表（50%）　参加度（30%）　継続事例 2 例の総合的まとめ（10%） 継続事例より学んだ課題と今後に向けた対策レポート（10%）
課題に対するフィードバック	分娩期の助産診断と分娩介助評価表は提出期限内に提出し学生には、指導助産師とのコメントを付して直接応対する。実習Ⅳに向けて課題を見出す。
使用教材	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書、今日の助産、マタニティ診断ガイドブック
講義内容	・1 週間（5 日間）＝45 時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 ・実習先に 3 週間（1 日 8 時間週5日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なるが、次に掲げる事項について学生は実習指導者による指導を受ける。 ・分娩介助（8 例目～10 例目）自律的な助産過程を展開し、助産を実践する（各 3 日間）。 ・継続ケア 1 例（分娩期の診断と援助、保健指導の実施、助産、産褥期の診断と援助、保健指導の実施）（5 日間，継続事例の経過に合わせて日程を決める）（初産婦 1 例または経産婦 1 例） ・保健指導案（個人）の立案と実施、評価（3 日間）。 ・臨地多職種とのカンファレンスに参加する。 開講時期：1 年次 1 月
	予習　実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認。　期間中適宜
	復習　実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備。　期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田）、受講するためには実習指導の履修登録が必要。オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） その他、関連する科目（妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ、分娩期の助産診技術学Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修を推奨する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。また、報告会を全履修学生の実習が終了後に予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。

科目名	助産学実習Ⅳ（助産管理）				
英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅣ（Midwifery Management）				
担当教員	久保田 隆子、大石 時子				
時期・単位	2 年次 通年 必修 1 単位				
講義目標	助産師が活動する地域、及び産科棟での役割と責任、業務の推進にかかわる助産管理の実際を学ぶとともに、現状の課題を理解し、解決のための方策を考えることができる。				
到達目標	1.診療報酬や自由診療、出産育児一時金などの社会保障を理解し、説明できる。 2.管理の実際を理解でき、課題を見つけられる。 3.助産施設の医療安全対策とアメニティの向上に関する業務の実際を説明できる。 4.助産師の倫理と理念に基づいた母子の継続ケア、並びにウイメンズヘルス・ケアを実践できる。 5.関係諸記録の種類の確認と記載、保管の実際を説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観			
	✓	高度な実践力			
	✓	研究能力			
	✓	豊かな人間性と使命感			
評価方法	レポート（60%） 発表（40%）				
課題に対するフィードバック	出産の歴史や環境を学び、医療介入のない自然出産のメリットやデメリットを考察する機会は助産観の育成に役立つ学習形態となっている。				
使用教材	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書				
講義内容	第１日目 ・事前学習の文献検索（見学時の観察ポイントの確認、経営に関しての知識（診療報酬と自由診療等））と整理 第２日目 ・助産所実習、マネージメントの実際を見学、多職種協同の実際に参画 第３～ ５ 日目 ・実習後グループディスカッション ・まとめ、レポート作成				
	予習	フィーリングバースについて考察を深める。		1.5	時間
	復習	助産師業務要覧Ⅰ（基礎編）を学習し考察を深める。		1.5	時間
備考	健大のメールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp 履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） 予習を行い、体調を整えて実習に臨むこと。1 週間（5 日間）＝45 時間				

科目名	助産学実践Ⅰ（EBPM探究）
英文名	Practice of Midwifery Ⅰ（Search for EBPM）
担当教員	大石　時子、久保田　隆子、片岡　弥恵子
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向け EBPM（Evidence Based Practice in Midwifery）とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。
到達目標	1.助産にかかわる注目すべきケア技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2.課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。 3.研究目的の焦点化と課題を明確に説明出来る。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	1）小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ 2）臨床研究の道標：福原俊一、健康医療評価研究機構 資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	EBPM の歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介（大石）	【予習】EBM の意味を調べる。 【復習】助産実践にとってのEBPM の意義を考察する。
2	1,2	助産学にかかわる内外研究紹介と購読、グループワーク（片岡）	【予習】助産文献の精読と批判的吟味 【復習】批判的吟味の解説の熟読
3			
4	2	助産文献のクリティーク（片岡）	
5			
6	2,3	文献のクリティークと研究目的の焦点化（大石）	【予習】文献を自己課題にそって選択しクリティークする。 【復習】授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする。
7			
8			
9	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】テーマの設定・分析 【復習】研究設問
10	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】分析と議論 【復習】収集と分析
11	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】位置づけと評価 【復習】目的と研究設計
12	1,2,3	研究枠組みの作成（久保田）	【予習】概念図 【復習】研究のプロセス

13	1,2,3	研究枠組みの作成（久保田）	【予習】自らの位置取り 【復習】直面する問題
14	1,2,3	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（久保田）	【予習】先行研究 【復習】研究動機
15	1,2,3	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（久保田）	【予習】論文書式 【復習】研究手順・倫理
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、 5 号館階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail：oishi-t@takasaki-u.ac.jp （大石）		

科目名	助産学実践Ⅱ（EBPM展開）		
英文名	Practice of Midwifery Ⅱ（Extending for EBPM）		
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、片倉 裕子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 2 単位		
講義目標	研究テーマ、理論的サブストラクションに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。		
到達目標	1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2.技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3.倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
		高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	レポート（100%）		
課題に対するフィードバック	研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ		
講義内容	4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き 5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検 6 月 研究展開のプレテストによるデータ収集 実施方法の再点検、修正、研究計画書完成		
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方：1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス：大石 oishi-t@takasaki-u.ac.jp 久保田 kubota-t@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）		

科目名	助産学実践Ⅲ（地域実践）		
英文名	Practice of MidwiferyⅢ（Community Practice）		
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、片倉、裕子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 3 単位		
講義目標	助産所（院内助産所）、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、思考の熟成を含め、課題を達成する。		
到達目標	1.自己課題に対応したフィールドを決め、交渉できる。 2.自己課題を解決する計画を企画し、立案できる。 3.計画に基づき実践し、課題を達成できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	レポート（100%）		
課題に対するフィードバック	データ収集の状況と分析過程について口頭あるいは書面でコメントする。		
使用教材	テキスト 1） 小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ 資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。		
講義内容	企画準備 5 月 課題目的に沿ったフィールドでの実施 地域実践の拠点の例 院内助産所：助産所とうみ 地域連携：寿助産院（高崎地区の産後母子訪問システムの調整役） 周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター まとめ		
	予習	今までの文献検索に基づき、自己課題を明らかにして、目的に合うフィールドを調査、探究する。	期間中適宜
	復習	課題解決の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方：1)課題解決のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に課題解決を進めること。2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス：大石 oishi-t@takasaki-u.ac.jp 久保田 kubota-t@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）		

科目名	助産学課題研究		
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife		
担当教員	久保田　隆子		
時期・単位	2 年次　通年　必修　4　単位		
講義目標	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。		
到達目標	1.研究のフィールドに教員と共に交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究成果（100%）		
課題に対するフィードバック	・修士論文の作成プロセスを学ぶ。 ・文献クリティークを行う。研究の背景、動機について明確にすることで研究者としての姿勢を意識できる。 ・研究計画書に関する作成資料についてコメントを付けて返却する。 ・データの収集の状況と分析課程及びまとめ方、考察の内容などについて高等あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントを付けて返却する。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト:①小笠原知枝・他編:これからの看護研究ー基礎と応用ー，ヌーベルヒロカワ		
講義内容	2 年次 5 月までには研究計画書 6 月　研究倫理審査 7 ～ 9 月　データ収集・データ分析 10 月　中間発表会 11 月　修士論文作成・完成 12～ 1 月　修士論文審査		
	予習	ゼミ方式で、進める。毎回文献のクリティーク発表をするので資料を作成する。	期間中適宜
	復習	クリティークで不明な点については、調べる。	期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp　履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 ②文献リストを作成すること。 ③研究に必要な書籍を調べること。 ④修士論文執筆要項を熟知すること。 ⑤予習・復習の時間は授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。		

科目名	助産学課題研究		
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife		
担当教員	大石 時子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 4 単位		
講義目標	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。		
到達目標	1.研究のフィールド開拓を教員と共に行い、交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究成果（100%）		
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―, ヌーベルヒロカワ		
講義内容	2 年次 4 月～ 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する 6~7 月 研究倫理審査 8～9 月 データ収集 10 月 データ分析、中間発表会 11 月 修士論文作成 12 月 修士論文審査		
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方 ： 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。 2)教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。 2.予習・復習の時間 ： 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先 ： E-mail アドレス：oishi-t@takasaki-u.ac.jp 4. オフィスアワー ： 木曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）		

科目名	助産学特論I（ウィメンズヘルス）
英文名	Advanced Theory of Midwifery Ⅱ (Women's Health)
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、蓮尾 豊
時期・単位	1 年次 後期 選択 2 単位
講義目標	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。
到達目標	1.思春期男女に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2.男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3.性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4.グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォロワーシップを発揮できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	参加度（30%）レポート（70%）「女のからだ、を読んで考えたこと」
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	テキスト：①荻野美穂：女のからだ、岩波新書 ②吉沢豊予子：助産師基礎教育テキスト 2, 看護協会出版会 参考書：③ウィメンズヘルス事典−女性のからだとこころガイド, 日本母性衛生学会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,	WOMEN’S HEALTH と GENDER(大石)	【予習】 シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する 【復習】 科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する
2	1,2,3,	思春期女性の支援（ピルを含む）（蓮尾）	【予習】月経のメカニズムについて調べておく 【復習】ピルの作用機序と副作用について復習する
3	1,2,3,	女性と月経、月経障害について（蓮尾）	
4	1,2,3,4	思春期女性の支援グループワーク（大石）	【予習】 女のからだ 第2章までを読む 【復習】 女のからだ 第 3,4 章を読む
5	1,2,3,4	性感染症予防と支援（子宮頸がん予防）（大石）	【予習】子宮と女性性器の解剖 【復習】子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する
6		性感染症予防と支援グループワークとまとめ（大石）	

7	1,2,3	女性とパートナーに対する支援(大石)	【予習】 DVについてインターネット上の情報を収集する 【復習】 DVの社会背景を考察する
8			
9	1,2,3,4	女性に対する暴力:グループワーク(大石)	
10	2,3	不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論(久保田)	【予習】 妊娠成立のメカニズムを復習しておく 【復習】 テキスト:女のからだ　第5章を読む
11		不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論(久保田)	
12	2,3,4	不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク(久保田)	
13		不妊女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表(久保田)	
14	3	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴(大石)	【予習】 中高年女性の身体的特徴 【復習】 中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する
15	3,4	中高年女性に対する支援:グループワークとまとめ(大石)	
備考	・主体的に discussion　に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館 3 階 306 研究室 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp(大石)		

科目名	助産学特論Ⅱ（助産管理）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅢ（Midwifery Management）
担当教員	小泉　仁子、馬目　裕子
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。
到達目標	1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4.自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。
使用教材	テキスト：①我部山・他：助産学講座 10，医学書院　②助産業務要覧 2019 年版，看護協会出版会　③成田：助産師基礎教育テキスト 3，看護協会出版会 参考書：看護六法（平成 25 年版），新日本法規，助産業務ガイドライン 2014，院内助産・助産師外来ガイドライン 2018

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産業務・管理の概念（小泉） ＊助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする。
2 3	1,2	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	【予習】テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。 【復習】問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。
4	2,4	助産業務管理の実際（病院）（小泉） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする。
5 6	2,4	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（馬目）） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	【予習】必読図書を読み、課題を明確にしておく。 【復習】ディスカッションで自己課題を明確にする
7	2,3	周産期における安全管理・危機管理（馬目）	【予習】テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確

			にする。 【復習】問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。
8	2,3	助産師と災害対策（馬目） ＊周産期施設の災害対策 ＊災害の実際 ＊災害時の母子ケアについて	【予習】災害に関連した母子ケアについて、インターネット等で情報に触れる 【復習】災害時に助産師に求められる役割が分かる
備考	・各単元（授業時間）について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。 ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。 ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。 ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を実りあるものにするよう努力する。 ・講師との連絡方法については、初講時に示す。		

科目名	助産学特論Ⅲ（開業・院内助産）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ（Independent Practice of　Midwifery）
担当教員	大石 時子、東福寺　幾夫、馬目　裕子、西山 信之、宮下 美代子、岡本　登美子、林 啓子
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。
到達目標	1.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。 2.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。 3.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4.行政への働きかけ（産後母子訪問システム等の実績等）、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。 5.助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（30%）、presentation（70%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	Presentation に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。
使用教材	1）″ジェームズ C.コリンズ：ビジョナリーカンパニー,日経 BP 社 2）産婦人科診療ガイドライン 2017 3）助産業務ガイドライン 2014 4）福井年子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会、 5）図説・日本の遠隔医療 2017　日本遠隔医療学会 その他資料で提供″

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	病院における経営戦略の実際（西山）	【予習】病院における経営組織の特徴・課題について考察。 【復習】経営組織の基本的な考え方、組織デザイン、組織文化、組織戦略、組織変革などについて、早く正しい答えを見出す能力（知能）を高める。
2	1	病院における経営戦略の実際（西山）	【予習】病院における経営組織のマネジメント概念の現実への適用について考察。 【復習】個人や集団といったミクロレベルから、組織構造や組織間といったマクロレベルまで、経営組織の「未来最適」「全体最適」を、問い続ける能力（知性）を磨く。
3	1	助産所における経営と経営戦略（宮下）	【予習】宮下助産院の経営内

4	1	助産所における経営戦略の実際（宮下）	容を HP で調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。 【復習】「私が開所したい助産院」とのテーマで presentaion の準備をする
5	2	助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下）	
6	2	助産師の自律と人間関係の調整（宮下）	
7	3,5	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイ,5 リスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下）	
8	3	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	【予習】 ウパウパ岡本助産院の HP で産後ケア事業を調べる 【復習】 産後ケア事業の法律的根拠と意義についてまとめる
9	4		
10	3	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（馬目）	【予習】産科医療過誤訴訟 【復習】:災害支援・災害時分娩
11	2,3,5	院内助産システムと助産師の自律について（林）	【予習】 院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく 【復習】 施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える
12	2,3,5	助産師の自律（バースセンターの設立経験から）（林）	【予習】 院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える 【復習】 助産師の声明・綱領（日本助産師会）を読み、院内助産を通した助産師の自律について考える
13	2,3	遠隔医療とは（東福寺） (1)遠隔医療とは (2)遠隔医療の歴史 (3)遠隔医療実用上の障害 (4)D to D 遠隔医療 (5)D to P、 D to N to P 遠隔医療、オンライン診療 (6)その他の遠隔医療 (7)遠隔禁煙支援と Digital Therapy	【予習】 副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」（日本遠隔医療学会編）1 章～3 章を通読する。 【復習】 助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。
14	2,3	IT technology を使った周産期管理 （東福寺） (1)分娩監視装置 (2)遠隔妊婦健診 (3)電子母子手帳	【予習】副読本「図説・日本の遠隔医療 2017」（日本遠隔医療学会編）2 章を通読する。 【復習】周産期管理へのICT応用を整理する。

15	1,2,3,4、5	Presentation （大石）	【予習】presentation の用意 【復習】お互いの発表を共有しさらに自己の考察を深める
備考	・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学特論Ⅳ（母子保健政策論）
英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Maternal and Child Health Politics)
担当教員	大石　時子、菊地　栄、増田　さゆり、日本助産師会会長
時期・単位	2 年次　前期　必修　1　単位
講義目標	母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する
到達目標	1. 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。 2. 母子保健・・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる 3. 政策策定過程に影響を及ぼす団体（助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等）の役割を理解できる。 4. 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。 5. 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート(100%)　　「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」
課題に対するフィードバック	質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。
使用教材	参考図書:　①福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会 ②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院、 その他資料で提供″

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	助産師と母子保健政策（大石）	【予習】地域母子保健論の復習をする 【復習】歴史と助産師の関連について復習する
2	1	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策（菊地）	【予習】母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく 【復習】関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる
3	1	母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策の変遷（菊地）	【予習】母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく 【復習】関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる
4	1	日本助産師会における政策要望活動等（会長）	【予習】日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る

5			【復習】職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる
6 7	2	県レベルにおける母子保健政策実施（増田）	【予習】群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる 【復習】母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する
8	5	まとめ（大石） 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策の中から一つを選び、その歴史的変遷と現在の政策を振り返り、今後どのような方策が必要か発表する	【予習】今までの授業から現在の母子保健政策を歴史の中に位置づけてみる 【復習】母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する
備考	・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。 ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産における補完代替医療
英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当教員	今関　節子、山西　加織
時期・単位	2 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	女性のライフスタイルをホリステックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。
到達目標	1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（100%） 各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。
課題に対するフィードバック	毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。
使用教材	①松本清一・他著：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ②鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネージメント（今関）	【予習】シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。 【復習】オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。
2	2	ヨガの基礎理論（山西）	【予習】ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。 【復習】授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。
3	2	ヨガの実際（山西）	
4	1,2	妊産婦エクササイズの理論（今関）	【予習】あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。 【復習】授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。
5	1,2	妊産婦エクササイズの実際（今関）	
6	1,2	産痛緩和法の理論と実際　マッサージ・呼吸法（今関）	【予習】あらかじめ配布してある資料に基づいて、内容を理解して授業に臨む。

7	1,2	産痛緩和法の理論と実際　身体的・心理的リラクセーション（今関）	【復習】学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、産痛緩和法一つを選んで様式に沿って記録し提出する。
8	1,2	アロマ・ハーブに使われる精油・植物（今関）	【予習】資料を参考に身近で可能なハーブの植物を採取してくる。 【復習】学習したアロマセラピーや、ハーブティーを日常に応用して様式に沿って記録し、提出する。
9	1,2	女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関）	
10	1,2	リフレクソロジーの基礎理論（今関）	【予習】左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。 【復習】各種技法を実際に実施し、様式に沿って記録し提出する。
11	1,2	リフレクソロジーの実際（今関）	
12	1,2	ツボの基礎理論（今関）	【予習】資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。 【復習】周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。
13	1,2	ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）	
14	1,2	産後の骨盤エクササイズの理論と実際（今関）	【予習】産後の骨盤と筋・靭帯の変化を理解して授業に出席する。 【復習】骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。
15	1,2	快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際（今関）	
備考	・授業の実施場所は、2・3 回目は 8 号館 1F、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。 ・予習・復習は、原則として全授業を通して 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。 オフィスアワー：土曜日 13 時~14 時		

科目名	女性のフィジカルアセスメント
英文名	Physical Assessment of Women
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、新井 基子
時期・単位	1 年次 前期 選択 2 単位
講義目標	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。
到達目標	1.助産師が行うべき.女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	実技試験（100%）
課題に対するフィードバック	演習において、その場で講評・コメントする。
使用教材	教科書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 参考書：吉沢豊子：女性の健康とケア，日本看護協会出版会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石）	【予習】教科書序章、I-1を読む 【復習】看護診断と助産診断の相違を考察する
2			
3	1,2	頭部、顔、皮膚の診察法とアセスメント（大石）	【予習】教科書 I-3 を読む 【復習】診察技術を練習する
4			
5	1,2	頸部の診察法とアセスメント （大石）	
6			
7	1,2	胸部、の診察とアセスメント（大石）	
8			
9	1,2	成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法（久保田）	【予習】更年期、骨粗しょう症 【復習】加齢と生活習慣病
10			
11	1,2	成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実際とアセスメント（久保田）	
12			
13	1,2,3	婦人科的診察法の実際（大石）	【予習】教科書 I-5 を読む 【復習】技術テストに向け練習を行う
14			
15	1,2,3	婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実際（大石）	
16			
17	1,2	超音波診断装置による基礎的操作の理論（大石）	【予習】教科書 I-5 を読む 【復習】操作技術を練習する
18			
19	1,2	超音波診断装置による基礎的操作と検査一般・アセスメントの実際（大石）	
20			
21	1,2	乳房の診察法の基礎理論（新井）	【予習】教科書Ⅳ-3,4 を読む

22			【復習】配布資料の理解を確認する
23	1,2	乳房の診察法とアセスメントの実際（新井）	
24			
25	1,2	妊娠期の変化の逸脱兆候の診察法とアセスメント	【予習】教科書Ⅴ章を読む 【復習】必要な検査と検査結果（値）の正常範囲を復習する
26			
27	1,2	腹部診察法とアセスメント、（大石）	【予習】教科書 I-4 を読む 【復習】診察技術を練習する
28			
29	1,2	手足の診察とアセスメント（大石）	【予習】教科書 I-3,4 を読む 【復習】診察技術を練習する
30			
備考	・主体的に演習に参加する。 ・自律的に技術の練習をする。 ・技術で得た身体所見をアセスメントする ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。 5 号館 3 階 306 研究室（大石） E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	産婦人科医学診断
英文名	Gynecology Diagnosis
担当教員	篠崎 博光、曽田 雅之、中村 和人
時期・単位	1 年次 前期 選択 1 単位
講義目標	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。
到達目標	1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（30%） レポート（70%）
課題に対するフィードバック	講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。
使用教材	テキスト：岡井 崇：標準産婦人科学（STANDARD TEXTBOOK），医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4	女性生殖器の構造・女性の性機能（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
2	1,2,3,4	女性のライフサイクルと健康課題（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
3	1,2,3,4	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
4	1,2,3,4	産婦人科検査（画像診断）（篠崎）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
5	2,3,4	女性性器の疾患①（中村）	【予習】女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。 【復習】テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。
6	2,3,4	女性性器の疾患②（中村）	【予習】婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に

			理解しておく。 【復習】テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。
7	1,2,3,4	加齢と疾患、更年期と更年期障害（曽田）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
8	1,2,3,4	加齢と疾患、骨粗鬆症（曽田）	【予習】該当部分をテキスト等で事前学習する。 【復習】不足する学習内容を補充する。
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	新生児学
英文名	Neonatology
担当教員	丸山 憲一
時期・単位	1 年次 前期 必修 1 単位
講義目標	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。
到達目標	1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート(50%)および口頭発表(50%)で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。
使用教材	テキスト:仁志田博司:新生児学入門(第 5 版), 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価	【予習】講義の項目についてテキストで事前学習を行う。 【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。
2	1,2,3	新生児診断学	
3	1,2,3	新生児の生理、発達	
4	1,2,3,4	新生児の養護と管理(ハイリスク新生児、NICU 入院児を含む)	
5	1,2,3,4	体温調節と保温	
6	1,2,3,4	栄養の基礎と診療	
7	1,2,3,4	水—電解質バランス	
8	1,2,3,4	内分泌系・代謝系の異常	
9	1,2,3,4	内分泌系・代謝系の異常と管理	
10	1,2,3,4	呼吸器系の生理と診療	
11	1,2,3,4	循環器系の基礎と診療	
12	1,2,3,4	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療	
13	1,2,3,4	免疫系と感染	
14	1,2,3,4	中枢神経系の障害と診療	
15	1,2,3,4	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理	

備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ
英文名	High risk of Perinatal Complications Ⅰ
担当教員	伊藤　理廣、竹中　恒久
時期・単位	1 年次　後期　必修　1　単位
講義目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。
到達目標	1.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2.妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	第 4 回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。
使用教材	テキスト①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂　②岡井崇・他編：標準産婦人科学（第 4 版），医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	胎児の発生と出生前診断（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
2	1,2	不妊症（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
3	1,2	不育症（伊藤）	【予習】シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。 【復習】不足する学習内容を補完学習する。
4	1,2	異常妊娠：妊娠悪阻、流産（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
5	1,2	異常妊娠：早産、頸管無力症、人工妊娠中絶、子宮内胎児死亡・死産（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
6	1,2	異常妊娠：異所性妊娠、妊娠高血圧症候群（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。

			【復習】当日学習した要点を整理する。
7	1,2	異常妊娠：常位胎盤早期剥離、前置胎盤、癒着胎盤（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
8	1,2	異常妊娠：羊水の異常、多胎妊娠、血液型不適合妊娠（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
9	1,2	異常妊娠：胎児発育不全、薬物・放射線の児への影響、過期妊娠（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
10	1,2	合併症妊娠：子宮筋腫、心疾患、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、妊娠性貧血、慢性腎炎・ネフローゼ症候群、妊娠中の糖代謝異常、甲状腺疾患（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
11	1,2,3	合併症妊娠：感染症 異常分娩；娩出力の異常（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
12	1,2,3	異常分娩：子宮底圧迫法、VBAC、分娩誘導、産道の異常、回旋異常・胎位異常（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
13	1,2,3	異常分娩：肩甲難産、胎児機能不全、前期破水、子宮破裂（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
14	1,2,3	異常分娩：頸管裂傷、腟・会陰裂傷、子宮内反、弛緩出血、DIC、産科ショック、吸引分娩、鉗子分娩（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
15	1,2,3	異常分娩：帝王切開術、産科麻酔 異常産褥：産褥熱 母子免疫：母子免疫（竹中）	【予習】教科書の該当部分を通読しておく。 【復習】当日学習した要点を整理する。
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 15 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ
英文名	High risk of Perinatal ComplicationsⅡ
担当教員	伊藤　雄二、丸山　憲一、竹中　俊文、吉田　光典、増山　葉月
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。
到達目標	1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	筆記試験（60%）　演習レポート（40%）
課題に対するフィードバック	講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。 試験終了後、結果について講評、コメントを行う。
使用教材	テキスト：①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂　②岡井崇・綾部琢哉：標準産婦人科学（第 4 版），医学書院 参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断，東京医学社　②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第 2 版），メディカ出版　③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術ートラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学），医学書院　④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト（第 3 版），メジカルビュー社　⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト 58－本当に知りたかった技とコツ，メディカ出版

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	【予習】超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。 【復習】超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。
3 4	1	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	【予習】妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。 【復習】実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。
5	1	超音波検査の実際と画像評価（増山）	【予習】出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復

6			習しておく。 【復習】自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。
7 8	3	分娩時のモニタリングと胎児の評価　理論と実技（吉田）	【予習】胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。 【復習】実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。
9 10	2	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	【予習】骨盤底の解剖を理解する。 【復習】助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。
11 12	2	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	【予習】会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。 【復習】基本的な縫合や糸結びを確認する。
13 14	3	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
15 16	3	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
17	3	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。 【復習】講義の内容を確認す

18			るとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
19 20	3	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
21	3	娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助（伊藤）	【予習】シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。 【復習】講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。
22 23	3	新生児の異常と画像評価（丸山）	【予習】今までの新生児の異常編の授業を復習しておく 【復習】新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する
24 25 26	3	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	【予習】講義の項目についてテキストで事前学習を行う。 【復習】講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。
27 28 29 30	3	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	
備考	・予習・復習は、原則として全授業をとおして 30 時間は行う。 ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。		

科目名	**地域母子保健実習**
英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community
担当教員	久保田　隆子、大石　時子
時期・単位	2 年次　前期　選択　1　単位
講義目標	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。
到達目標	1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2.地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。 3.地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（50%）　演習（50%）
課題に対するフィードバック	行政が実践する健康教育、クラス運営について学ぶ機会を得て助産師の業務拡大を考察することができる。
使用教材	参考書:①群馬県保健要覧 30 年度版，群馬県保健予防課
講義内容	第 1 日　・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス 第 2 日　・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画 ・行政や地域で行われている学級等への参画 第 3 日　・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画 第 4 日　・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画 第 5 日　・グループワーク:実際のクラスの企画から評価まで学内演習、まとめ
	予習　わが国の母子保健（母子衛生研究会）を読む。　期間中適宜
	復習　母子保健の主なる統計（母子衛生研究会）を読む。　期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田）受講に関しては履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） 事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 1 週間(5 日間)＝45 時間

科目名	国際助産論
英文名	International Midwifery
担当教員	大石 時子
時期・単位	2 年次 通年 選択 1 単位
講義目標	Global 化する世界の中での 国際母子保健と women's health の課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健と women's health に関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。
到達目標	6. 世界での母子の健康状態の特徴がわかる 7. Global 化の中での women's health の課題がわかる 8. 世界の women's health や母子保健に果たす国際機関の役割がわかる 9. 在日外国人女性の women's health や母子保健の現状と課題がわかる 10. 国内外で助産師がはたすべき役割がわかる
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート（70%） 参加度（30%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	随時、資料を提示する。参考書： 医学書院、助産学講座 9、地域母子保健・国際母子保健

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	助産学と国際社会（大石）	【予習】助産師が世界でどのような活動をしているか調べる 【復習】
2	1,2	国際母子保健（大石）	【予習】日本の母子保健の指標を復習しておく 【復習】日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する
3	1,2,3	国際的な women's health の課題（大石）	【予習】世界での人口移動がどのように行われているか調べる 【復習】世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える
4	4,5	在日外国人女性の現状と健康（大石）	【予習】日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる 【復習】助産師の役割を考察する

5	4,5	在日外国人の母子保健（大石）	【予習】日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる 【復習】助産師の役割を考察する
6	3,5	在外日本人の母子保健と Women's Health （大石）	【予習】参考書の 6 章 B を読む 【復習】助産師が国際的に連携する意義について考察する
7	3,5	助産に関わる国際組織の活動（大石）	【予習】 WHO, UNFPA.、ICM の HP を調べる 【復習】国際組織が果たす役割についてまとめる
8	3,5	助産実践と助産教育の国際比較 （大石）	【予習】ICM の HP をみておく 【復習】助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する
備考	・主体的に discussion に参加する。 ・自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。5 号館 3 階 306 研究室 E-mail: oishi-t@takasaki-u.ac.jp（大石）		

科目名	助産学教育論
英文名	Midwifery education
担当教員	久保田　隆子、大石　時子
時期・単位	1 年次　後期　選択　1　単位
講義目標	助産学教育の変遷、教育展開および教授法について学び、問題点や課題について考察できる。
到達目標	1.助産学教育の変遷と位置づけが理解できる。 2.助産学教育の課程別カリキュラム内容が理解できる。 3.学習者の知識・理論・技術を実践行動に統合するための能力開発過程を理解できる。 4.教育展開として、カリキュラム立案から評価の過程について企画できる。 5.現在の助産学教育の問題点を抽出できる。 6.助産学教育の方向性を考察できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	グループ討論への参加度（50%）　カリキュラム立案（50%）
課題に対するフィードバック	助産学の変遷や課程別カリキュラム内容とその課題、将来を見越した教育の方向性など、幅広い視点で助産学をとらえることで、今後臨床や教育界の教育担当者としての心構えが備わる。
使用教材	参考文献: ①田中耕治,よくわかる授業論　ミネルヴァ書房 ②杉江修治,大学授業を活性化する方法　玉川大学出版会 ③福井トシ子編,助産師業務要覧Ⅱ実践編、Ⅲアドバンス編　日本看護協会出版会

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	日本の助産師教育の変遷 助産師教育課程指定規則の内容と位置づけ	【予習】講義の目標を理解する 0.5 時間 【復習】自律的に学習する 0.5 時間
2	1,2	助産学教育の課程別カリキュラムの特徴 専門（養成所）・大学・専攻科・別科・大学院	【予習】課程別の特徴 0.5 時間 【復習】課程別の違い 0.5 時間
3	1,2,3	助産師教育課程構築の実際① 課程別カリキュラムの内容と特徴	【予習】教育目標 0.5 時間 【復習】到達目標のとらえ方 0.5 時間
4	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際② 参考書の内容と特徴と比較	【予習】参考書の選出方法 0.5 時間 【復習】参考書の各出版社別特徴 0.5 時間
5	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際③ 講義構築へ向けての講義案作成	【予習】助産師教育と科目 0.5 時間 【復習】教材観・指導観・学生観 0.5 時間

6	1,2,3,4	助産師教育課程構築の実際④ 助産学実習へ向けての実習要綱案作成	【予習】助産師教育と実習 0.5 時間 【復習】10 例介助と到達度 0.5 時間
7	1,2,3,4,5	助産師教育課程構築の実際⑤ 助産師教育の現状と抱える問題点と課題・今後目指すべきカリキュラムの提案	【予習】教育年限 0.5 時間 【復習】PBL の目的 0.5 時間
8	1,2,3,4,5,6	助産師教育課程構築の実際⑥ 理想の学校作り発表会	【予習】KTP のフレーム 0.5 時間 【復習】行動変容の第一歩 0.5 時間
備考	メールアドレス　kubota-t@takasaki-u.ac.jp(久保田)　氏名記載の事。履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 ②課程別助産師教育についての情報収集に着手することを勧める。課程別事例を用いての発表を行う。助産学教育に必要な用語を調べておくこと。 ③予習・復習項目はシラバスに沿っています。読んで臨んでください。予習・復習は原則として全授業を通して 8 時間を行う。		

科目名	助産学実践Ⅰ（EBPM探究）
英文名	Practice of Midwifery Ⅰ（Search for EBPM）
担当教員	大石　時子、久保田　隆子、片岡　弥恵子
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向け EBPM（Evidence Based Practice in Midwifery）とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。
到達目標	1.助産にかかわる注目すべきケア技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2.課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。 3.研究目的の焦点化と課題を明確に説明出来る。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
使用教材	1）小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ 2）臨床研究の道標：福原俊一、健康医療評価研究機構 資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	EBPM の歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介（大石）	【予習】EBM の意味を調べる。 【復習】助産実践にとってのEBPM の意義を考察する。
2	1,2	助産学にかかわる内外研究紹介と購読、グループワーク（片岡）	【予習】助産文献の精読と批判的吟味 【復習】批判的吟味の解説の熟読
3			
4	2	助産文献のクリティーク（片岡）	
5			
6	2,3	文献のクリティークと研究目的の焦点化（大石）	【予習】文献を自己課題にそって選択しクリティークする。 【復習】授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする。
7			
8			
9	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】テーマの設定・分析 【復習】研究設問
10	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】分析と議論 【復習】収集と分析
11	1,2,3	研究テーマの設定（久保田）	【予習】位置づけと評価 【復習】目的と研究設計
12	1,2,3	研究枠組みの作成（久保田）	【予習】概念図 【復習】研究のプロセス

13	1,2,3	研究枠組みの作成（久保田）	【予習】自らの位置取り 【復習】直面する問題
14	1,2,3	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（久保田）	【予習】先行研究 【復習】研究動機
15	1,2,3	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（久保田）	【予習】論文書式 【復習】研究手順・倫理
備考	・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。 ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。 ・予習・復習は、原則として全授業をとおして 60 時間は行う。 ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。 ①オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、 5 号館階 306 研究室 ②随時メールでも受け付ける。 E-mail：oishi-t@takasaki-u.ac.jp （大石）		

科目名	助産学実践Ⅱ（EBPM展開）		
英文名	Practice of Midwifery Ⅱ（Extending for EBPM）		
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、片倉 裕子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 2 単位		
講義目標	研究テーマ、理論的サブストラクションに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。		
到達目標	1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2.技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3.倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
		高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	レポート（100%）		
課題に対するフィードバック	研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ		
講義内容	4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き 5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検 6 月 研究展開のプレテストによるデータ収集 実施方法の再点検、修正、研究計画書完成		
	予習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業時に課題を提示	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方：1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス：大石 oishi-t@takasaki-u.ac.jp 久保田 kubota-t@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）		

科目名	助産学実践Ⅳ（実践評価）		
英文名	Practice of MidwiferyⅣ（ Evaluation of Practices ）		
担当教員	大石 時子、久保田 隆子、片倉、裕子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 3 単位		
講義目標	今まで経験したケアやケアシステムを、エビデンスを通して評価する。 より女性に寄り添ったケアを実践するために必要なエビデンスは何かを考察する。 よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素について考察する。		
到達目標	1. 今まで自己が行ったケアや経験したケアシステムから実践上の課題を抽出する 2. 1 の課題に対しエビデンスを通して評価する。 3. より女性に寄り添ったケアを実践するためにどうすればよいかをエビデンスを通して考察する。 4. よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を現存するケアシステムから見出す 5. より女性に寄り添ったあるべきケアシステムついて evidence を用いて考察する。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	レポート（100%）		
課題に対するフィードバック	実践の評価と evidence について口頭あるいは書面でコメントする。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献や HP(日本助産師会等)を活用する 2016 Evidence-Based Guidelines for Midwifery Care, J of Japan Academy of Midwifery		
講義内容	・今まで経験したケアやケアシステムから課題を抽出し、エビデンスを通して評価する。 ・より女性に寄り添ったケアを実践するために何が必要だったかをエビデンスや実践 field の見学を通して考察する。 ・よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を知るため、様々な実践 field の見学等を行う。 ・より女性に寄り添ったあるべきケアシステムついて evidence を用いて考察する。 まとめ		
	予習	今までの自己の実践を振り返り、実践上の課題を明らかにする	期間中適宜
	復習	実践評価の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。 助産師が関わっている様々な実践の HP を探索する	期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方：1)自己の実践を評価するための文献検索を積極的に進めること。2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動につなげる。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある 3.担当教員連絡先：E-mail アドレス：大石 oishi-t@takasaki-u.ac.jp 久保田 kubota-t@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：火曜日 12 時～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）		

科目名	助産学特別研究		
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science		
担当教員	久保田 隆子		
時期・単位	2 年次 通年 必修 6 単位		
講義目標	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。		
到達目標	1.実習のフィールドと交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究成果（100%）研究計画書に関する、学位論文審査基準 7 項目と最終試験 5 項目によって評価する。		
課題に対するフィードバック	・修士学位論文の作成プロセスを学ぶ。 ・文献クリティークを行う。研究の背景、動機について明確にすることで研究者としての姿勢を意識できる。 ・研究計画書に関する作成資料についてコメントを付けて返却する。 ・データの収集の状況と分析家庭及びまとめ方、考察の内容などについて高等あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントを付けて返却する。		
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ		
講義内容	2 年次 5 月までには研究計画書 6 月 研究倫理審査 7 ～ 9 月 データ収集・データ分析 10 月 中間発表会 11 月 修士論文作成 12 月～1 月 修士論文完成		
	予習	ゼミ方式で、進める。毎回文献のクリティーク発表をするので資料を作成する。	期間中適宜
	復習	クリティークで不明な点については、著書内容を調べる。	期間中適宜
備考	メールアドレスは次の通り。kubota-t@takasaki-u.ac.jp（久保田） 受講に関しては履修登録が必要。 オフィスアワーは木曜日 10:45~12:15。5 号館 303 研究室（久保田） ①自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 ②文献リストを作成すること。 ③研究に必要な書籍を調べること。 ④修士論文執筆要項を熟知すること。 ⑤予習・復習の時間は授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。		

科目名	助産学特別研究
英文名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science
担当教員	大石 時子
時期・単位	2 年次　通年　必修　6　単位
講義目標	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。
到達目標	1.実習のフィールドと交渉できる。 2.研究倫理審査に対応できる。 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	研究成果（100%）
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。 ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。
使用教材	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。 テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ
講義内容	4～5 月　1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。 1)　調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。 2)　データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。 6～8 月　精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。 1)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。 2)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。 9～10 月　計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。 1)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。 2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。 11～1 月　論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。 2)助産学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。 5)新知見を明確にし、臨床における助産学の向上に向け最終論文として提出する。
	予習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜
	復習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　期間中適宜
備考	1.授業外学習の進め方：1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めるこ

	と。2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。 3.担当教員連絡先：E-mail：oishi-t@takasaki-u.ac.jp 4.オフィスアワー：木曜日 12～13 時、5 号館 3 階 306 研究室（大石）

科目名	研究倫理と理学療法学研究法
英文名	Advanced Research Ethics and Research Methods in Physical Therapy
担当教員	竹内　伸行、居村　茂幸、田中　聡一、解良　武士
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	研究倫理に関する最新の考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。
到達目標	1.最新の研究倫理に関する考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンスの構築のための研究の意義・役割が理解できる。 2.人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3.各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	プレゼンテーション 50%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	理学療法研究法　第 3 版　医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割、研究倫理について（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3	最新の研究倫理に関する考え方のポイント（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3	理学療法学における研究デザインの種類と特徴（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4	1,2,3	リサーチクェスチョンからオーバービューへ（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
5	1,2,3	評価項目の設定方法（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。 の不足部分を文献や配付資

6	1,2,3	データ収集と管理（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
7	1,2,3	データ解析における注意点（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8	1,2,3	調査研究の手法について（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
9	1,2,3	尺度開発の手法について①（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
10	1,2,3	尺度開発の手法について②（学生発表）（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3	実験研究・準実験研究の手法について①（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3	実験研究・準実験研究の手法について②（学生発表）（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13	1,2,3	介入研究の手法について①（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
14	1,2,3	介入研究の手法について②（学生発表）（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3	研究論文の書き方（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨み、授業後は自己の課題を分析して知識を整理しておくこと。なお、予習復習は 90 分以上行う必要がある。 自分の研究テーマに関する各研究法の文献のクリティークおよび文献レビューのレポートを提出する。 学内で開催される研究倫理に関する講習会および e-learning による所定の倫理研修を必ず受講する。		

	担当教員連絡先　竹内　E-mail：ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　　月曜 18：15～19：45(不在時はメールで問い合わせること)

科目名	障害予防学特論
英文名	Advanced Lecture on prevention of obstacle
担当教員	田中　聡一、吉田　剛、解良　武士、中川　和昌
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	超高齢社会において地域在住高齢者が、健康を維持しながら介護予防、障害再発予防、疾病予防を実践し健康寿命を延伸していくために、理学療法士に求められる知識および技術について広く考える基盤を養う。 障害の発生に関与する因子について生活環境の影響を踏まえて広くとらえ、予測的対応についてより具体的に考えるための基礎を身につける。
到達目標	1.今までに行われてきた障害予防の取り組みを概観できる。 2.予後予測に基づく予防的対応について理解する。 3.障害構造と生活環境の関係について理解する。 4.効果的な障害予防について考えることができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	レポート 70%、講義参加度・貢献度 30%
課題に対するフィードバック	レポートの評価、添削をし、ディスカッションを行う。
使用教材	参考書：市橋則明 「運動療法学各論　高齢者の機能障害に対する運動療法」文光堂 鈴木隆夫 「完全版　介護予防マニュアル」法研 大渕修一 「予防理学療法学要論」医歯薬出版

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,3	オリエンテーション：障害予防の概念について（田中）	【予習】高齢者の健康維持、疾病予防、介護予防の現状と課題をまとめる。 【復習】障害予防に対する理学療法士の役割をまとめる。
2	1,2,3	老年症候群について（田中）	【予習】運動機能だけでなく、高齢者にみられる機能低下の原因をまとめる。 【復習】運動以外の機能低下が高齢者に及ぼす影響と対策をまとめる。
3	1,2,3,4	生活不活発病とその原因（解良）	【予習】生活不活病の定義を調べる。 【復習】生活フ不活病予防の対策をまとめる
4	1,2,3,4	フレイルとサルコペニアについて（解良）	【予習】フレイルとサルコペニアの違いを調べる。 【復習】フレイル予防とサルコペニア予防の違いを整理する

5	1,3,4	生活環境と活動の関係：特に基本動作に着目して（解良）	【予習】生活活動が ADL に及ぼす影響について、持論を用意する。 【復習】生活活動が ADL に及ぼす影響について、授業と文献を用いて考察する
6	1,2,3	個別性に対する評価指標（吉田）	【予習】障害を予防するためには個体差があることが前提となるので、項目を列挙する。 【復習】列挙できなかった評価項目について、どのような指標が妥当か検討する。
7	1,2,4	障害の予後予測に使われる評価指標（中川）	【予習】自分の専門分野に関する予後予測の評価指標に関する資料を抄読する。 【復習】授業で取り扱った評価指標を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する。
8	1,3,4	認知症予防①（田中）	【予習】認知症の種類をまとめる。 【復習】認知症それぞれの症状をまとめる
9	1,3,4	認知症予防②（田中）	【予習】アルツハイマー病の発症危険因子、脳血管性認知症の症危険因子をまとめる。 【復習】アルツハイマー病、脳血管性認知症それぞれの予防方法を考察する。
10	1,2,3,4	誤嚥性肺炎予防①（吉田）	【予習】誤嚥性肺炎について調べる。 【復習】誤嚥性肺炎の原因について整理する。
11	1,2,3,4	誤嚥性肺炎予防②（吉田）	【予習】現在どのような予防法が推奨されているか調べる。 【復習】予防のための指導ポイントを整理してまとめる。
12	1,4	ロコモ予防①（中川）	【予習】ロコモが提唱されるに至った背景について整理する。 【復習】】ロコモ予防における専門家としての自分の役割

			を考察する。
13	1,2,3,4	ロコモ予防②（中川）	【予習】ロコモ予防の具体策を調べる。 【復習】ロコモ予防における専門家としての具体策を考察する。
14	1,2,3,4	健康体操とその意義（中川）	【予習】健康増進のために実践されている体操・運動に関する文献を抄読する。 【復習】自身の活動に健康体操がどのように応用できるかを考える。
15	1,2,3,4	まとめ（田中）	【予習】これまで学習してきた障害予防についてプレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションで質問されたことに対する正確な解答を得る
備考	地域で行われている障害予防の取り組みについて自発的に情報収集し、レポートにまとめる。なお、予習復習は90分以上行う必要がある。オフィスアワーは月曜日6限目前後で、メール等で連絡の上、学習に関する質問は随時受けつける。（田中）stanaka@takasaki-u.ac.jp		

科目名	自立生活支援学特論
英文名	Advanced Lecture on Independent living support
担当教員	解良　武士、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一、中川　和昌
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	超高齢社会において要介護高齢者が増加し、充分な介護サービスの提供も困難になってきており、介護高齢者に対して必要な介護サービスを提供するだけではなく、できるだけ本人の潜在能力を引き出すことでより自立した生活を送ることを理学療法士として支援していく取り組みが求められている。 在宅生活において求められている自立生活支援サービスの現状を知り、生活に対応するために必要な広い知識を身につけより高い問題解決能力を有する在宅サービス指導を行うための基礎を身につける。
到達目標	1.自立生活支援の概念を理解する。 2.自立生活を支える要因を挙げることができる。 3.退院支援における患者・家族に対する指導ポイントについて理解する。 4.家屋環境整備や補装具の適応について理解を深める。 5.自立支援型介護サービスの在り方について考えることができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	調査レポートおよび事例レポート（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	参考書：鶴見隆正 「標準理学療法学　日常生活活動学・生活環境学　第 4 版」 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4,5	オリエンテーション：自立生活支援の概念とは（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3,4,5	現在の介護サービスの実態と自立支援の取り組み状況（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3,4,5	自立生活に必要な動作と能力（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4	1,2,3,4,5	自立に必要なセルフエフィカシーおよび自己管理能力についての評価（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
5	1,2,3,4,5	見守りと自立の境界および段階化についての考え方（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
6	1,2,3,4,5	退院支援の実際：家屋環境への介入①（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予

			備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
7	1,2,3,4,5	退院支援の実際：家屋環境への介入②（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8	1,2,3,4,5	退院支援の実際：患者・家族教育（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
9	1,2,3,4,5	自立支援のための補装具活用①（浅香）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
10	1,2,3,4,5	自立支援のための補装具活用②（浅香）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3,4,5	自立支援型介護サービスの在り方について（浅香）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3,4,5	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ①（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13	1,2,3,4,5	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ②（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
14	1,2,3,4,5	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ③（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3,4,5	まとめ（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	介護サービスの実態調査、家屋改修事例、訪問理学療法対応事例、補装具検討事例などについて調べ、レポート作成を行う。予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先　解良　E-mail：kera@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　　月曜 2 限、金曜 2 限		

科目名	地域リハマネージメント特論
英文名	Advanced Lecture on Manegement of Community-Based Rehabilitation
担当教員	中川　和昌、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	医療・介護総合確保法により、医療・介護の枠組みは大きく変わろうとしている。リハビリテーション専門職種として、これから構築されていく地域包括ケアシステムの中で、地域の課題を解決するためにどのように取り組み、連携していくのかについて広く知識をもち、地域社会に有益なサービスを提供するためのマネージメント能力を養う。
到達目標	1.医療・介護総合確保法を理解し、今後の医療・介護の流れを理解する。 2.行政システムについて知り、身近な地域のリハサービスの実情を把握する。 3.地域の課題を把握し、解決策を考えるための基礎を身につける。 4.リハビリテーション専門職種として行政に対するマネージメント能力を身につける。 5.リハビリテーション専門職種として地域住民に対するマネージメント能力を身につける。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	地域課題の調査レポート、実践レポート、情報収集方法に関するレポートなど（70%） 講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。
使用教材	参考書：鈴木隆夫 「完全版　介護予防マニュアル」法研

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,3	オリエンテーション：医療・介護総合確保法とこれからの医療・介護の方向性（田中）	【予習】自分の活躍する地域リハビリテーションの現状を調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえ，自分の活躍する地域において必要な知識・技術を考察する
2	2,3	行政による地域計画策定の流れおよび地域の課題（田中）	【予習】行政による地域計画策定の流れについて調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえ，自分の活躍する地域における課題について考察する
3	1,3	地域リハビリテーションサービスと多職種連携（田中）	【予習】多職種連携について自身の考えを発表できるように準備してくる 【復習】授業の内容を踏まえ，自分の活躍する地域における課題について考察する

4	3	地域の実情を把握するための情報収集（中川）	【予習】自分の活躍する地域の現状を調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえ，自分の活躍する地域の現状に関する理解を深める
5	4	行政に対するマネージメントの考え方（中川）	【予習】自分の活躍する地域の行政の活動状況について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえ，自分の活躍する地域の行政に関する理解を深める
6	3,5	地域の課題に対する対処法①（浅香）	【予習】自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
7	3,5	地域の課題に対する対処法②（浅香）	【予習】自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
8	3,5	地域の課題に対する対処法③（浅香）	【予習】自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
9	3,4	地域包括ケアサービスにおける対応①（中川）	【予習】地域包括ケアサービスに関して調べてくる 【復習】地域包括ケアサービスの中で，自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する
10	3,4	地域包括ケアサービスにおける対応②（中川）	【予習】地域包括ケアサービスに関して調べてくる 【復習】地域包括ケアサービスの中で，自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する
11	3,4	地域包括ケアサービスにおける対応③（中川）	【予習】地域包括ケアサービ

			スに関して調べてくる 【復習】地域包括ケアサービスの中で，自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する
12	3,5	地域住民に対するマネージメント：自助・互助の促進（吉田）	【予習】自助・互助の概念に関して調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する
13	3,5	地域住民に対するマネージメント：行動変容へのアプローチ（吉田）	【予習】行動変容に関して調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する
14	3,5	地域住民に対するマネージメント：活用すべきツールの開発（吉田）	【予習】地域住民に対するマネージメントにおいて，活用可能なツールに関して調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
15	1,2,3,4,5	まとめ（田中）	【予習】授業全体の内容を踏まえ，自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し，発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察する
備考	地域の実態調査や地域の課題の解決に関する調査を自主的に行いレポートにまとめる 予習時間：約 15 時間　復習時間：約 30 時間 オフィスアワー：中川　水曜　PM その他質問等はメールにて回答する：nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp		

科目名	障害評価・解析学特論
英文名	Advanced Lecture on Physical Therapy Evaluation and Analysis of Obstacle
担当教員	樋口　大輔、居村　茂幸、解良　武士、竹内　伸行、篠原　智行
時期・単位	1 年次　前期　選択　2　単位
講義目標	理学療法分野で用いられている様々な評価法および評価指標を整理し、障害の全体像を把握するためおよび個々の問題を解決するために必要な評価・解析方法について、より具体的に理解する。 問題解決のためには、病態を把握し問題となる原因を特定することが求められる。また、効果判定をより科学的に検証するために必要な要件について考え、新たな視点で評価・解析を行うための基盤を作る。
到達目標	1.既存の評価法を項目に分けて整理し、網羅的に把握する。 2.生活面の問題を評価するための指標を抽出できる。 3.自立支援に必要な評価指標について抽出できる。 4.病態把握し個別対応に生かせる評価指標について理解する。 5.効果判定を科学的に検証するために評価・解析方法が備えるべき要件の概要を理解する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	講義で指示された課題レポート（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについてコメントする。
使用教材	【参考書】内山靖「標準理学療法学　理学療法評価学　第 2 版」医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,4	オリエンテーション：問題解決型の評価・解析とは（居村）	【予習】特に必要としない。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
2	1,4	テーマ別の評価・解析方法の整理①内部障害系（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
3	1,4	テーマ別の評価・解析方法の整理②神経系（篠原）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
4	1,4	テーマ別の評価・解析方法の整理③運動器系（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
5	1,4	痛みの評価①（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
6	1,4	痛みの評価②（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直

			し、理解を深める。
7	5	臨床における動作解析①（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
8	5	臨床における動作解析②（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
9	2,3	生活面の問題に関する評価①内部障害系（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
10	2,3	生活面の問題に関する評価②神経系（篠原）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
11	2,3	生活面の問題に関する評価③運動器系（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
12	5	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件①（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
13	5	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件②（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
14	5	評価・解析方法の開発について（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
15	1,2,3,4,5	まとめ(居村)	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
備考	予習・復習の時間：15 回の講義の中で 60 時間を確保することとする。 この講義に関する質問への対応：科目責任者の樋口（higuchi-d@takasaki-u.ac.jp）が一括して受け、必要に応じて分担教員に引き継ぐ。 科目責任者のオフィスアワー：金曜 6・7 時限（要事前確認）		

科目名	臨床推論特論
英文名	Advanced Clinical Reasoning
担当教員	樋口　大輔、居村　茂幸、吉田　剛、解良　武士、竹内　伸行、中川　和昌
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	臨床問題の解決に向けた臨床思考過程の実際について、そこで必要となる基礎知識と事例検討を通してより具体的に理解する。これにより、臨床および地域リハビリテーション場面における様々な問題の原因を追究するための思考能力を養い、問題解決能力を高めていくことで臨床実践能力向上につなげていく。
到達目標	1.臨床の問題を解決するための臨床推論の思考過程について理解する。 2.臨床推論を進めるために必要な基礎知識について理解する。 3.具体的な臨床場面における事例を通して臨床に応用できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	事例ならびにその周辺知識に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたポートフォリオについてコメントする。
使用教材	【参考書】内山靖「症候障害学序説」文光堂

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2	オリエンテーション：臨床推論における思考過程について（居村）	【予習】特に必要としない。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
2	1,2	廃用症候群予防のための臨床推論①基礎知識（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
3	3	廃用症候群予防のための臨床推論②事例検討(居村)	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
4	1,2	基本動作の阻害因子と対処法①基礎知識（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
5	3	基本動作の阻害因子と対処法②事例検討－起居動作（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
6	3	基本動作の阻害因子と対処法③事例検討—歩行（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
7	1,2	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論①基礎知識（吉田）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。

			【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
8	3	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論②事例検討（吉田）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
9	1,2	認知症における問題行動と対処法①基礎知識（中川）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
10	3	認知症における問題行動と対処法②事例検討（中川）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
11	1,2	痛みの解決に向けた臨床推論①基礎知識（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
12	3	痛みの解決に向けた臨床推論②事例検討（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
13	1,2	転倒予防のための臨床推論①基礎知識（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
14	3	転倒予防のための臨床推論②事例検討（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
15	1,2	まとめ（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
備考	予習・復習の時間：15 回の講義の中で 60 時間を確保することとする。 この講義に関する質問への対応：科目責任者の樋口（higuchi-d@takasaki-u.ac.jp）が一括して受け、必要に応じて分担教員に引き継ぐ。 科目責任者のオフィスアワー：金曜 6・7 時限（要事前確認）		

科目名	理学療法実践学特論
英文名	Advanced Physical Therapy Practice
担当教員	解良　武士、居村　茂幸、吉田　剛、小林　勉、竹内　伸行、中川　和昌、樋口　大輔
時期・単位	1 年次　後期　選択　2　単位
講義目標	最新のエビデンスに基づく理学療法実践方法についての知識を身につけ、臨床における問題解決能力を高め、正しく解決方法を選択するための基礎を身につけ、臨床場面に生かす。
到達目標	1.各領域の理学療法実践のエビデンスについて最新の情報を身につける。 2.総合的な臨床実践能力を身につけ、臨床における問題解決能力が高まる。 3.個別性を考慮した評価に基づき、適切な実践方法の選択ができるようになる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	各分野の理学療法実践に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	参考書は、なるべく新しい情報が載っている各領域の理学療法実践書および論文を参考にする。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	オリエンテーション：リハビリテーション実践に関するエビデンス（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3	内部障害系理学療法①エビデンス（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3	内部障害系理学療法②実践方法 1（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4	1,2,3	内部障害系理学療法③実践方法 2（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
5	1,2,3	運動器系理学療法①エビデンス（小林）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
6	1,2,3	運動器系理学療法②実践方法 1（樋口）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
7	1,2,3	運動器系理学療法③実践方法 2（樋口）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。

			【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8	1,2,3	神経系理学療法①エビデンス（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
9	1,2,3	神経系理学療法②実践方法 1（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
10	1,2,3	神経系理学療法③実践方法 2（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3	誤嚥性肺炎予防に対するアプローチ（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3	認知症予防に対するアプローチ（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13	1,2,3	物理療法①（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
14	1,2,3	物理療法②（竹内）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3	まとめ（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	最新の情報を積極的に収集し、整理して、ポートフォリオを作成する。予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先　解良　E-mail：kera@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　　月曜 2 限、金曜 2 限		

科目名	地域リハビリテーション特論
英文名	Advanced Community-based Rehabilitation
担当教員	解良　武士、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一、中川　和昌、篠原　智行
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	医療と介護のしくみが変化しようとしている今、地域リハビリテーションは、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、地域住民に対して多岐にわたる対応が求められる重要なものとなっている。この講義では、地域リハビリテーションの理念と現状・課題を学習し、地域理学療法学研究および実践に必要な地域リハビリテーションに関する基礎知識、技術を会得し、応用できるようにする。そして、地域理学療法学研究で必要な課題を見つけることができるよう、実例を挙げながら実践学習をする。
到達目標	1.地域リハビリテーションの理念を説明できる。 2.地域リハビリテーションシステムの現状と問題点をしっかりと把握することができる。 3.地域における地域リハビリテーションサービスの現状と問題点を把握することができる。 4.地域作りに貢献する地域リハビリテーションの役割を説明できる。 5.地域リハビリテーションの中で取り組むべき地域理学療法の課題を見つけることができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度　50%　　レポート　50%
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	澤村　誠志　監修「地域リハビリテーション白書　地域包括ケア時代を見据えて（3）」三輪書店

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションの理念とこれまでの歴史（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3,4,5	行政による介護予防施策と地域リハビリテーション活動の実際（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3,4,5	これまでの健康増進への取り組みと今後の方向性（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4	1,2,3,4,5	これまでの疾病予防対策と今後の方向性（解良）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。【予習】 【復習】

5	1,2,3,4,5	日本におけるコミュニティーとしての地域作りの現状と国際比較（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
6	1,2,3,4,5	地域住民に対する啓発活動の現状（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
7	1,2,3,4,5	専門職者に対する地域リハビリテーション教育の現状と問題点（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションサービスにおける職種間連携の実際（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
9	1,2,3,4,5	地域リハビリテーション支援体制整備事業の地域（群馬県）における現状（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
10	1,2,3,4,5	通所サービスにおける現状と問題点（吉田）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3,4,5	訪問サービスにおける現状と問題点（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3,4,5	地域ケア会議の現状と問題点（中川）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13	1,2,3,4,5	地域連携クリティカルパスの現状と問題点（田中）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。

14	1,2,3,4,5	コストパフォーマンスを考えた地域リハビリテーションサービスの在り方（篠原）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションに従事する人材育成方法の在り方（浅香）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	自分の生活居住範囲にある、実際の地域理学療法の現状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が発言できるように準備すること。予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先　解良　E-mail：kera@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　　月曜 2 限、金曜 2 限		

科目名	地域理学療法学特論
英文名	Advanced Community-based Physical Therapy
担当教員	中川　和昌、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一、解良　武士
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	地域理学療法は、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、今や多岐にわたる重要なものとなっている。この講義では、地域理学療法実践に関して重要な知識を各論的に詳細に学習し、地域理学療法学研究で必要な研究計画、研究実践に望むことができるようにする。
到達目標	1.地域理学療法の現状と関わるために必要な基礎知識について理解することができる。 2.地域理学療法に関わる理学療法士の役割を説明できる。 3.各種の障がいに関する地域理学療法研究の動向を説明できる。 4.地域理学療法システムなどに関わる研究の動向についても理解することができる。 5.これからの地域理学療法の課題を広い視野で考えることができるようになる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	授業参加度・貢献度　50%　　レポート　50%
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。
使用教材	特に指定しない。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,5	地域理学療法に関わる理学療法士の現状と役割（浅香）	【予習】自分の専門分野において地域理学療法に関係する資料を抄読する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する
2	1,2,5	地域理学療法に必要な知識と技術（浅香）	【予習】地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する
3	3,4,5	運動機能障がいに関わる地域理学療法研究の実際（中川）	【予習】運動機能障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
4	3,4,5	神経系障がいに対する地域理学療法研究の実際（吉田）	【予習】神経系障がいに関わ

			る地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
5	3,4,5	内部障害系障がいに対する地域理学療法研究の実際（解良）	【予習】内部障害系障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
6	3,4,5	高次脳機能障がいに関わる地域理学療法研究の実際（田中）	【予習】高次脳機能障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
7	3,4,5	認知症に関わる地域理学療法研究の実際（田中）	【予習】認知症に関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
8	3,4,5	疾病予防に関する研究の実際（田中）	【予習】疾病予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する
9	3,4,5	介護予防に関する研究の実際①（中川）	【予習】介護予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する

10	3,4,5	介護予防に関する研究の実際②（中川）	【予習】介護予防に関わるうえで自分が専門分野でどのように活躍できるか，発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
11	3,4,5	地域理学療法のシステムに関する研究の実際（中川）	【予習】地域理学療法のシステムに関して必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する
12	3,4,5	地域理学療法に関与する人材育成に関する研究の実際（中川）	【予習】地域理学療法に関与する人材育成を実施する上で必要だと考えられる知識・技術について，発表できるように準備する 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
13	3,4,5	地域理学療法の実践に関する研究の実際（中川）	【予習】地域理学療法のシステム，人材育成の内容を踏まえ，実際の実践を科学的に評価する上で必要だと考えられる知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する
14	1,4,5	福祉用具開発に関する研究の実際（浅香）	【予習】福祉用具開発に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる 【復習】授業の内容を踏まえて，自分の地域でどのような活動が必要かを考察する
15	2,5	これからの地域理学療法学（浅香）	【予習】授業全体の内容を踏まえ，自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し，発表できるように準備する

			【復習】授業の内容を踏まえて，自分の地域でどのような活動が必要かを考察する
備考	自分の生活居住範囲にある、実際の地域の現状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が言えるようにすること。 オフィスアワー: 中川 水曜 PM その他質問等はメールにて回答する: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp		

科目名	地域リハビリテーション演習
英文名	Seminar：Advanced Community-based Rehabilitation
担当教員	中川　和昌、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一、解良　武士、篠原　智行
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	この演習では、地域リハビリテーション特論で学習した知識を生かし、各自の研究課題までの過程を踏み、進行させていく。地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法領域で貢献できる研究ができるようにテーマを抽出する。
到達目標	1.明確に興味ある研究内容を説明できる。 2.地域リハビリテーションに関する問題点の討論ができる。 3.地域リハビリテーションに対する適切な情報収集ができる。 4.エビデンスに裏付けされた発表と討論ができる。 5.地域理学療法の課題を見出すことができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	発表および発表用資料　100%
課題に対するフィードバック	提出された発表用資料および発表内容に関してコメントする。
使用教材	特に指定しない。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1 2	1, 2	地域リハビリテーションで各自が興味のある点の発表と討論 2018 年 4 月 11 日	【予習】地域リハビリテーションで各自が興味のある点に関して発表準備をする。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
3 4	3, 4	地域リハビリテーション研究の関連文献の収集演習	【予習】自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する 【復習】授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する
5 6	3, 4	地域理学療法学研究の最新情報の収集演習	【予習】関連する文献を読み情報収集する 【復習】授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する
7 8 9	5	地域リハビリテーション活動への参加（実習）	【予習】実習に当たって必要な情報を収集する 【復習】実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。

10	2, 5	活動参加報告会	【予習】発表のための準備をする 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
11 12	1,2,3,4,5	各自が興味のある問題に対する情報収集を行い発表	【予習】自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する 【復習】授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する
13 14 15	1,2,3,4,5	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出	【予習】地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する 【復習】授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する
備考	学術報告に向けて積極的に授業が活用できるよう、明確な疑問点を準備して授業に臨むこと。 オフィスアワー: 中川 水曜 PM その他質問等はメールにて回答する: nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp		

科目名	地域理学療法学演習
英文名	Seminar：Advanced Community-based Physical Therapy
担当教員	解良　武士、浅香　満、吉田　剛、田中　聡一、中川　和昌、篠原　智行
時期・単位	1 年次　後期　必修　2　単位
講義目標	この演習では、特論で学習した知識を生かし、各自の研究課題遂行の過程を踏み、実行する。地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法学領域で貢献できる研究ができるようにする。
到達目標	1.適切な研究課題を掲げられる。 2.研究遂行に最もふさわしい、研究計画がたてられるようにする。 3.最も適切な研究実行ができる。 4.研究データを適切に解析できる。 5.研究成果を適切に報告できる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	各段階における発表用資料および発表　100%
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	特に指定しない。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3,4,5	地域理学療法における問題の抽出（ブレインストーミング）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3,4,5	地域理学療法における問題の抽出（問題点の整理）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3,4,5	問題についての文献的考察	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4			
5	1,2,3,4,5	研究で使用する評価項目の提案	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
6			
7	1,2,3,4,5	研究計画の概要の提示と説明	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8			
9	1,2,3,4,5	仮説検証および測定手順などの検証	【予習】関連文献を抄読し予

10			備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3,4,5	研究計画のプレ発表会(準備)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3,4,5	研究計画のプレ発表会	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13 14	1,2,3,4,5	研究計画の修正	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3,4,5	研究計画発表会	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	発表に向けて積極的に授業が活用できるよう、自分の疑問点を整理し資料を準備して授業に臨む。 予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先　解良　E-mail：kera@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　　月曜 2 限、金曜 2 限		

科目名	**地域理学療法学特別研究**
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy
担当教員	解良　武士
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	✓　研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	研究計画書（20%）　修士論文（60%）　研究報告における対応・態度（20%）
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。
使用教材	特に指定しない
講義内容	4　～5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6　～9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月　修士論文作成と発表
	予習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
	復習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先　解良　E-mail：kera@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　月曜 2 限、金曜 2 限

科目名	**地域理学療法学特別研究**		
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy		
担当教員	中川　和昌		
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位		
講義目標	自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。 また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。 さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。		
到達目標	1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。 2.研究計画書を作成することができる。 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。 5.研究成果について報告・討論することができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究計画書（20%）　修士論文（60%）　研究報告における対応・態度（20%）		
課題に対するフィードバック	各自の研究計画・発表に合わせて、適宜実施する。		
使用教材	特に指定しない		
講義内容	4　～5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6　～9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月　修士論文作成と発表		
	予習	各自の研究計画・発表に合わせて準備する	期間中適宜
	復習	各自の研究計画・発表に合わせて実施する	期間中適宜
備考	研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。 また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。 オフィスアワー:　中川　水曜　PM その他質問等はメールにて回答する:　nakagawa-ka@takasaki-u.ac.jp		

科目名	**地域理学療法学特別研究**		
英文名	Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy		
担当教員	田中 聡一		
時期・単位	1 年次 前期 必修 8 単位		
講義目標	自身が決定した研究テーマに関する過去の報告、最新研究の実情を取得し、それらを自身の研究に生かして研究計画立案、研究実施、データ解釈、考察ができ、適切な方法で研究成果を発表する。		
到達目標	1.自身の研究に関連する知識を説明できる。 2.適切なデータ解析ができる。 3.プレゼンテーションと学術論文による研究成果の報告ができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	研究成果（100%）		
課題に対するフィードバック	指導教員との複数回のディスカッション。		
使用教材	特に指定しない		
講義内容	4 ～5 月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6 ～9 月 研究実施 10 月 中間発表会 10～11 月 結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月 修士論文作成と発表		
	予習	研究前に必要な準備を丹念に確認する	期間中適宜
	復習	研究ノートを作製し、短期、長期目標を確認、検討、修正する	期間中適宜
備考	研究テーマの決定、計画の立案、研究の実践、結果のまとめと解析、考察、研究成果発表など指導教員と常にコンタクトをとりながら進行すること。指導教員とのディスカッションは欠かさないこと。オフィスアワーは月曜日 6 限目前後で、メール（stanaka@takasaki-u.ac.jp）等で連絡の上、学習に関する質問は随時受けつける。		

科目名	臨床理学療法学特論Ⅰ
英文名	Advanced Clinical Physical Therapy Ⅰ
担当教員	竹内　伸行、居村　茂幸、吉田　剛、小林　勉、樋口　大輔
時期・単位	1 年次　前期　必修　2　単位
講義目標	臨床の理学療法場面において用いられている評価指標の開発に関する方法論を学び、臨床における問題解決や効果判定に生かすための評価指標つくりを行うための基礎を身につける。 特に、帰結評価として用いるべき評価項目は何かについて、機能障害・能力障害面の評価による効果判定を踏まえて、さらに生活自立度、QOL 向上、医療経済への影響についても広い視点をもって考える機会を得る。 これにより、既存の評価指標を踏まえて、新しい評価指標を開発するための基礎を身につける。
到達目標	1.評価指標の開発手順について文献を通して理解する。 2.病態を把握するための臨床評価項目の構成要素について理解する。 3.効果判定をするための帰結評価の現状を把握し、新規評価の必要性を考えることができる。 4.生活自立度、QOL の向上に対する評価の視点について理解する。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観
	✓　高度な実践力
	研究能力
	✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	事例文献のポートフォリオの作成、新たな評価法開発についてのレポート（70%）、 講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。
使用教材	参考書：内山靖「標準理学療法学　理学療法評価学　第 2 版」 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1,2,3	オリエンテーション：臨床理学療法における問題分析の方法（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
2	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（内部障害系）①（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
3	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（内部障害系）②（居村）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
4	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（運動器系）①（小林）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
5	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（運動器系）②（小林）	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。

6	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(神経系)①(竹内)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
7	1,2,3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例(神経系)②(竹内)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
8	1,2,3	効果判定のための帰結評価とその開発事例①:内部障害系(居村)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
9	1,2,3	効果判定のための帰結評価とその開発事例②:運動器系(樋口)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
10	1,2,3	効果判定のための帰結評価とその開発事例③:神経系(竹内)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
11	1,2,3,4	生活自立度向上に必要な評価構成要素(樋口)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
12	1,2,3,4	QOL 向上に必要な評価構成要素(樋口)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
13	1,2,3,4	障害予防に必要な評価構成要素(吉田)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
14	1,2,3,4	臨床場面における評価の視点から新しい評価法を考える(居村)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
15	1,2,3,4	まとめ(居村)	【予習】関連文献を抄読し予備知識を整理する。 【復習】知識の不足分を文献や配付資料により学習する。
備考	最新の評価方法に関する開発情報を広く収集し、その方法論について調べ、レポートにまとめる。また、自分の研究課題に関連する内容で新たな評価法の必要性について考え、まとめる。予習復習は 90 分以上行う必要がある。 担当教員連絡先　竹内　E-mail: ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　月曜 18:15～19:45(不在時はメールで問い合わせること		

科目名	臨床理学療法学特論Ⅱ
英文名	Advanced Clinical Physical TherapyⅡ
担当教員	樋口 大輔、居村 茂幸、吉田 剛、解良 武士、竹内 伸行
時期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位
講義目標	臨床の理学療法場面における介入研究について、最新の情報を整理すると同時に、問題解決につながる介入方法を検討するための基礎を身につける。さらに、介入研究を行う際にどのような準備が必要か、研究デザインの選択、介入効果の検証に用いる帰結評価の選定などについて、文献的に検証しながら、介入研究を行うための基礎的知識を身につける。
到達目標	1.最新の介入方法についてテーマごとに整理することができる。 2.介入研究論文から，研究手法を抽出し整理することができる。 3.介入方法を検討する過程を理解する。 4.問題解決に向けた介入研究の計画立案に必要な基礎知識を身につける。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	高度な実践力
	✓ 研究能力
	豊かな人間性と使命感
評価方法	介入研究に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	提出されたポートフォリオについてコメントする。
使用教材	参考書：内山靖「理学療法研究法 第 2 版」 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	4	オリエンテーション：臨床理学療法場面における介入方法の検討（居村）	【予習】特に必要としない。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
2	1,2	最新の整形外科領域に対する理学療法介入（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
3	1,2	最新の内部障害領域に対する理学療法介入（解良）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
4	1,2	最新の疼痛に対する治療法（樋口）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
5	1,2	最新の痙縮に対する治療法（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
6	1,2	最新の物理療法（竹内）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直

			し、理解を深める。
7	1,2	最新の嚥下障害に対する理学療法（吉田）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
8	1,2	ニューロリハビリテーション（吉田）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
9	3,4	新たな介入方法の開発とエビデンスの構築（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
10	3,4	臨床理学療法における介入研究のデザイン（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
11	3,4	臨床理学療法における介入研究のための準備（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
12	3,4	臨床理学療法における介入研究における効果判定①（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
13	3,4	臨床理学療法における介入研究における効果判定②（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
14	3,4	介入研究におけるエビデンス構築プロセス（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
15	4	まとめ（居村）	【予習】講義内容に関連する課題を事前に指示する。 【復習】講義内容をまとめ直し、理解を深める。
備考	予習・復習の時間：15 回の講義の中で 60 時間を確保することとする。 この講義に関する質問への対応：科目責任者の樋口（higuchi-d@takasaki-u.ac.jp）が一括して受け、必要に応じて分担教員に引き継ぐ。 科目責任者のオフィスアワー：金曜 6・7 時限（要事前確認）		

科目名	臨床理学療法学演習Ⅰ
英文名	Seminar Ⅰ：Advanced Clinical Physical Therapy
担当教員	千木良佑介、居村 茂幸、小林 勉、竹内 伸行、樋口 大輔、生方 瞳
時期・単位	1 年次 前期 必修 2 単位
講義目標	理学療法士の立場で臨床における問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確に評価するための評価指標の検討を行う。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当てて、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用する評価指標の選択および新たな開発の準備などについて学ぶ。
到達目標	1.臨床における問題点の抽出方法を理解し、各自の研究テーマにつなげて具体化することができる。 2.研究テーマに即した関連論文の考証を行い、広い視点をもって問題を概観することができる。 3.問題解決のためのアプローチの多様性を認識し、その中からテーマに会う方法を見出すことができる。 4.必要な評価指標を選択し、また新規に開発する必要性を理解できる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
課題に対するフィードバック	評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。
使用教材	参考書：内山靖「理学療法研究法 第 2 版」 医学書院

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション	【予習】自身の研究テーマを説明できるように準備する。 【復習】自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。
2 3 4	1,2	臨床における問題点の抽出	【予習】自身の臨床（研究）における問題点の抽出。 【復習】関連文献の考証。
5 6 7	1,2	関連文献考証	【予習】関連文献の準備。 【復習】関連文献を参考に補完学習する。
8 9 10	1,3	問題解決に必要な評価指標の検討	【予習】関連文献の準備。 【復習】関連文献を参考に補完学習する。
11 12	3,4	新しい評価指標の必要性の検討	【予習】関連文献の準備。 【復習】関連文献を参考に補完学習する。
13	1,3	問題の明確化：研究テーマの方向性	【予習】関連文献の準備。 【復習】関連文献を参考に補完学習する。
14	1,2,3	問題の全体像整理：関連文献の考証のまとめ	【予習】関連文献をもとに研究デザインを再考する。 【復習】参考文献を参考に補

			完学習する。
15	1,2,3,4	問題解決のための戦略:方法論に関する方向性	【予習】関連文献をもとに研究デザインを再考する。 【復習】参考文献を参考に補完学習する。
備考	予習・復習の時間:15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 各自の興味をもった分野に関する情報収集および資料の整理を行い、次回の発表用資料作成を行う。 ①オフィスアワー: 月曜日 13:00〜14:00、水曜日 16:00〜17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付: chigira@takasaki-u.ac.jp(千木良)		

科目名	臨床理学療法学演習Ⅱ
英文名	Seminar Ⅱ：Advanced Clinical Physical Therapy
担当教員	千木良佑介、居村 茂幸、小林 勉、竹内 伸行、樋口 大輔、生方 瞳
時期・単位	1 年次 後期 必修 2 単位
講義目標	臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進める。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行い、研究計画書を提出する。
到達目標	1.文献考証から、各自の研究課題に対してより具体的に問題解決方法を抽出することができる。 2.介入方法について多角的視点で検討し、科学的な手法を考えることができる。 3.予備検討などを行い介入方法の実現可能性や妥当性を検討することができる。 4.各自の研究に関する全体像を他者に分かるように論理的に表現することができる。 5.研究計画書を作成し、提出する事ができる。
学位授与方針との対応	✓ 幅広い学識と倫理観
	✓ 高度な実践力
	✓ 研究能力
	✓ 豊かな人間性と使命感
評価方法	研究計画書（70%）、各回の準備資料のポートフォリオ（20%）、講義参加度・貢献度（10%）
課題に対するフィードバック	介入方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。
使用教材	特に指定しない。

回数	該当する到達目標	講義内容	予習・復習
1	1	オリエンテーション	【予習】自身の研究テーマにおける問題点や評価方法について説明できるように準備する。 【復習】自律的に学習の必要のある事柄に対し確認しておく。
2	1,2	関連文献から介入方法に関する整理	【予習】関連文献考証。 【復習】指摘事項の再確認。
3	2,3	介入方法の提案	【予習】関連文献考証。 【復習】指摘事項や課題について再確認。
4			
5			
6	2,3	介入事例の検討	【予習】関連文献考証。 【復習】指摘事項や課題について再確認。
7			
8			
9	2,3,4	研究計画の提案	【予習】発表練習しておく。 【復習】指摘事項の確認。
10			
11	4,5	研究計画のプレ発表会（準備）	【予習】発表練習しておく。 【復習】指摘事項の確認。
12	4,5	研究計画のプレ発表会	【予習】発表練習しておく。 【復習】指摘事項の修正。
13	4,5	研究計画の修正	【予習】発表練習しておく。 【復習】指摘事項の修正。
14			

15	5	研究計画発表会	【予習】発表練習しておく。 【復習】指摘事項の確認・修正。
備考	予習・復習の時間:15 回の講義の中で 60 時間を確保する。 毎回の発表のための準備作業を行い、段階的に研究計画書の作成に取り組む。 ①オフィスアワー:　月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付:　chigira@takasaki-u.ac.jp（千木良）		

科目名	臨床理学療法学特別研究
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy
担当教員	居村　茂幸
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位
講義目標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。
到達目標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文（70%）　研究発表（30%）
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。
使用教材	使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。
講義内容	4～　5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～　9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～　1 月　修士論文の作成と発表
	予習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
	復習　研究プロセスに応じ授業中に課題を提示　期間中適宜
備考	設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先　E-mail: imura-s@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　火曜 14:45～18:00(不在時はメールで問い合わせること

科目名	臨床理学療法学特別研究			
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy			
担当教員	小林　勉			
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位			
講義目標	臨床理学療法学の分野における研究課題を設定し、独創的な研究を企画・実施する。研究結果の分析については統計学的手法を用い、科学的根拠に基づいた考察を展開して論文の体裁にまとめる。以上の過程を経験することにより学会発表および科学論文作成ができる能力を獲得する。			
到達目標	1.論文検索のスキルを習得する。 2.研究課題を立案し、研究計画を立てる。 3.科学的手法による研究の実施とデータの収集、整理ができる。 4.研究結果（データ）の解析と分析を行うことができる。 5.研究成果をまとめ、論文化する。			
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観		
	✓	高度な実践力		
	✓	研究能力		
	✓	豊かな人間性と使命感		
評価方法	修士論文（70%）　研究発表（30%）			
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。			
使用教材	医学的研究のデザイン　研究の質を高める疫学的アプローチ　第 3 版　訳 木原雅子／木原正博　メディカルサイエンス・インターナショナル			
講義内容	4～　5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～　9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～　1 月　修士論文の作成と発表			
	予習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示		期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示		期間中適宜
備考	・臨床現場における各計測機器使用法の習得。 ・設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先　E-mail:　kobayashi-t@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　月 9:00～10:30(不在時はメールで問い合わせること			

科目名	臨床理学療法学特別研究		
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy		
担当教員	千木良　佑介		
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位		
講義目標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。		
到達目標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	修士論文（70%）　研究発表（30%）		
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックを適時行い、プレゼンテーションや論文に対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。		
使用教材	特に指定しない。		
講義内容	4～　5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～　9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～　1 月　修士論文の作成と発表		
	予習	随時、課題に対し確認・理解し、研究・発表・論文作成の準備をしておく。	期間中適宜
	復習	課題に対し、研究に生かす部分と理解できなかった部分に対し再学習しておく。	期間中適宜
備考	予備検討、研究データ収集、データの整理、論文作成など、必要に応じて資料を作成し、ゼミで指導を受けられるように準備を行う。 ①オフィスアワー:　月曜日 13:00～14:00、水曜日 16:00～17:00、5 号館 5 階 504 研究室 ②メール受付:　chigira@takasaki-u.ac.jp（千木良）		

科目名	臨床理学療法学特別研究		
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy		
担当教員	竹内　伸行		
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位		
講義目標	臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。		
到達目標	1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。 4.測定データを科学的に解析できる。 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	修士論文（70%）、研究発表（30%）		
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。 ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。 ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。		
使用教材	使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。		
講義内容	4～ 5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～ 9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～ 1 月　修士論文の作成と発表		
	予習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示	期間中適宜
	復習	研究プロセスに応じ授業中に課題を提示	期間中適宜
備考	設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。 ＜授業外学習の進め方＞ 1）研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。 2）理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。 担当教員連絡先　E-mail：ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp オフィスアワー　月曜 18：15～19：45(不在時はメールで問い合わせること)		

科目名	臨床理学療法学特別研究
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy
担当教員	半田　瞳
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位
講義目標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。
到達目標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。
学位授与方針との対応	✓　幅広い学識と倫理観 ✓　高度な実践力 ✓　研究能力 ✓　豊かな人間性と使命感
評価方法	修士論文（70%）　研究発表（30%）
課題に対するフィードバック	・研究計画書に関する作成資料についてコメントをつけ返却する。 ・論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。
使用教材	研究のプロセスに応じ資料を配布する
講義内容	4～　5 月　関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～　9 月　研究実施 10 月　中間発表会 10～11 月　結果のまとめ、データ解析 12～　1 月　修士論文の作成と発表
	予習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　適宜提示
	復習　研究プロセスに応じ授業時に課題を提示　適宜提示
備考	予備検討、研究データ収集、データの整理、論文作成など、必要に応じて資料を作成し、ゼミで指導を受けられるように準備を行う。 オフィスアワー：木曜 13:00～16:00

科目名	臨床理学療法学特別研究		
英文名	Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy		
担当教員	樋口　大輔		
時期・単位	2 年次　通年　必修　8　単位		
講義目標	エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。 この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。		
到達目標	1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。 5.研究論文を提出することができる。		
学位授与方針との対応	✓	幅広い学識と倫理観	
	✓	高度な実践力	
	✓	研究能力	
	✓	豊かな人間性と使命感	
評価方法	修士論文（70%）　研究発表（30%）		
課題に対するフィードバック	修士論文を上梓するまでに提出された一連の資料について逐次コメントする。		
使用教材	特に指定しない。		
講義内容	【大まかなスケジュール】 4～5 月：関連文献の抄読や最新研究の現状について討論 6～9 月：研究実施 10 月：中間発表会 10～11 月：結果のまとめ、データ解析 12～1 月：修士論文の作成と発表		
	予習	修士論文テーマに関する資料をまとめる。	期間中適宜
	復習	学修した内容を修士論文に反映させる。	期間中適宜
備考	この演習に関する問い合わせ先：樋口（higuchi-d@takasaki-u.ac.jp） オフィスアワー：金曜 6・7 時限（要事前確認）		